

第62图 SA1029 平·断面图

## 第62図土層注記

### EP1

- 1 暗灰黄色 (2.5Y4/2) シルト 粘質土を含む
- 2 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) シルト 粘質土を含む
- 3 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) シルト 粘質土を含む

### EP2

- 1 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) シルト 粘質土を含む
- 2 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト 粘質土を含む

### EP3

- 1 灰黄褐色 (10YR4/2) シルト 粘質土を含む
- 2 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) シルト 粘質土を含む
- 3 黄褐色 (2.5Y5/4) シルト 粘質土を含む

### EP4

- 1 黄褐色 (2.5Y5/4) シルト 粘質土を含む
- 2 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) シルト 粘質土を含む
- 3 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) シルト 粘質土を含む

### EP5

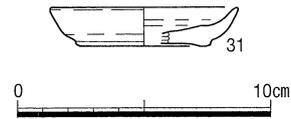
- 1 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) シルト 粘質土を含む
- 2 オリーブ褐色 (2.5Y4/6) シルト 粘質土を含む

### EP8

- 1 黄褐色 (2.5Y5/4) シルト 粘質土を含む
- 2 オリーブ褐色 (2.5Y4/6) シルト 粘質土を含む
- 3 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) シルト 粘質土を含む

### EP9

- 1 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) シルト 粘質土を含む
- 2 暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルト 粘質土を含む
- 3 黄褐色 (2.5Y5/3) シルト 粘質土を含む



第63図 SA1029EP3 出土遺物

掘立柱建物 (SA1030) (第64・65図)

検出場所 6区  $\gamma$ -IV・Q-19、20 および R-19、20 グリッド

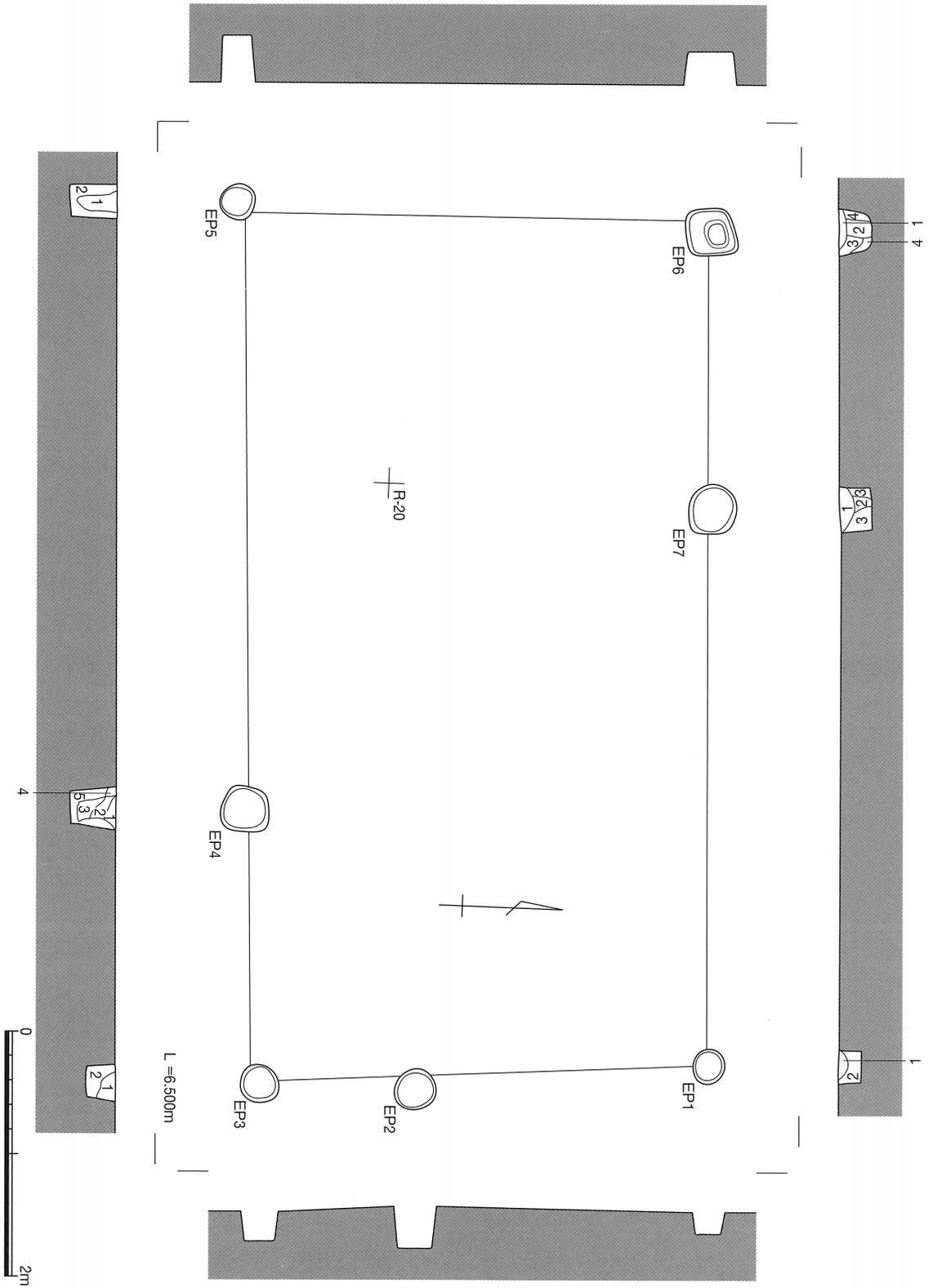
形態・規模 梁間2間 (3.88 m) × 桁行3間 (7.19 m)、床面積 27.90 $\text{m}^2$ の側柱建物である。建物の主軸方向は N88° E である。

土層 各柱穴の覆土はオリーブ褐色、暗灰黄色などのシルトで、粘質土を含む。2～5層に細分した。

遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

出土遺物 32は瓦器碗の口縁部小破片である。

時期 中世の可能性が高い。



第64图 SA1030 平·断面图

## 第64図土層注記

### EP1

- 1 黒褐色 (2.5Y3/2) シルト 粘質土を含む
- 2 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) シルト 粘質土を含む

### EP3

- 1 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) シルト 粘質土を含む
- 2 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) シルト 粘質土を含む

### EP4

- 1 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) シルト 粘質土を含む
- 2 暗褐色 (10YR3/4) シルト 粘質土を含む
- 3 暗灰黄色 (2.5Y4/2) シルト 粘質土を含む
- 4 暗灰黄色 (2.5Y4/2) シルト 粘質土を含む
- 5 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) シルト 粘質土を含む

### EP5

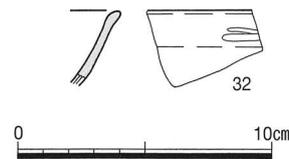
- 1 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) シルト 粘質土を含む
- 2 黄褐色 (2.5Y5/4) シルト 粘質土を含む

### EP6

- 1 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) シルト 粘質土を含む
- 2 黄褐色 (2.5Y5/3) シルト 粘質土を含む
- 3 暗灰黄色 (2.5Y4/2) シルト 粘質土を含む
- 4 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) シルト 粘質土を含む

### EP7

- 1 暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルト 粘質土を含む
- 2 暗灰黄色 (2.5Y4/2) シルト 粘質土を含む
- 3 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) シルト 粘質土を含む



第65図 SA1030EP4 出土遺物

## 掘立柱建物 (SA1031) (第66図)

検出場所 6区  $\gamma$ -IV・Q-20、R-20およびS-20グリッド

形態・規模 桁行3間 (5.77m) の側柱建物で、東側が調査区外のため、梁間の規模は不明。建物の主軸方向はN2°Eである。

土層 各柱穴の覆土は暗オリーブ褐色、黄褐色などのシルトで、粘質土を含む。2～4層に細分した。

遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

出土遺物 図化できる遺物は出土していない。

時期 同一遺構面の遺構の時期を考慮すると、中世の可能性が高い。

## 掘立柱建物 (SA1032) (第67図)

検出場所 6区  $\gamma$ -IV・R-20および $\gamma$ -V・R-1グリッド

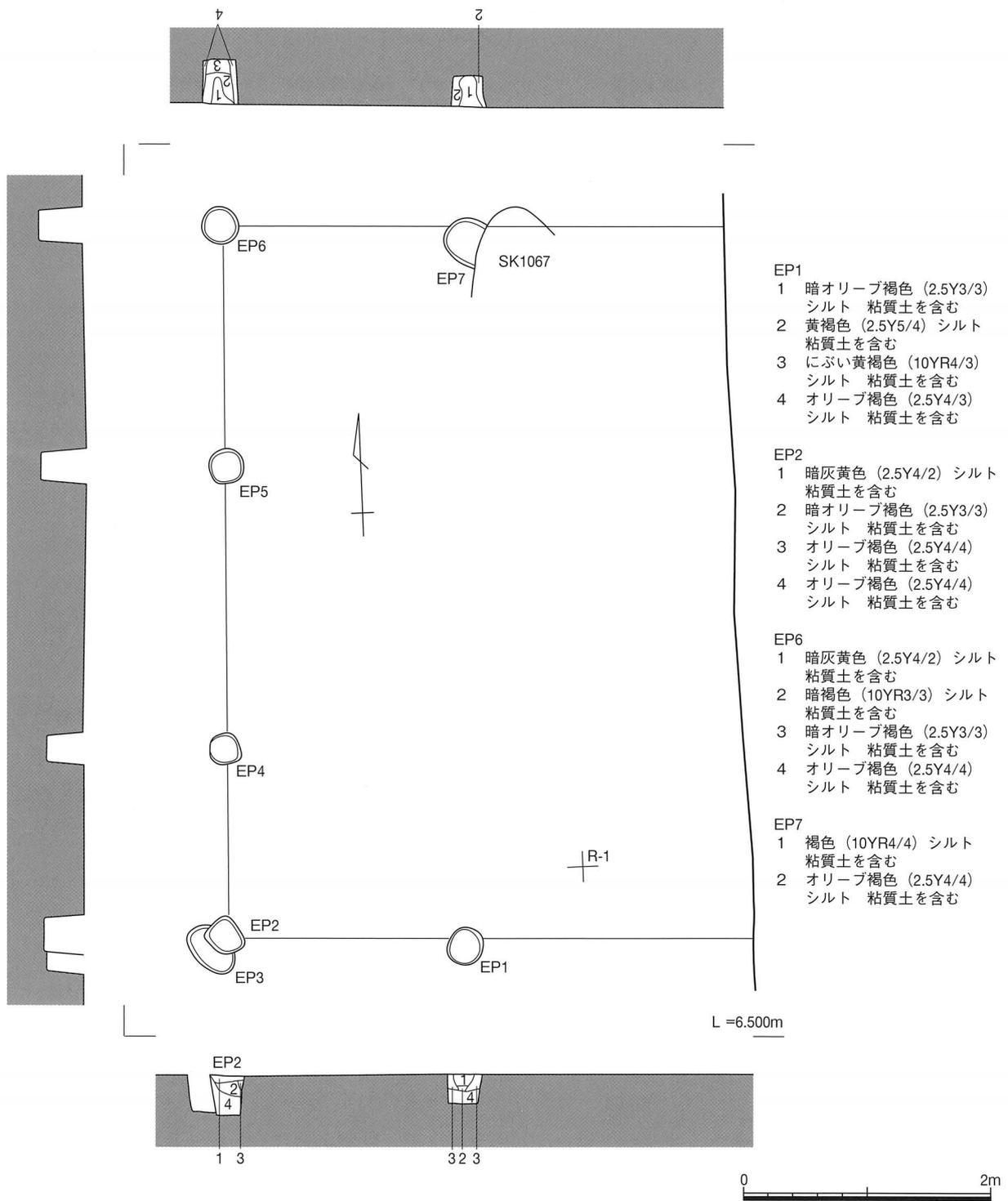
形態・規模 梁間2間 (2.95m) の側柱建物で、東側が調査区外のため、桁行の規模は不明。建物の主軸方向はN88°Wである。

土層 各柱穴の覆土は暗灰黄色、オリーブ褐色などのシルトで、粘質土を含む。2～5層に細分した。

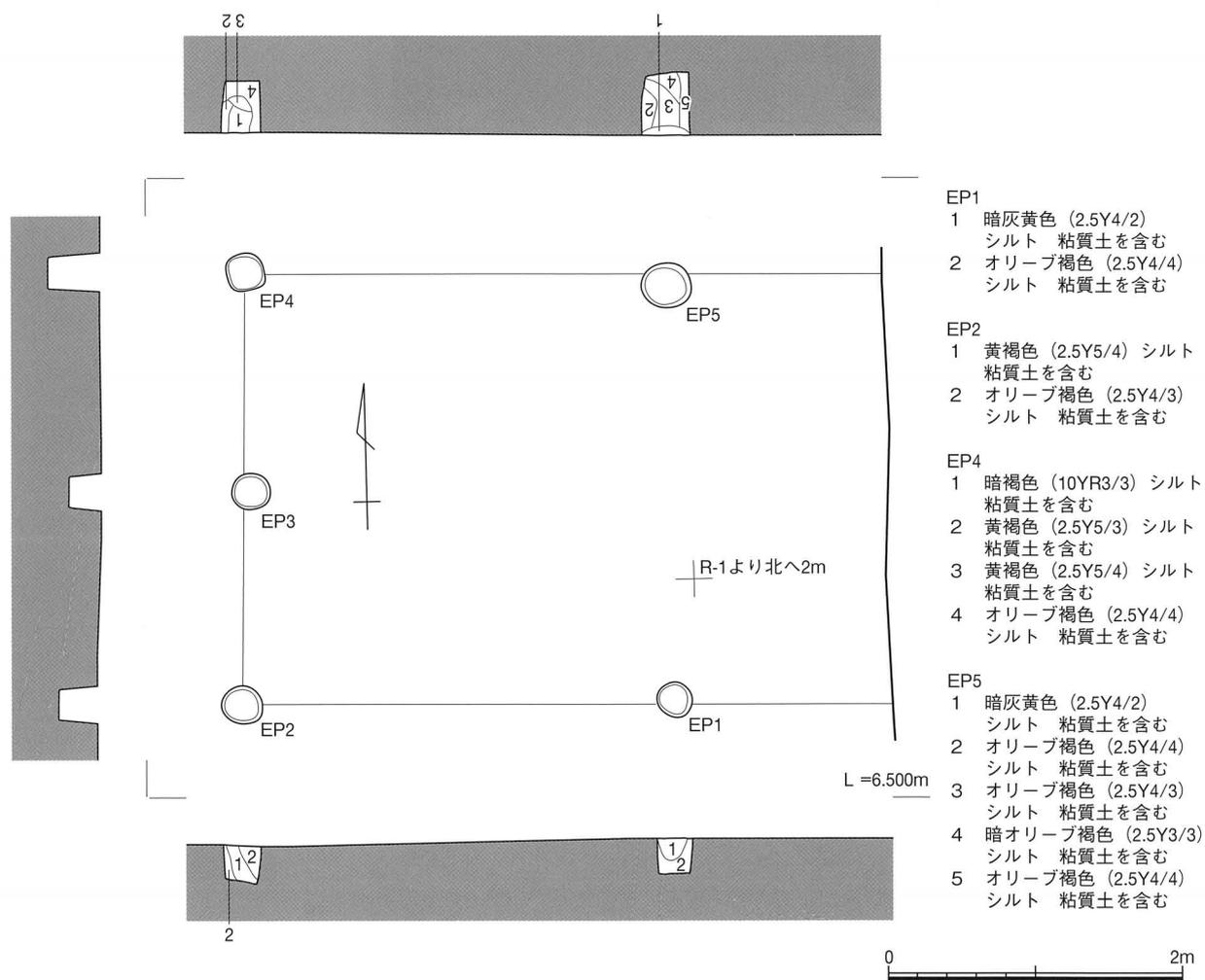
遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

出土遺物 図化できる遺物は出土していない。

時期 同一遺構面の遺構の時期を考慮すると、中世の可能性が高い。



第66図 SA1031 平・断面図



第67図 SA1032 平・断面図

掘立柱建物 (SA1033) (第68～72図)

検出場所 6区 γ-IV・R-19、20およびS-19、20グリッド

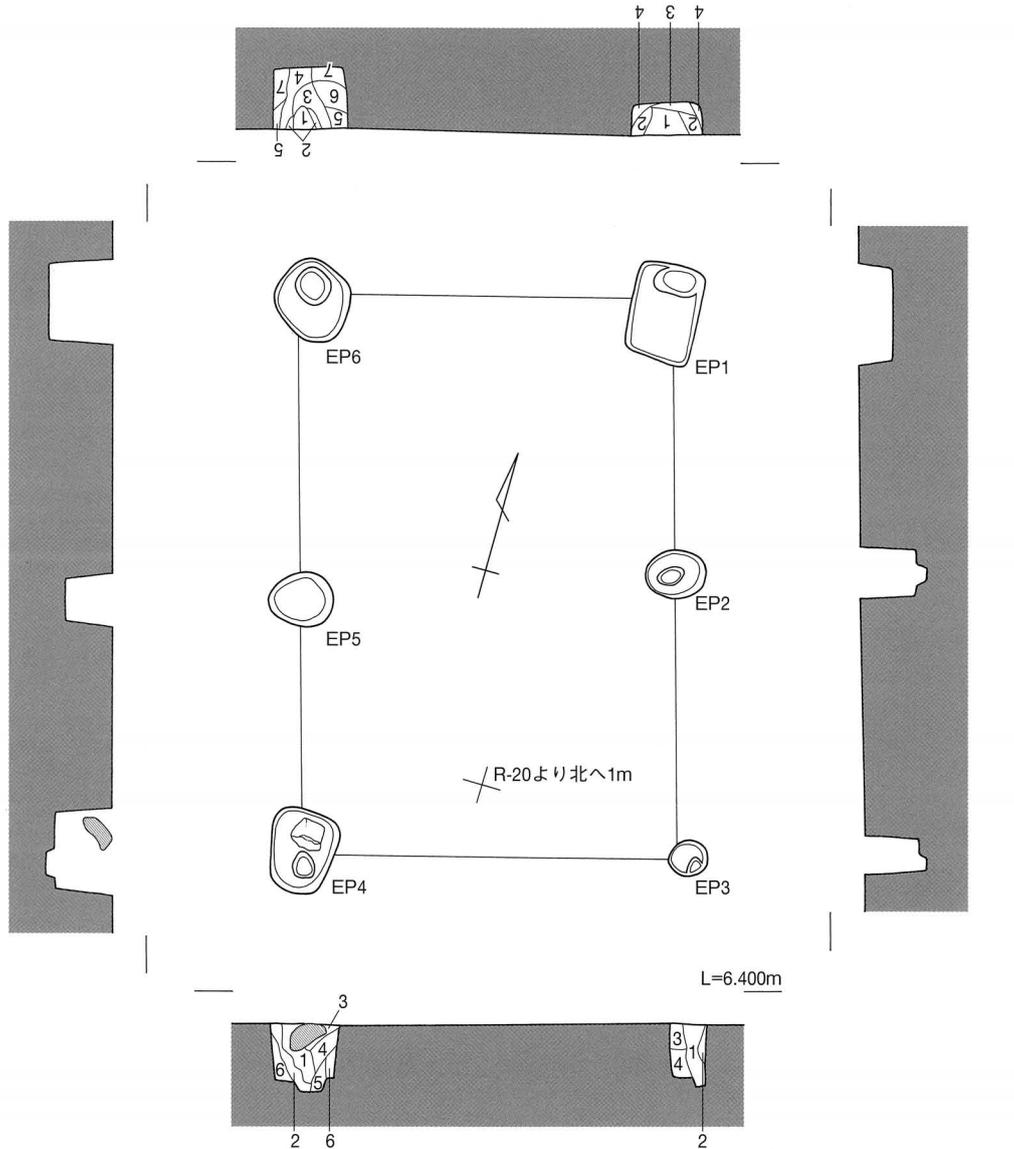
形態・規模 梁間1間(2.51m)×桁行2間(3.86m)、床面積9.69㎡の側柱建物である。建物の主軸方向はN18°Wである。

土層 各柱穴の覆土は暗灰黄色、暗オリーブ褐色などのシルトまたは粘性砂質土である。4～7層に細分した。

遺物出土状況 EP4の上層において、根石を確認した。EP1の1層中より土師質土器の鍋の口縁部が出土した。

出土遺物 33はEP1より出土した土師質土器の鍋である。34～36はEP2より出土した瓦器碗である。37はEP6より出土した土師器の皿、38は和泉型瓦器碗Ⅱ-2期からⅡ-3期である。

時期 12世紀後半と考えられる。



EP1

- 1 暗灰黄色 (2.5Y4/2) シルト 粘質土を含む
- 2 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) シルト 粘質土を含む
- 3 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) シルト 粘質土を含む
- 4 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) シルト 粘質土を含む

EP3

- 1 黒褐色 (2.5Y3/2) シルト 粘質土を含む
- 2 黄褐色 (2.5Y5/3) シルト 粘質土を含む
- 3 暗灰黄色 (2.5Y4/2) シルト 粘質土を含む
- 4 黄褐色 (2.5Y5/4) シルト 粘質土を含む

EP4

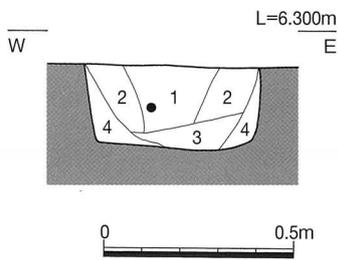
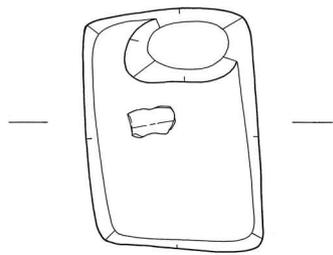
- 1 黄褐色 (2.5Y5/4) シルト 粘質土を含む
- 2 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) シルト 粘質土を含む
- 3 暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルト 粘質土を含む
- 4 黄褐色 (2.5Y5/3) シルト 粘質土を含む
- 5 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) シルト 粘質土を含む
- 6 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) シルト 粘質土を含む

EP6

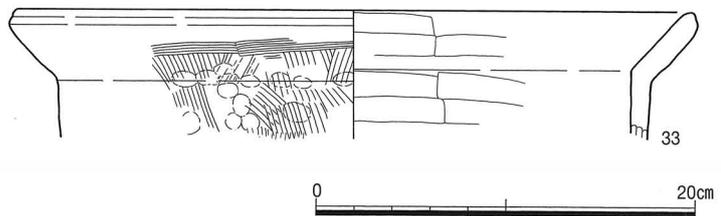
- 1 黒褐色 (2.5Y3/2) 粘性砂質土
- 2 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘性砂質土
- 3 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘性砂質土
- 4 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 粘性砂質土 焼土含む
- 5 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 粘性砂質土
- 6 黄褐色 (2.5Y5/4) 粘性砂質土
- 7 オリーブ褐色 (2.5Y4/6) 粘性砂質土



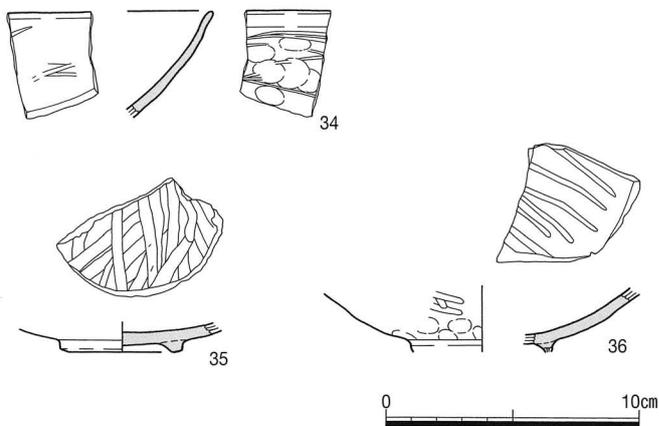
第68図 SA1033 平・断面図



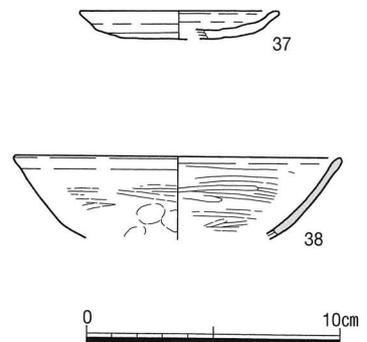
第69図 SA1033EP1 遺物出土状況図



第70図 SA1033EP1 出土遺物



第71図 SA1033EP2 出土遺物



第72図 SA1033EP6 出土遺物

掘立柱建物 (SA1034) (第73図)

検出場所 6区  $\gamma$ -IV・R-18、19およびS-18、19グリッド

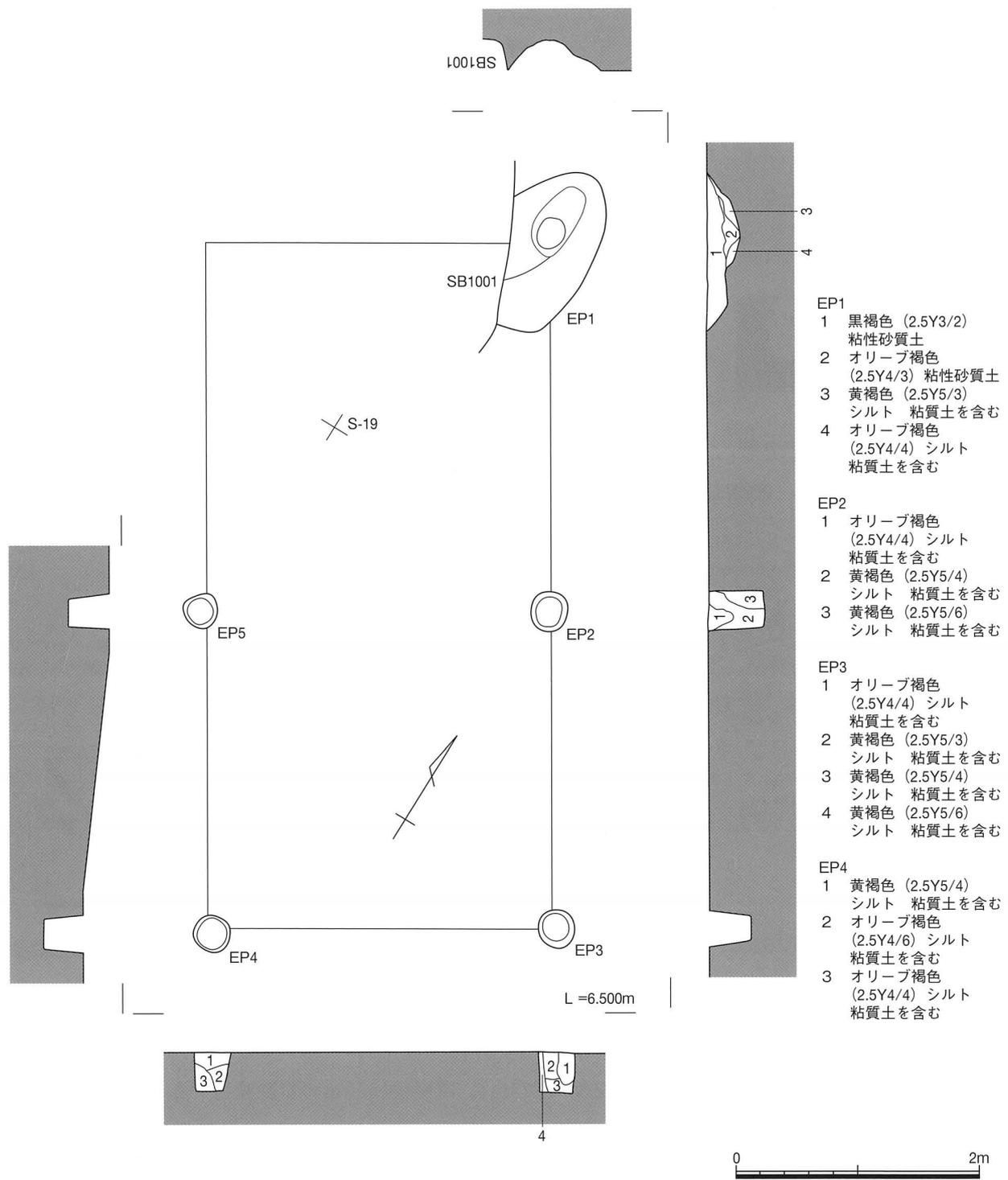
形態・規模 梁間1間(2.81m)×桁行2間(5.73m)、床面積16.10㎡の側柱建物である。建物の主軸方向はN32°Wである。

土層 各柱穴の覆土は黒褐色、オリーブ褐色などのシルトで、粘質土を含む。3～4層に細分した。

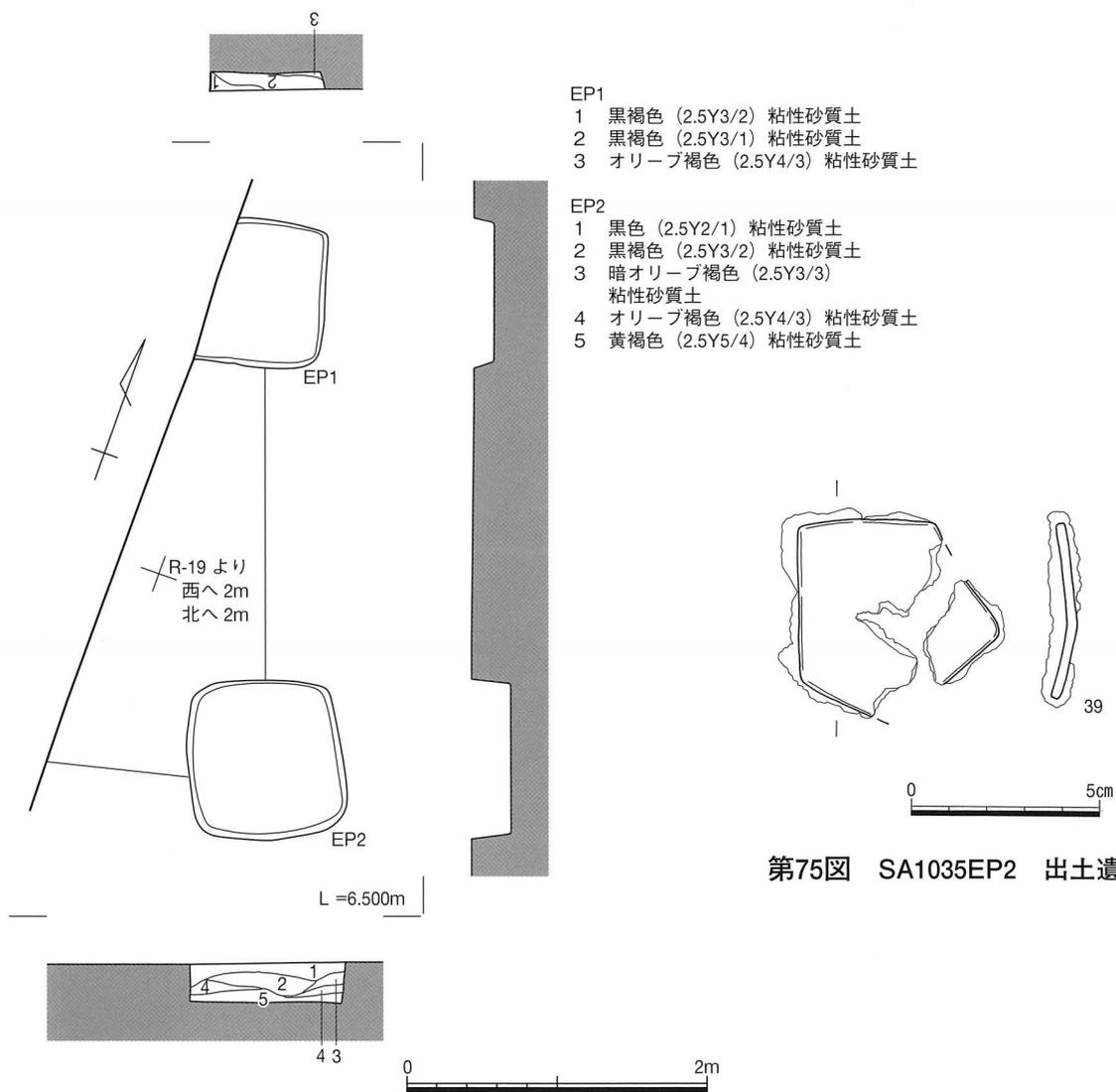
遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

出土遺物 図化できる遺物は出土していない。

時期 同一遺構面の遺構の時期を考慮すると、中世の可能性が高い。



第73図 SA1034 平・断面図



第75図 SA1035EP2 出土遺物

第74図 SA1035 平・断面図

掘立柱建物 (SA1035) (第74・75図)

検出場所 6区 γ-IV・R-18グリッド

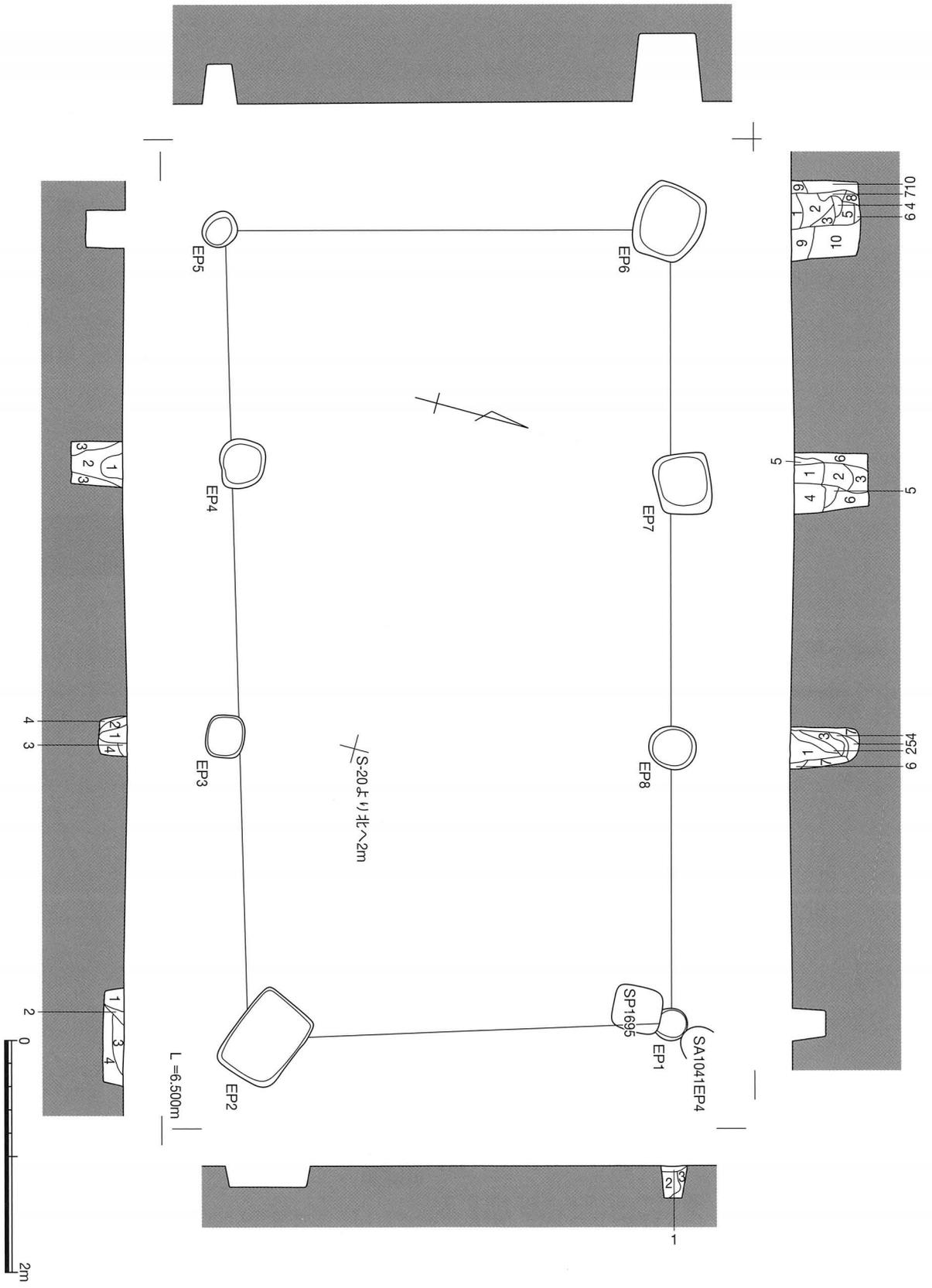
形態・規模 柱穴の平面形状が隅丸正方形で、柱穴間の距離が3.02mの側柱建物である。西側および北側が調査区外のため、梁間と桁行の規模は不明。建物の主軸方向はN70°Eである。

土層 各柱穴の覆土は黒色、黒褐色などのシルトで、粘質土を含む。3～5層に細分した。

遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

出土遺物 39は板状鉄製品である。

時期 同一遺構面の遺構の時期を考慮すると、中世の可能性が高い。



第76图 SA1036 平·断面图

## 第76図 土層注記

### EP1

- 1 暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルト 粘質土を含む
- 2 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) シルト 粘質土を含む
- 3 黄褐色 (2.5Y5/4) シルト 粘質土を含む

### EP2

- 1 黄褐色 (2.5Y5/4) シルト 粘質土を含む
- 2 暗灰黄色 (2.5Y4/2) シルト 粘質土を含む
- 3 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) シルト 粘質土を含む
- 4 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) シルト 粘質土を含む

### EP3

- 1 暗褐色 (10YR3/4) シルト 粘質土を含む
- 2 暗褐色 (10YR3/3) シルト 粘質土を含む
- 3 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト 粘質土を含む
- 4 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) シルト 粘質土を含む

### EP4

- 1 黄褐色 (2.5Y5/3) シルト 粘質土を含む
- 2 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) シルト 粘質土を含む
- 3 オリーブ褐色 (2.5Y4/6) シルト 粘質土を含む

### EP6

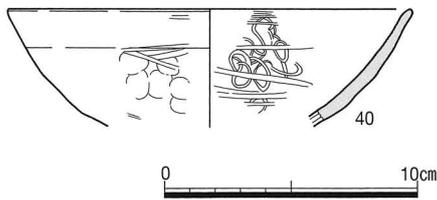
- 1 暗褐色 (10YR3/3) シルト 粘質土を含む
- 2 黒褐色 (2.5Y3/2) シルト 粘質土を含む
- 3 暗褐色 (10YR3/4) シルト 粘質土を含む
- 4 灰黄褐色 (10YR4/2) シルト 粘質土を含む
- 5 暗灰黄色 (2.5Y4/2) シルト 粘質土を含む
- 6 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) シルト 粘質土を含む
- 7 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト 粘質土を含む
- 8 黄褐色 (2.5Y5/4) シルト 粘質土を含む
- 9 オリーブ褐色 (2.5Y4/6) シルト 粘質土を含む
- 10 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) シルト 粘質土を含む

### EP7

- 1 黒褐色 (2.5Y3/2) シルト 粘質土を含む
- 2 暗灰黄色 (2.5Y4/2) シルト 粘質土を含む
- 3 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) シルト 粘質土を含む
- 4 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) シルト 粘質土を含む
- 5 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) シルト 粘質土を含む
- 6 にぶい黄褐色 (10YR5/4) シルト 粘質土を含む

### EP8

- 1 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト 粘質土を含む
- 2 暗褐色 (10YR3/3) シルト 粘質土を含む
- 3 黒褐色 (10YR2/3) シルト 粘質土を含む
- 4 黒褐色 (10YR2/2) シルト 粘質土を含む
- 5 灰黄褐色 (10YR4/2) シルト 粘質土を含む
- 6 灰黄褐色 (10YR4/2) シルト 粘質土を含む
- 7 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) シルト 粘質土を含む



第77図 SA1036EP2 出土遺物

掘立柱建物 (SA1036) (第76・77図)

検出場所 6区 γ-IV・R-19、S-18、19、20およびT-20グリッド

形態・規模 梁間1間(3.88m)×桁行3間(6.95m)、床面積26.97㎡の側柱建物である。建物の主軸方向はN73°Eである。

土層 各柱穴の覆土は暗灰黄色、オリーブ褐色などのシルトで、粘質土を含む。3～10層に細分した。

遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

出土遺物 40は和泉型瓦器碗Ⅲ-1期からⅢ-2期と考えられる。

時期 12世紀後半から13世紀前半と考えられる。

掘立柱建物 (SA1037) (第78図)

検出場所 6区  $\gamma$ -IV・S-19、20およびT-19グリッド

形態・規模 梁間1間(3.71m)×桁行2間(4.27m)、床面積15.84㎡の側柱建物である。建物の主軸方向はN22°Wである。

土層 各柱穴の覆土は、にぶい黄褐色、暗褐色などのシルトで、粘質土を含む。3～6層に細分した。

遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

出土遺物 図化できる遺物は出土していない。

時期 同一遺構面の遺構の時期を考慮すると、中世の可能性が高い。

掘立柱建物 (SA1038) (第79図)

検出場所 6区  $\gamma$ -IV・R-19、20、S-19、20およびT-19、20グリッド

形態・規模 梁間2間(4.53m)×桁行3間(5.65m)、床面積25.59㎡の側柱建物である。建物の主軸方向はN18°Wである。

土層 各柱穴の覆土は暗灰黄色、黄褐色などのシルトで、粘質土を含む。2～4層に細分した。

遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

出土遺物 図化できる遺物は出土していない。

時期 同一遺構面の遺構の時期を考慮すると、中世の可能性が高い。

掘立柱建物 (SA1039) (第80～83図)

検出場所 6区  $\gamma$ -IV・S、T-20および $\gamma$ -V・S、T-1グリッド

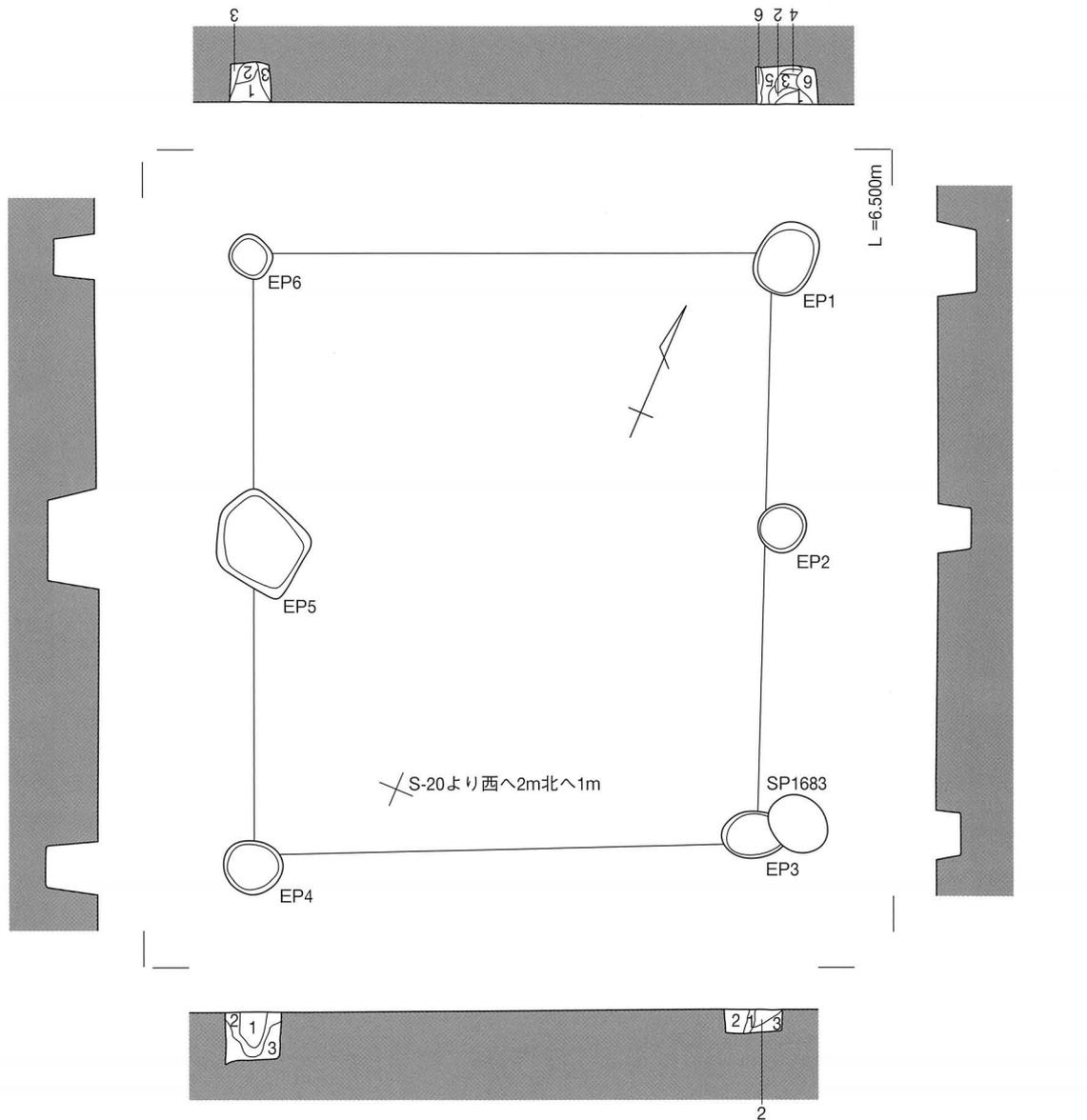
形態・規模 梁間2間(4.22m)×桁行2間(4.92m)、床面積20.76㎡の側柱建物である。建物の主軸方向は正方位の南北方向である。

土層 各柱穴の覆土は暗灰黄色、褐色などのシルトで、粘質土を含む。2～6層に細分した。

遺物出土状況 EP6の中層において根石を確認した。

出土遺物 41はEP6より出土した和泉型瓦器碗の口縁部破片である。Ⅲ-1期からⅢ-2期か。42はEP7から出土した敲石である。

時期 13世紀前半と考えられる。



EP1

- 1 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト 粘質土を含む
- 2 暗褐色 (10YR3/3) シルト 粘質土を含む
- 3 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) シルト 粘質土を含む
- 4 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) シルト 粘質土を含む
- 5 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト 粘質土を含む
- 6 褐色 (10YR4/4) シルト 粘質土を含む

EP3

- 1 暗褐色 (10YR3/3) シルト 粘質土を含む
- 2 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト 粘質土を含む
- 3 灰黄褐色 (10YR4/2) シルト 粘質土を含む

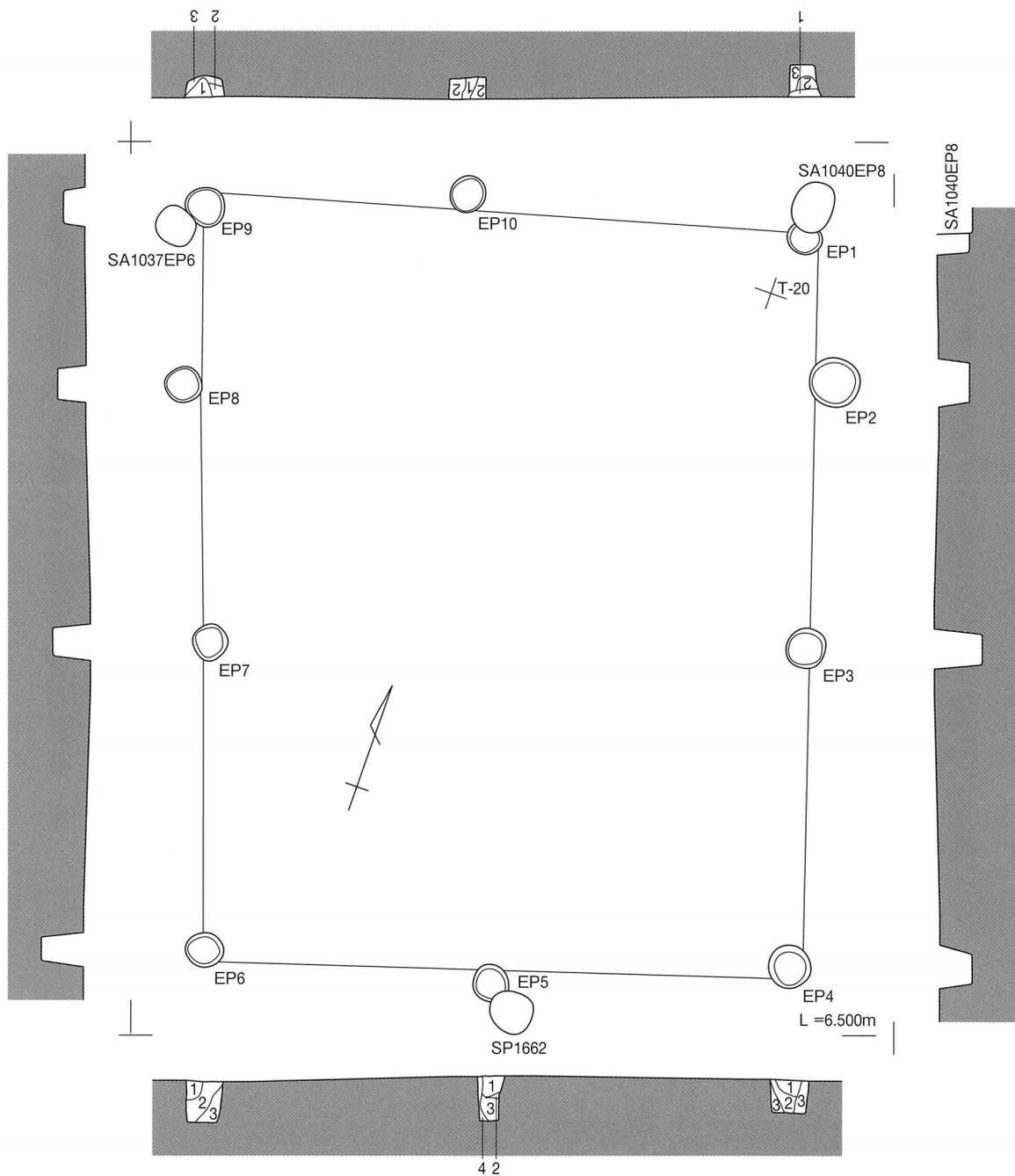
EP4

- 1 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) シルト 粘質土を含む
- 2 黄褐色 (2.5Y5/4) シルト 粘質土を含む
- 3 黄褐色 (2.5Y5/6) シルト 粘質土を含む

EP6

- 1 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) シルト 粘質土を含む
- 2 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) シルト 粘質土を含む
- 3 黄褐色 (2.5Y5/4) シルト 粘質土を含む

第78図 SA1037 平・断面図



- EP1  
 1 暗灰黄色 (2.5Y4/2) シルト 粘質土を含む  
 2 黄褐色 (2.5Y5/4) シルト 粘質土を含む  
 3 褐色 (10YR4/4) シルト 粘質土を含む

- EP4  
 1 暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルト 粘質土を含む  
 2 黄褐色 (2.5Y5/3) シルト 粘質土を含む  
 3 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) シルト 粘質土を含む

- EP5  
 1 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) シルト 粘質土を含む  
 2 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト 粘質土を含む  
 3 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) シルト 粘質土を含む  
 4 黄褐色 (2.5Y5/3) シルト 粘質土を含む

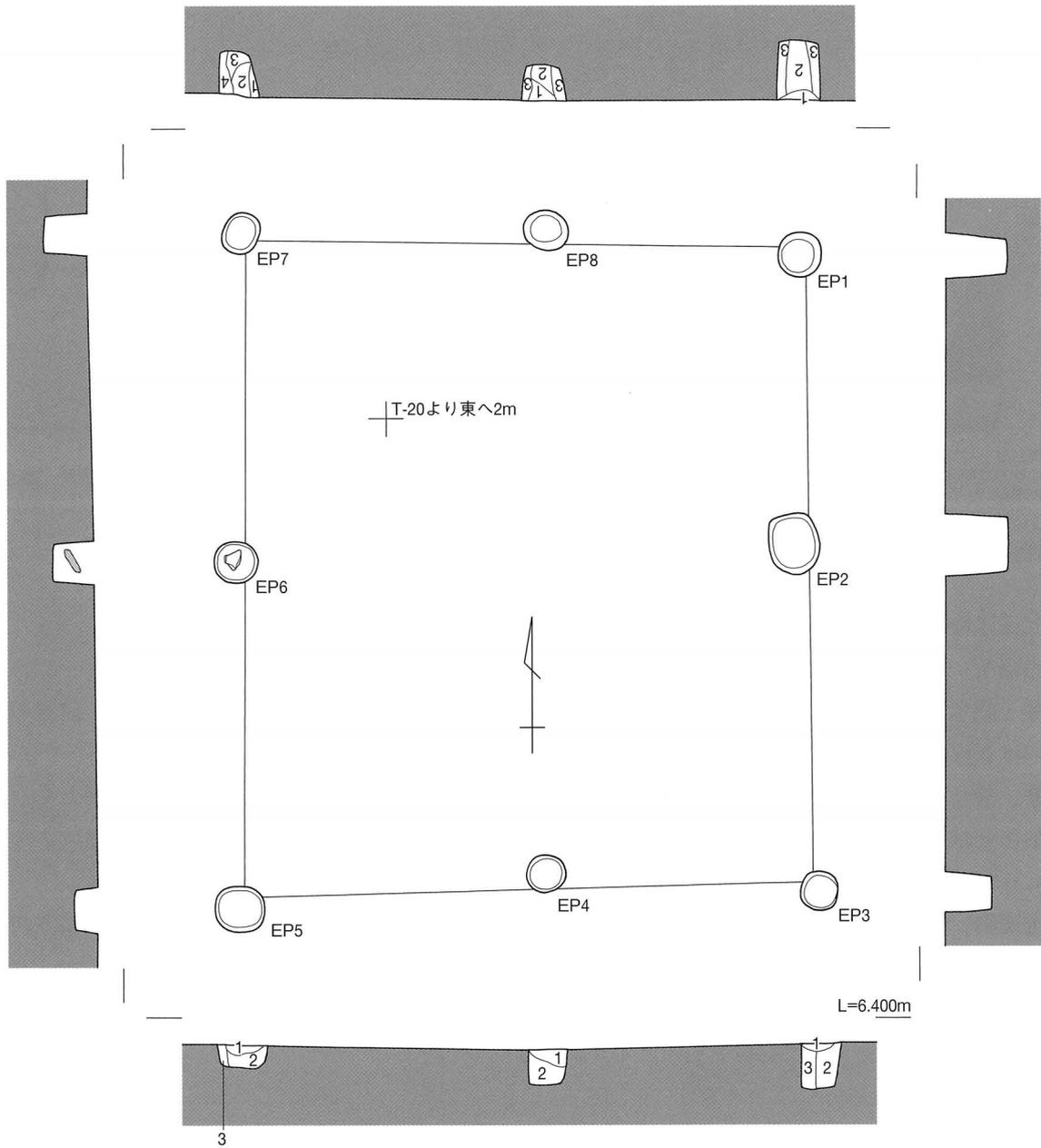
- EP6  
 1 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) シルト 粘質土を含む  
 2 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) シルト 粘質土を含む  
 3 オリーブ褐色 (2.5Y4/6) シルト 粘質土を含む

- EP9  
 1 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) シルト 粘質土を含む  
 2 オリーブ褐色 (2.5Y4/6) シルト 粘質土を含む  
 3 黄褐色 (2.5Y5/4) シルト 粘質土を含む

- EP10  
 1 オリーブ褐色 (2.5Y4/6) シルト 粘質土を含む  
 2 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) シルト 粘質土を含む



第79図 SA1038 平・断面図



EP1

- 1 暗灰黄色 (2.5Y4/2) シルト 粘質土を含む
- 2 褐色 (10YR4/4) シルト 粘質土を含む
- 3 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト 粘質土を含む

EP3

- 1 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) シルト 粘質土を含む
- 2 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) シルト 粘質土を含む
- 3 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) シルト 粘質土を含む

EP4

- 1 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) シルト 粘質土を含む
- 2 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) シルト 粘質土を含む

EP5

- 1 暗灰黄色 (2.5Y4/2) シルト 粘質土を含む
- 2 黄褐色 (2.5Y5/4) シルト 粘質土を含む
- 3 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) シルト 粘質土を含む

EP7

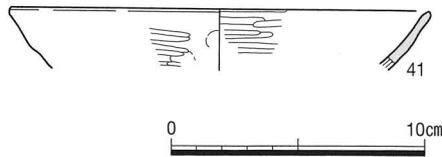
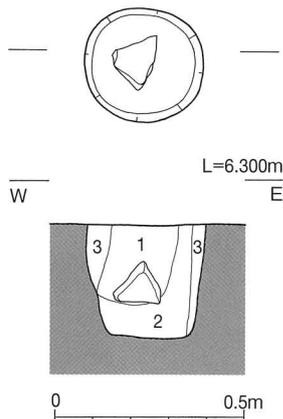
- 1 黄褐色 (2.5Y5/3) シルト 粘質土を含む
- 2 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) シルト 粘質土を含む
- 3 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) シルト 粘質土を含む
- 4 黄褐色 (2.5Y5/3) シルト 粘質土を含む

EP8

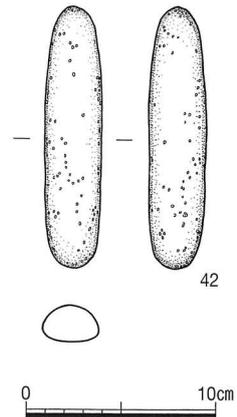
- 1 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト 粘質土を含む
- 2 暗褐色 (10YR3/3) シルト 粘質土を含む
- 3 黄褐色 (2.5Y5/4) シルト 粘質土を含む

0 2m

第80図 SA1039 平・断面図



第82図 SA1039EP6 出土遺物



第83図 SA1039EP7 出土遺物

- 1 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) シルト 粘質土を含む
- 2 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) シルト 粘質土を含む
- 3 黄褐色 (2.5Y5/4) シルト 粘質土を含む

### 第81図 SA1039EP6 遺物出土状況図

掘立柱建物 (SA1040) (第84～87図)

検出場所 6区 γ-IV・S-20、T-19、20およびγ-V・S-1グリッド

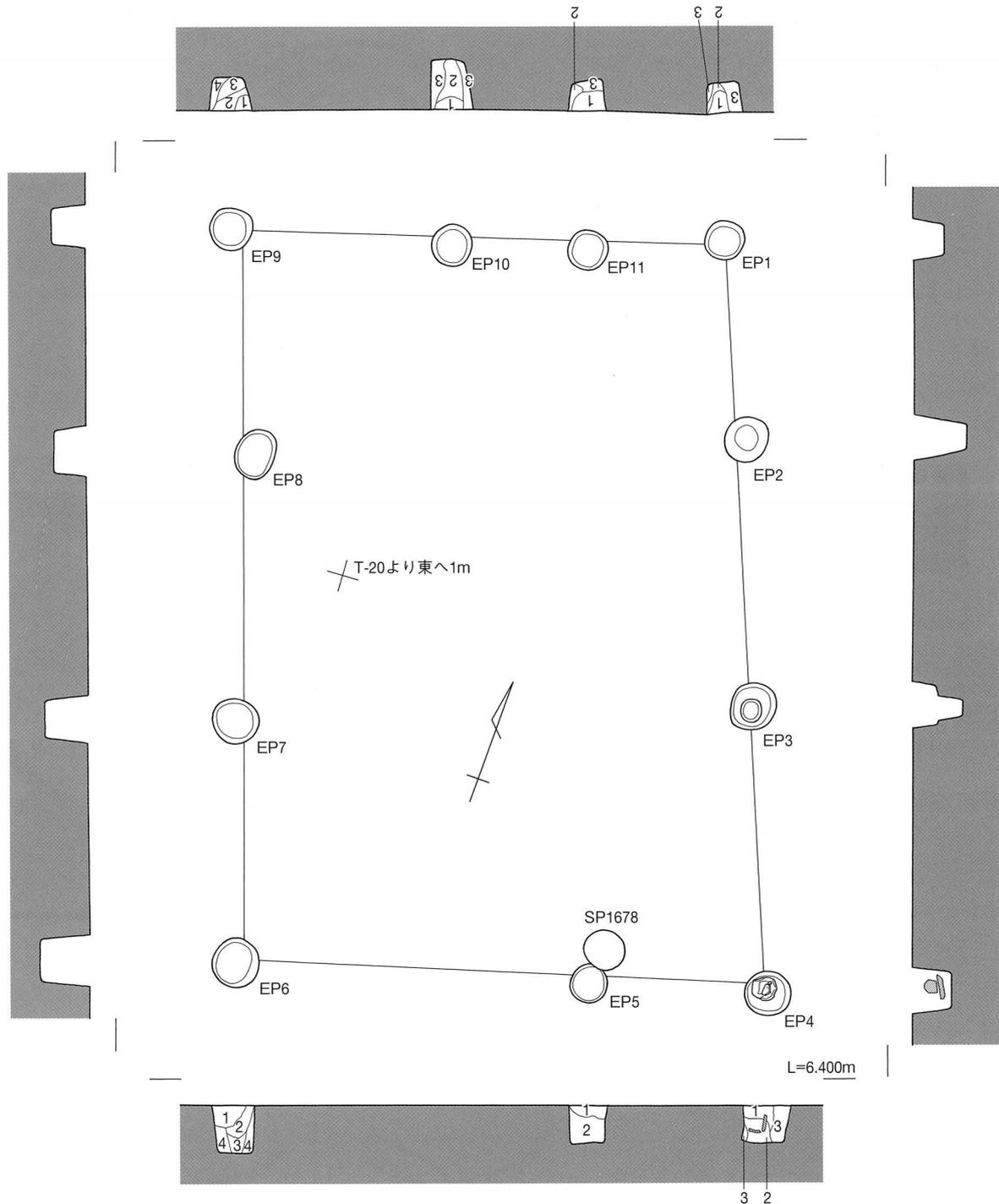
形態・規模 梁間3間(4.18m)×桁行3間(5.88m)、床面積24.58㎡の側柱建物である。建物の主軸方向はN17°Wである。

土層 各柱穴の覆土は褐色、にぶい黄褐色などのシルトで、粘質土を含む。2～7層に細分した。

遺物出土状況 EP4の2層下部において根石を確認した。EP8では1層において2ヶ所で遺物の集中が見られた。

出土遺物 43～47はEP8より出土した和泉型瓦器碗である。43は底部内面に平行四辺形の格子状の磨きが施される。Ⅱ-3期からⅢ-1期である。48は結晶片岩の周囲に二次加工を施したもので、石錘の可能性もある。縁辺に穿孔の痕跡が2ヶ所見られる。49は、EP10より出土した土師器の杯である。

時期 12世紀後半から13世紀前半ものと考えられる。



EP1

- 1 褐色(10YR4/4)シルト 粘質土を含む
- 2 褐色(10YR4/6)シルト 粘質土を含む
- 3 にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 粘質土を含む

EP4

- 1 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 粘質土を含む
- 2 にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 粘質土を含む
- 3 褐色(10YR4/4)シルト 粘質土を含む

EP5

- 1 黄褐色(2.5Y5/4)シルト 粘質土を含む
- 2 オリーブ褐色(2.5Y4/4)シルト 粘質土を含む

EP6

- 1 暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト 粘質土を含む
- 2 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)シルト 粘質土を含む
- 3 オリーブ褐色(2.5Y4/3)シルト 粘質土を含む
- 4 オリーブ褐色(2.5Y4/4)シルト 粘質土を含む

EP9

- 1 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 粘質土を含む
- 2 褐色(10YR4/4)シルト 粘質土を含む
- 3 にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 粘質土を含む
- 4 暗灰黄色(2.5Y5/2)シルト 粘質土を含む

EP10

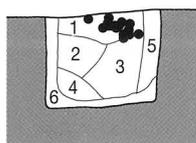
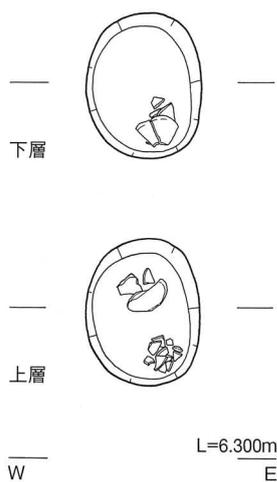
- 1 灰黄褐色(10YR4/2)シルト
- 2 暗褐色(10YR3/3)シルト
- 3 オリーブ褐色(2.5Y4/4)シルト 粘質土を含む

EP11

- 1 暗褐色(10YR3/3)シルト 粘質土を含む
- 2 にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 粘質土を含む
- 3 暗褐色(10YR3/4)シルト 粘質土を含む

第84図 SA1040 平・断面図

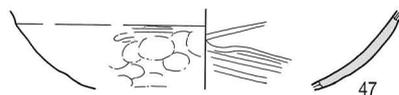
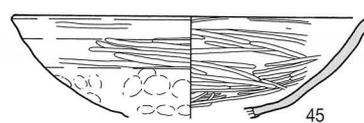
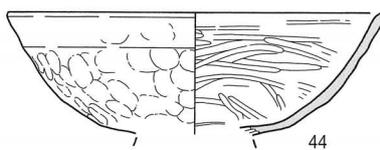
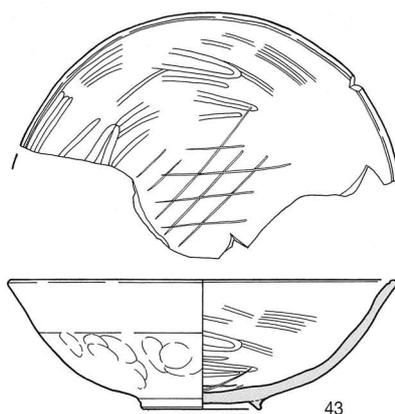
0 2m



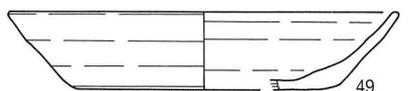
0 0.5m

- 1 黄灰色 (2.5Y4/1) シルト 粘質土を含む
- 2 暗灰黄色 (2.5Y4/2) シルト 粘質土を含む
- 3 暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルト 粘質土を含む
- 4 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト 炭化物・粘質土を含む
- 5 黄褐色 (2.5Y5/3) シルト 粘質土を含む
- 6 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) シルト 粘質土を含む

第85図 SA1040EP8 遺物出土状況図

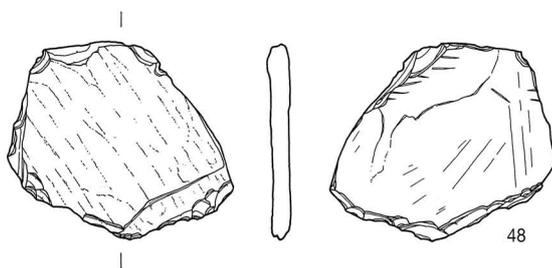


0 10cm



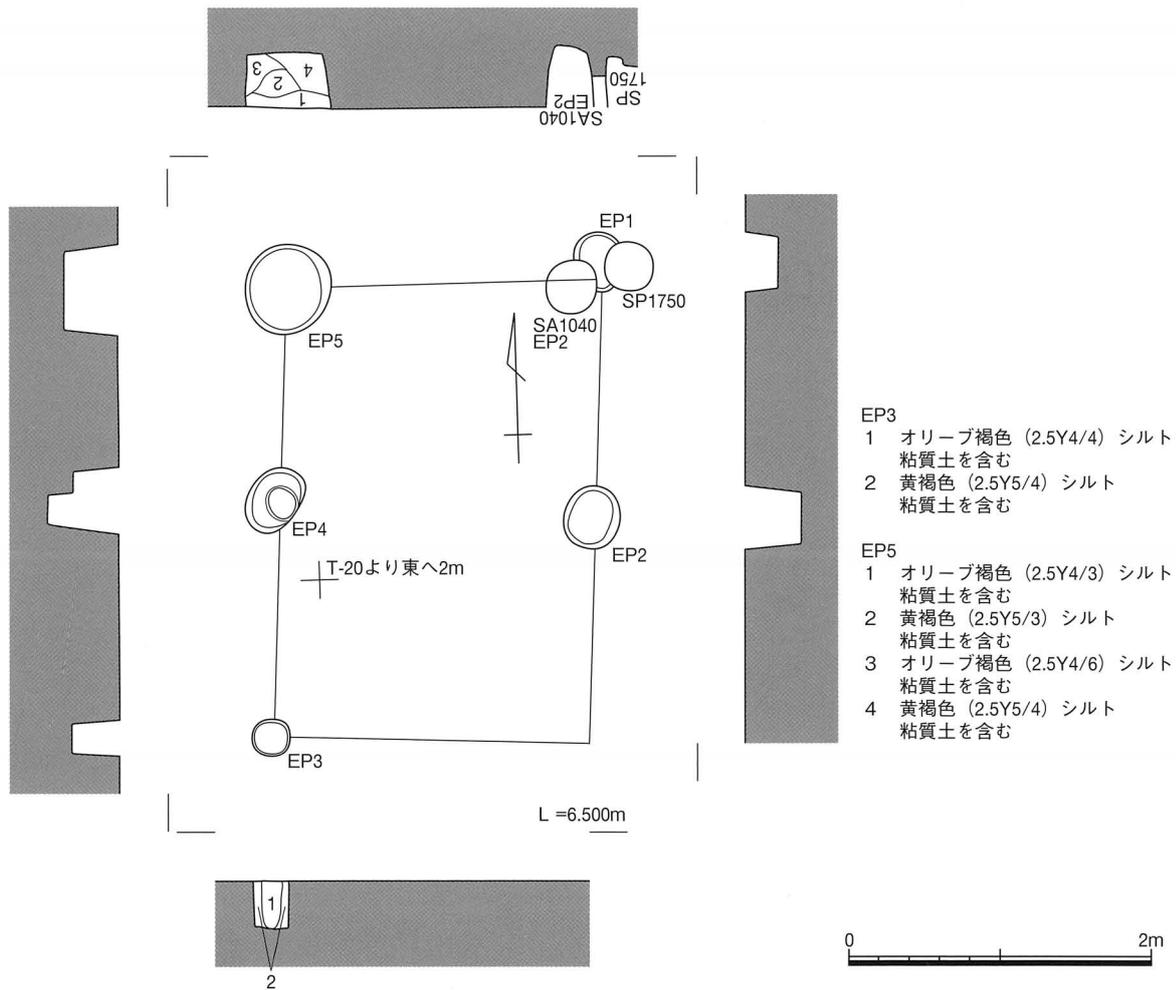
0 10cm

第87図 SA1040EP10 出土遺物



0 10cm

第86図 SA1040EP8 出土遺物



第88図 SA1041 平・断面図

掘立柱建物 (SA1041) (第88図)

検出場所 6区  $\gamma$ -IV・S-20およびT-20グリッド

形態・規模 梁間1間 (2.06m) × 桁行2間 (3.00m)、床面積6.18㎡の側柱建物である。建物の主軸方向はN 4° Eである。

土層 各柱穴の覆土はオリブ褐色、黄褐色などのシルトで、粘質土を含む。2～4層に細分した。

遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

出土遺物 図化できる遺物は出土していない。

時期 同一遺構面の遺構の時期を考慮すると、中世の可能性が高い。

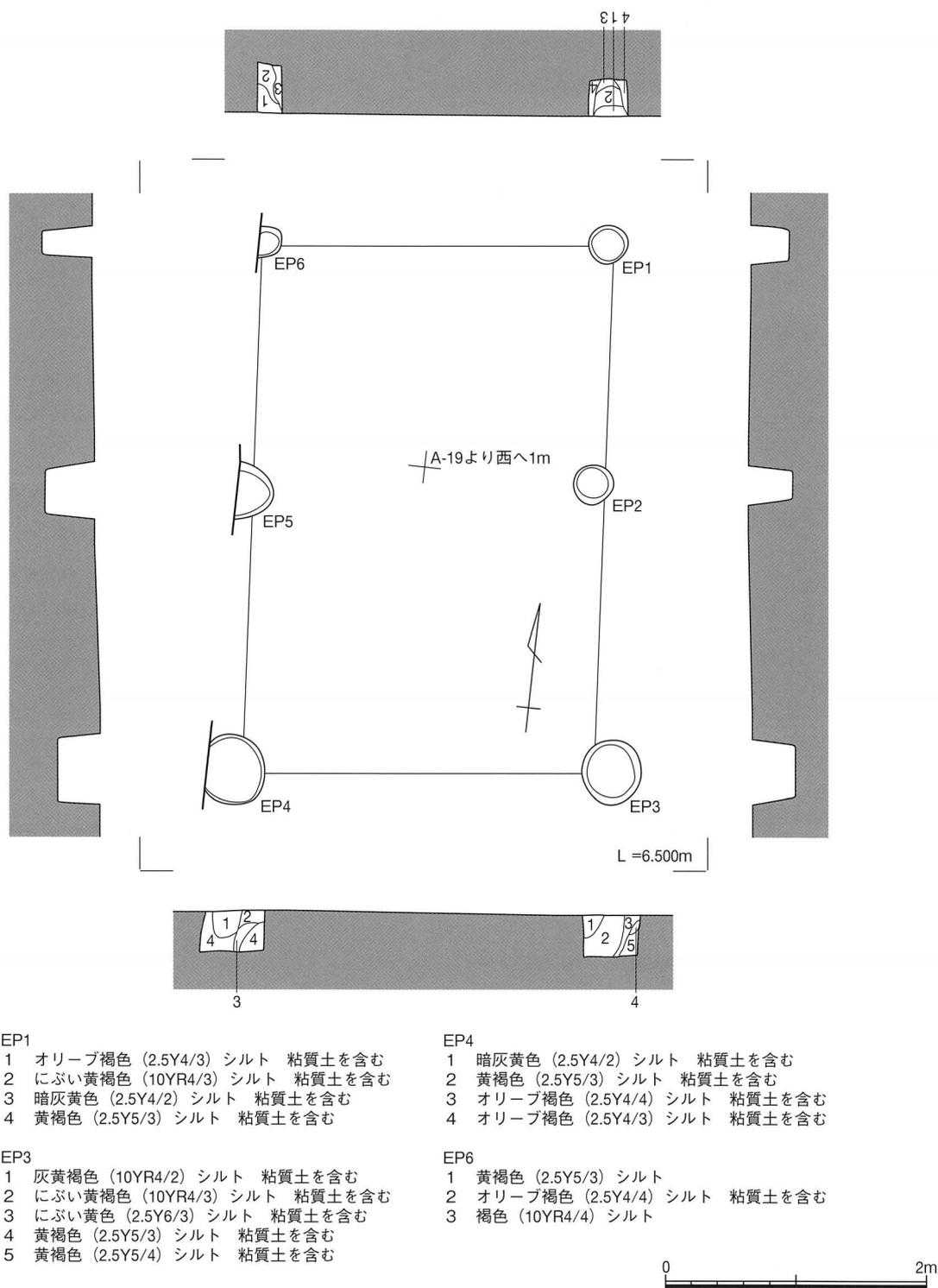
掘立柱建物 (SA1042) (第89図)

検出場所 6区  $\gamma$ -IV・T-18、19および $\delta$ -IV・A-18、19グリッド

形態・規模 梁間1間 (2.89m) × 桁行2間 (4.09m)、床面積11.82㎡の側柱建物である。建物の主軸方向はN 5° Wである。

土層 各柱穴の覆土はオリブ褐色、にぶい黄褐色などのシルトで、粘質土を含む。3～5層に細分した。

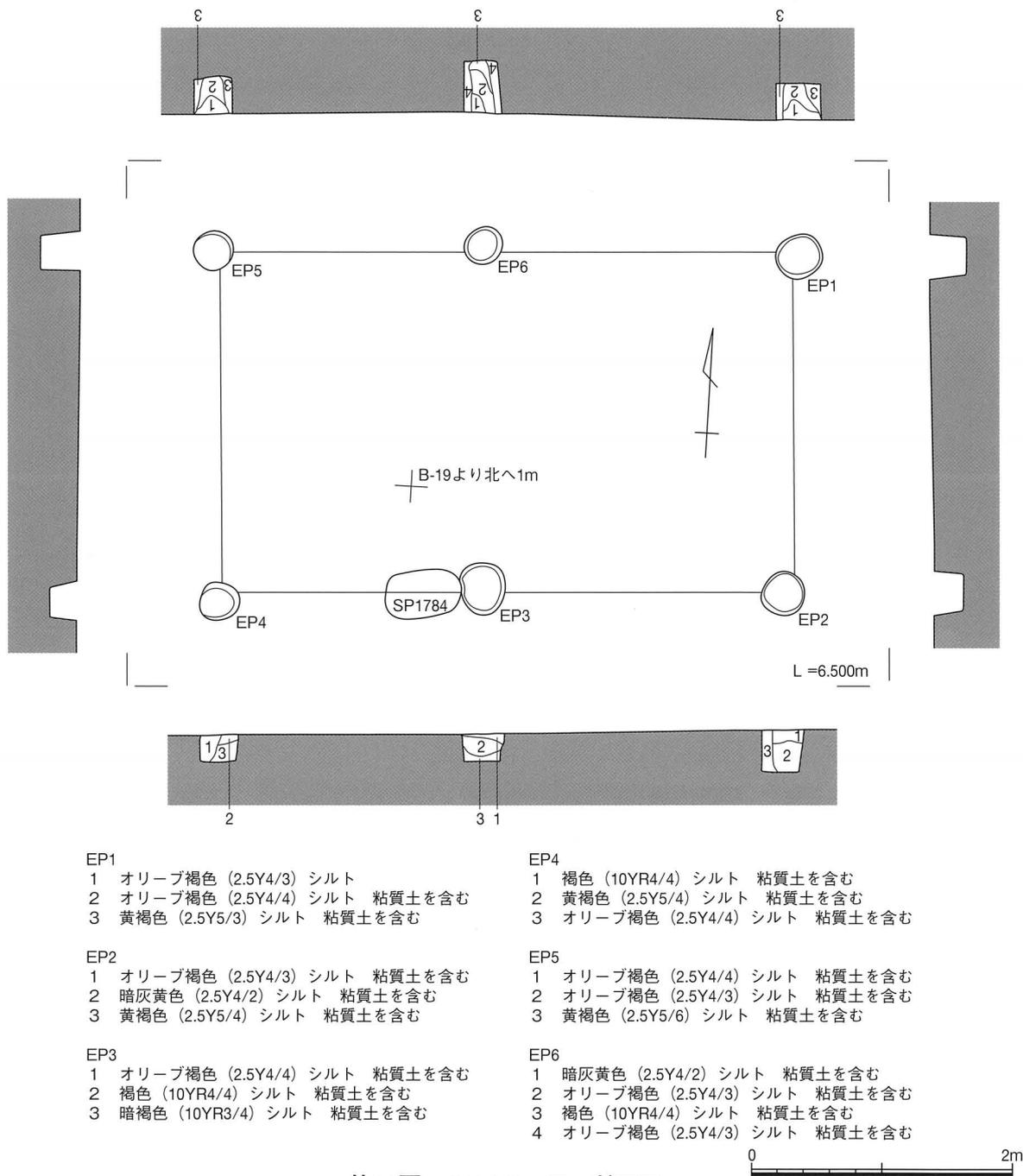
遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。



第89図 SA1042 平・断面図

出土遺物 図化できる遺物は出土していない。

時期 同一遺構面の遺構の時期を考慮すると、中世の可能性が高い。



第90図 SA1043 平・断面図

掘立柱建物 (SA1043) (第90図)

検出場所 6区 δ-IV・A-18 および B-18、19 グリッド

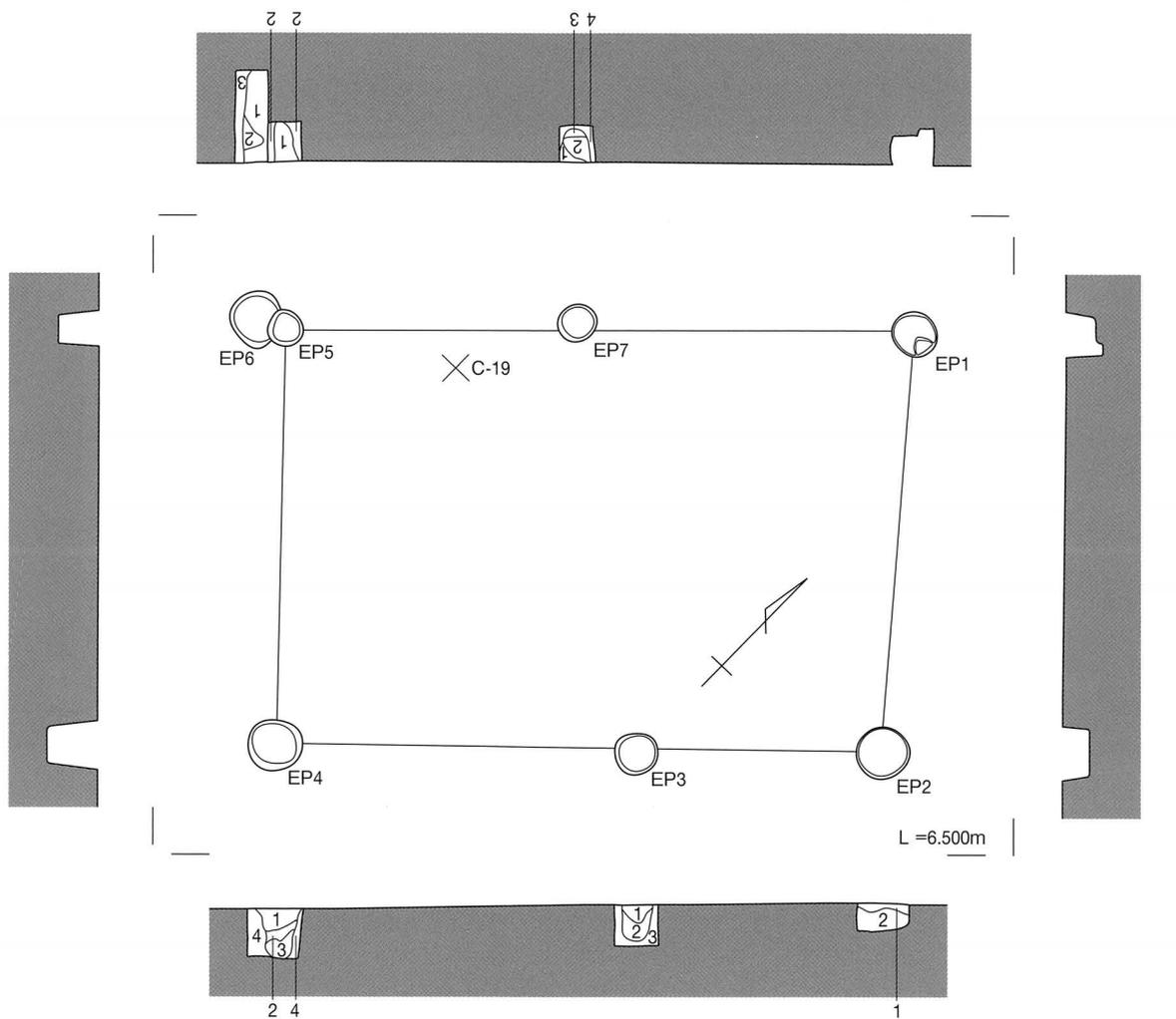
形態・規模 梁間1間 (2.70 m) × 桁行2間 (4.49 m)、床面積 12.12㎡の側柱建物である。建物の主軸方向は N86° W である。

土層 各柱穴の覆土はオリーブ褐色、黄褐色などのシルトで、粘質土を含む。3～4層に細分した。

遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

出土遺物 図化できる遺物は出土していない。

時期 同一遺構面の遺構の時期を考慮すると、中世の可能性が高い。



EP2

- 1 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) シルト 粘質土を含む
- 2 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) シルト 粘質土を含む

EP3

- 1 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) シルト 粘質土を含む
- 2 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) シルト 粘質土を含む
- 3 黄褐色 (2.5Y5/4) シルト 粘質土を含む

EP4

- 1 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) シルト 粘質土を含む
- 2 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト 粘質土を含む
- 3 褐色 (10YR4/4) シルト 粘質土を含む
- 4 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) シルト 粘質土を含む

EP5

- 1 褐色 (10YR4/6) シルト 粘質土を含む
- 2 褐色 (10YR4/4) シルト 粘質土を含む

EP6

- 1 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト 粘質土を含む
- 2 暗褐色 (10YR3/4) シルト 粘質土を含む
- 3 褐色 (10YR4/4) シルト 粘質土を含む

EP7

- 1 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) シルト 粘質土を含む
- 2 暗灰黄色 (2.5Y4/2) シルト 粘質土を含む
- 3 黄褐色 (2.5Y5/4) シルト 粘質土を含む
- 4 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) シルト 粘質土を含む



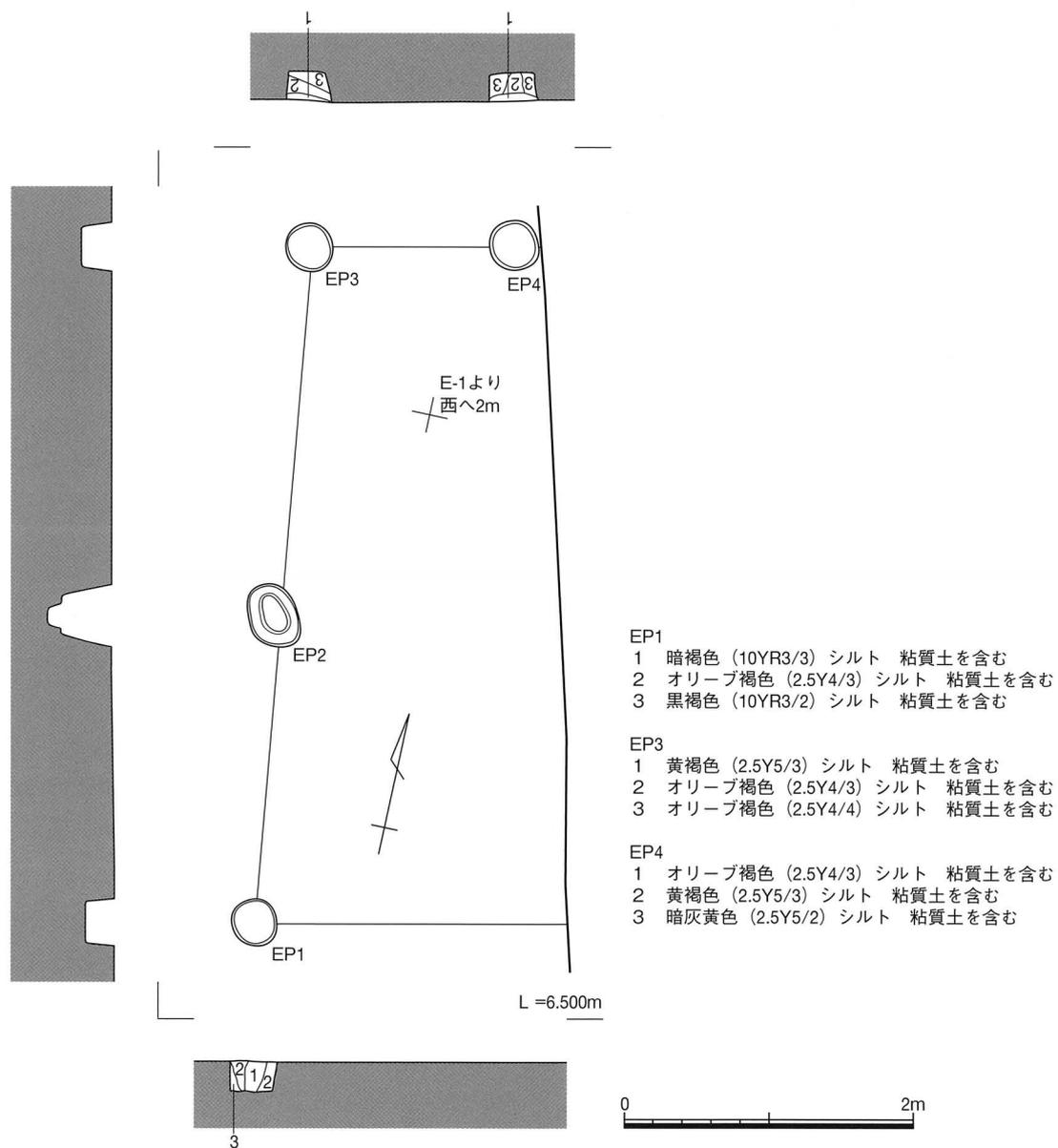
第91図 SA1044 平・断面図

掘立柱建物 (SA1044) (第91図)

検出場所 6区 δ-IV・B-18、19およびC-19グリッド

形態・規模 梁間1間(2.83m)×桁行2間(4.15m)、床面積11.74㎡の側柱建物である。建物の主軸方向はN47°Eである。

土層 各柱穴の覆土はオリーブ褐色、暗オリーブ褐色などのシルトで、粘質土を含む。2～4層に細分した。



第92図 SA1045 平・断面図

遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

出土遺物 図化できる遺物は出土していない。

時期 同一遺構面の遺構の時期を考慮すると、中世の可能性が高い。

#### 掘立柱建物 (SA1045) (第92図)

検出場所 6区 δ-IV・D-20およびE-20グリッド

形態・規模 桁行2間 (4.75m) の側柱建物であるが、東側が調査区外のため、梁間の規模は不明。建物の主軸方向はN7°Wである。

土層 各柱穴の覆土は暗褐色、オリーブ褐色などのシルトで、粘質土を含む。3層に細分した。

遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

出土遺物 図化できる遺物は出土していない。

時期 同一遺構面の遺構の時期を考慮すると、中世の可能性が高い。

#### 掘立柱建物 (SA1046) (第93図)

検出場所 7区 δ-IV・H-18、19グリッド

形態・規模 梁間3間(2.20m)の側柱建物であるが、南側が調査区外のため、桁行の規模は不明。建物の主軸方向はN6°Wである。

土層 各柱穴の覆土はオリーブ褐色、黄褐色などのシルトで、粘質土を含む。2～3層に細分した。

遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

出土遺物 図化できる遺物は出土していない。

時期 同一遺構面の遺構の時期を考慮すると、中世の可能性が高い。

#### 掘立柱建物 (SA1047) (第94図)

検出場所 7区 δ-IV・I-18、19およびJ-18、19グリッド

形態・規模 梁間1間(2.80m)×桁行3間(4.36m)、床面積12.21㎡の側柱建物である。建物の主軸方向はN77°Eである。

土層 各柱穴の覆土は黄褐色、褐色などのシルトで、粘質土を含む。3～7層に細分した。

遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

出土遺物 図化できる遺物は出土していない。

時期 同一遺構面の遺構の時期を考慮すると、中世の可能性が高い。

#### 掘立柱建物 (SA1048) (第95図)

検出場所 7区 δ-IV・I-19およびJ-19グリッド

形態・規模 桁行3間(4.06m)の側柱建物であるが、東側が調査区外のため、梁間の規模は不明。建物の主軸方向はN18°Wである。

土層 各柱穴の覆土は黄褐色、オリーブ褐色などのシルトで、粘質土を含む。2～4層に細分した。

遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

出土遺物 図化できる遺物は出土していない。

時期 同一遺構面の遺構の時期を考慮すると、中世の可能性が高い。

#### 掘立柱建物 (SA1049) (第96図)

検出場所 7区 δ-IV・J-19およびK-19グリッド

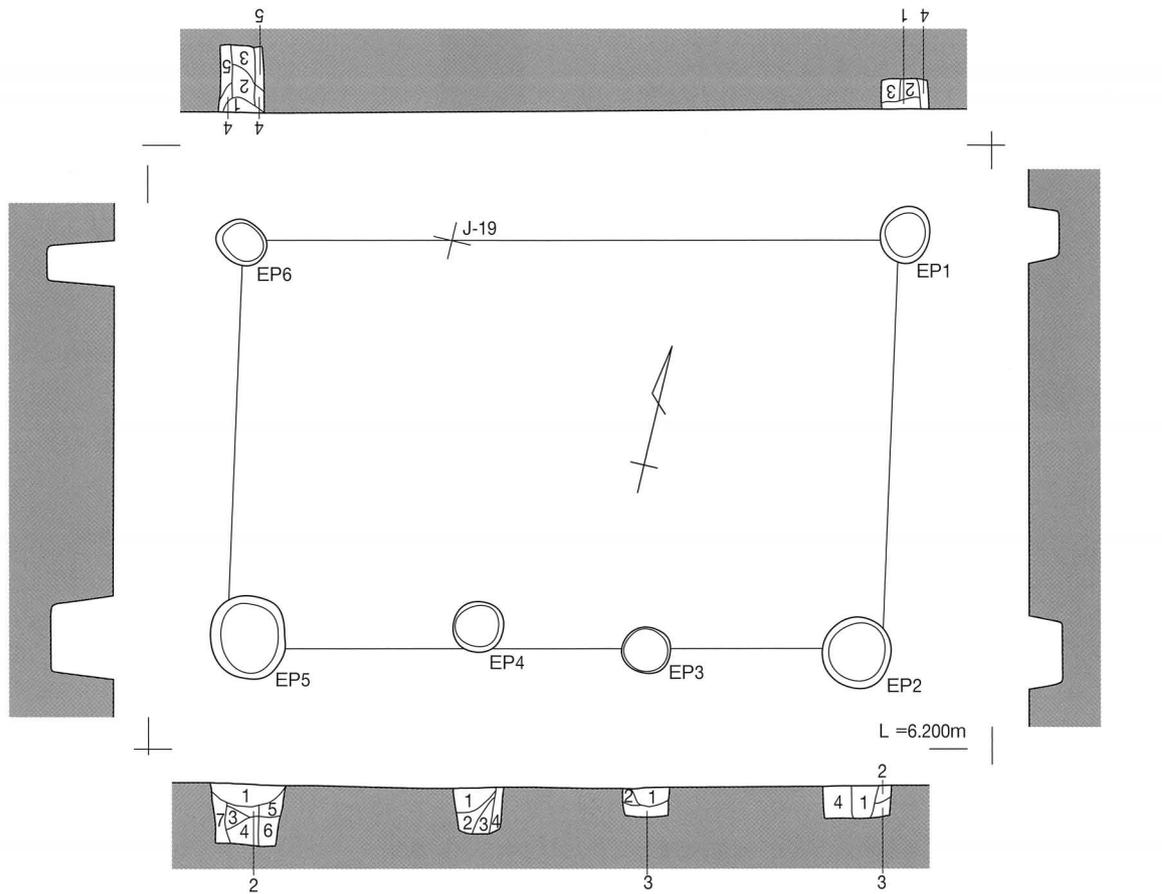
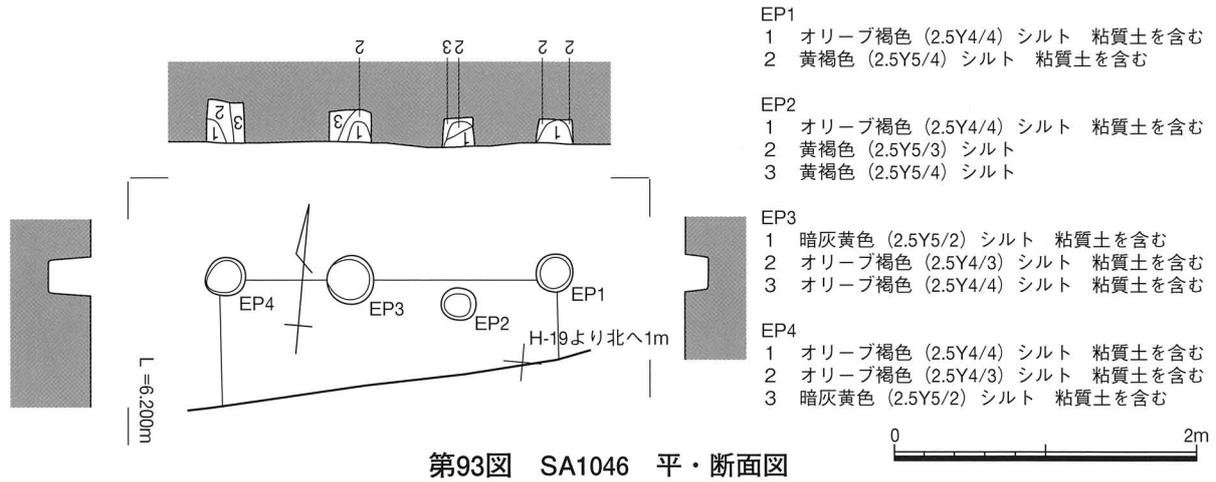
形態・規模 桁行2間(3.05m)の側柱建物であるが、東側が調査区外のため、梁間の規模は不明。建物の主軸方向はN65°Eである。

土層 各柱穴の覆土は黄褐色、オリーブ褐色などのシルトで、粘質土を含む。2～4層に細分した。

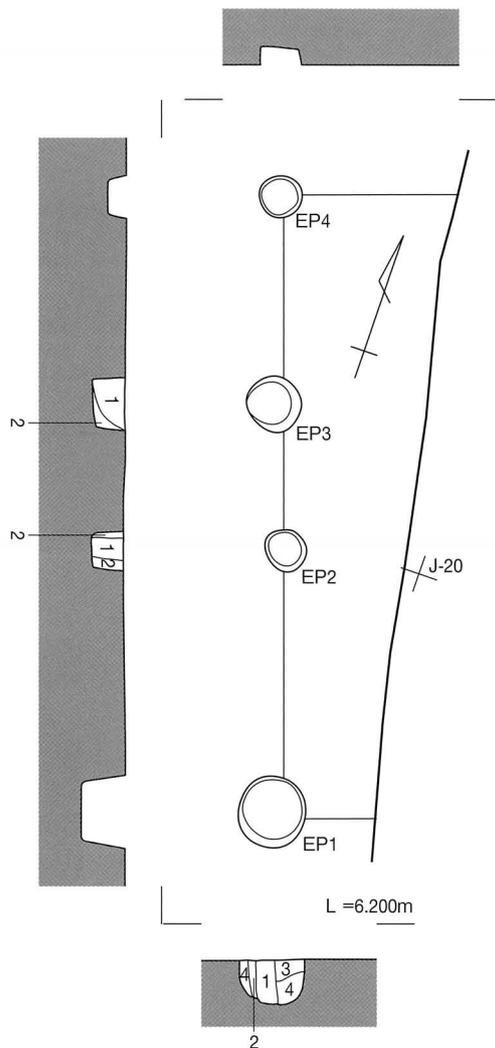
遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

出土遺物 図化できる遺物は出土していない。

時期 同一遺構面の遺構の時期を考慮すると、中世の可能性が高い。



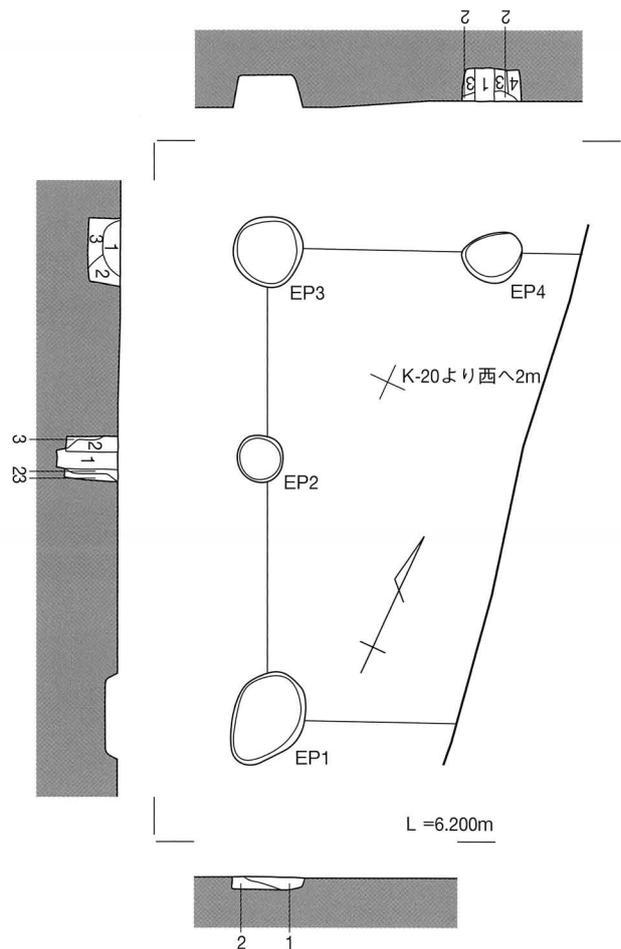
第94図 SA1047 平・断面図



- EP1
- 1 攪乱
  - 2 黄褐色 (2.5Y5/3) シルト 粘質土を含む
  - 3 黄褐色 (2.5Y5/4) シルト 粘質土を含む
  - 4 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) シルト 粘質土を含む
- EP2
- 1 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト 粘質土を含む
  - 2 黄褐色 (2.5Y5/4) シルト 粘質土を含む
- EP3
- 1 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) シルト 粘質土を含む
  - 2 褐色 (10YR4/4) シルト 粘質土を含む



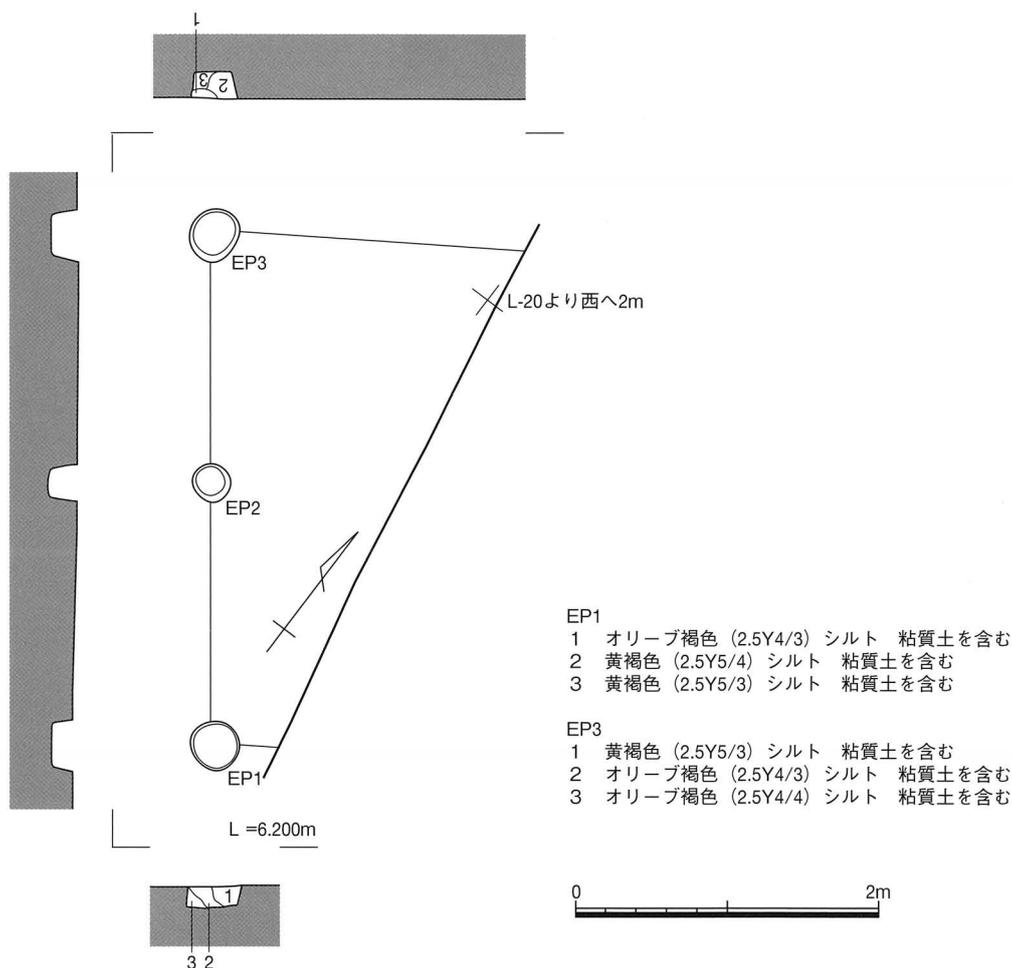
第95図 SA1048 平・断面図



- EP1
- 1 黄褐色 (2.5Y5/3) シルト 粘質土を含む
  - 2 黄褐色 (2.5Y5/4) シルト
- EP2
- 1 攪乱
  - 2 暗褐色 (10YR3/3) シルト 粘質土を含む
  - 3 黄褐色 (2.5Y5/4) シルト
- EP3
- 1 黄褐色 (2.5Y5/3) シルト
  - 2 黄褐色 (2.5Y5/4) シルト 粘質土を含む
  - 3 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) シルト 粘質土を含む
- EP4
- 1 攪乱
  - 2 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) シルト
  - 3 黄褐色 (2.5Y5/4) シルト 粘質土を含む
  - 4 暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルト 粘質土を含む



第96図 SA1049 平・断面図



第97図 SA1050 平・断面図

掘立柱建物 (SA1050) (第97図)

検出場所 7区 δ-IV・K-19グリッド

形態・規模 梁間2間(3.40m)の側柱建物であるが、東側が調査区外のため、桁行の規模は不明。建物の主軸方向はN53°Eである。

土層 各柱穴の覆土はオリーブ褐色、黄褐色のシルトで、粘質土を含む。3層に細分した。

遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

出土遺物 図化できる遺物は出土していない。

時期 同一遺構面の遺構の時期を考慮すると、中世の可能性が高い。

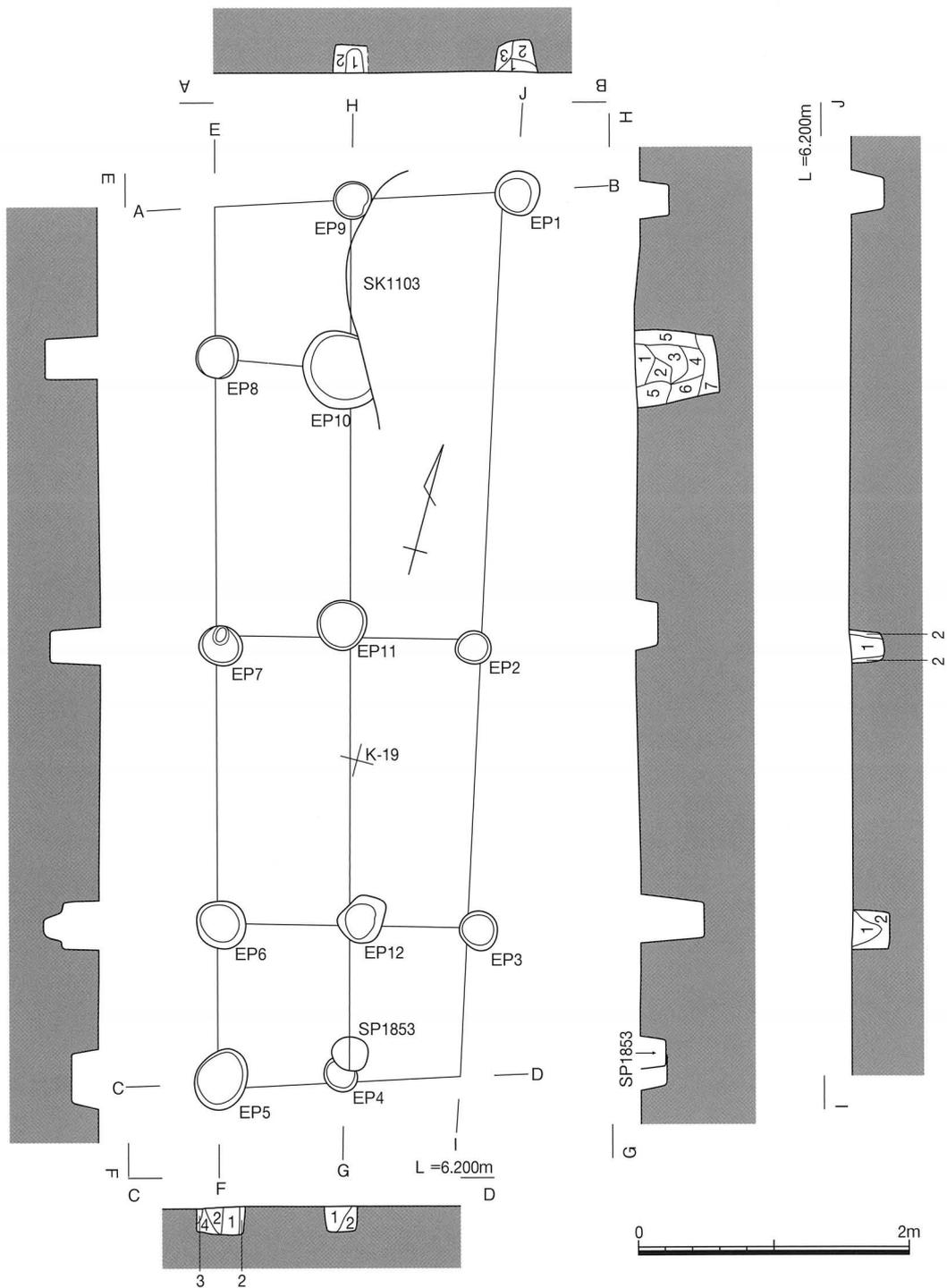
掘立柱建物 (SA1051) (第98～105図)

検出場所 7区 δ-IV・J-18、19およびK-18、19グリッド

形態・規模 梁間2間(1.90m)×桁行4間(6.50m)、床面積12.35㎡の総柱建物である。建物の主軸方向はN14°Wである。

土層 各柱穴の覆土は灰黄褐色、にぶい黄褐色などのシルトで、粘質土を含む。2～7層に細分した。

遺物出土状況 EP6では、遺構の底面(2層の下部)で土器が出土した。EP7では、遺構の北側の底面



第98図 SA1051 平・断面図

(2層の下部)で土器がまとまって出土した。EP11では遺構の中央部において、2層の下部から土器が出土した。

**出土遺物** 50は土師器の皿である。51は土師器の杯で、高台が付く。52、53はEP10より出土した土師器の皿と瓦器碗の小破片である。54は土師器の皿。55は瓦器碗の小破片である。内外面にヘラミガキが見られる。56は土師質土器の鍋である。

## 第98図土層注記

### EP1

- 1 灰黄褐色 (10YR4/2) シルト 粘質土を含む
- 2 灰黄褐色 (10YR5/2) シルト 粘質土を含む
- 3 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト 粘質土を含む

### EP2

- 1 黄褐色 (2.5Y5/3) シルト 粘質土を含む
- 2 暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルト 粘質土を含む

### EP3

- 1 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) シルト 粘質土を含む
- 2 黄褐色 (2.5Y5/4) シルト 粘質土を含む

### EP4

- 1 黄褐色 (2.5Y5/4) シルト 粘質土を含む
- 2 黄褐色 (2.5Y5/3) シルト 粘質土を含む

### EP5

- 1 攪乱
- 2 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) シルト 粘質土を含む
- 3 黄褐色 (2.5Y5/4) シルト
- 4 暗灰黄色 (2.5Y4/2) シルト 粘質土を含む

### EP9

- 1 暗褐色 (10YR3/3) シルト 粘質土を含む
- 2 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト 粘質土を含む

### EP10

- 1 暗灰黄色 (2.5Y4/2) シルト 粘質土を含む
- 2 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) シルト 粘質土を含む
- 3 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) シルト 粘質土を含む
- 4 褐色 (10YR4/4) シルト 粘質土を含む
- 5 黄褐色 (2.5Y5/4) シルト 粘質土を含む
- 6 にぶい黄褐色 (10YR5/3) シルト 粘質土を含む
- 7 褐色 (10YR4/6) シルト 粘質土を含む

時期 12世紀から13世紀前半のものと考えられる。

掘立柱建物 (SA1052) (第106図)

検出場所 7区 δ-IV・M-19グリッド

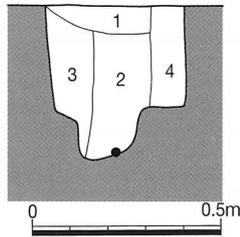
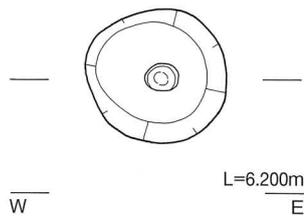
形態・規模 桁行3間(4.43m)の側柱建物であるが、東側が調査区外のため、梁間の規模は不明。建物の主軸方向はN3°Wである。

土層 各柱穴の覆土は暗灰黄色、オリーブ褐色などのシルトで、粘質土を含む。2～4層に細分した。

遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

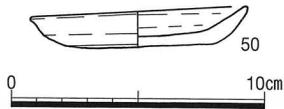
出土遺物 図化できる遺物は出土していない。

時期 同一遺構面の遺構の時期を考慮すると、中世の可能性が高い。

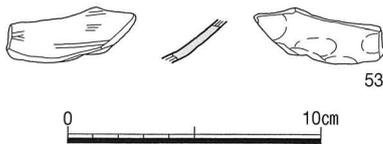
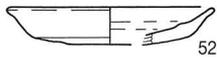


- EP6
- 1 黄褐色 (2.5Y5/3) シルト
  - 2 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト 粘質土を含む
  - 3 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) シルト 粘質土を含む
  - 4 攪乱

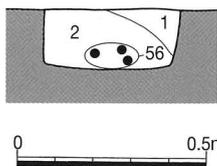
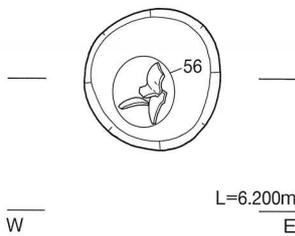
第99図 SA1051EP6 遺物出土状況図



第100図 SA1051EP6 出土遺物

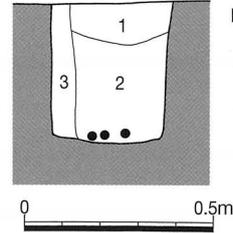
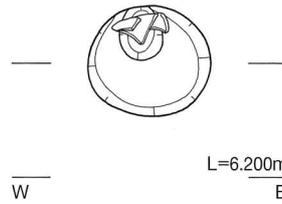


第103図 SA1051EP10 出土遺物



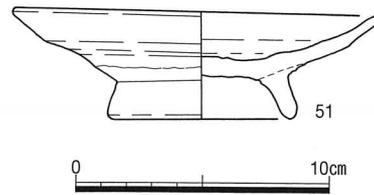
- EP11
- 1 黄褐色 (2.5Y5/3) シルト
  - 2 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) シルト 粘質土を含む

第104図 SA1051EP11 遺物出土状況図

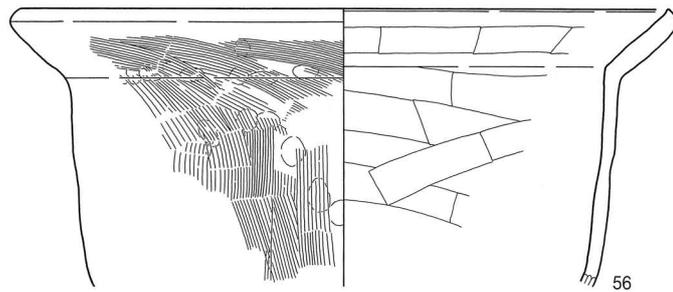
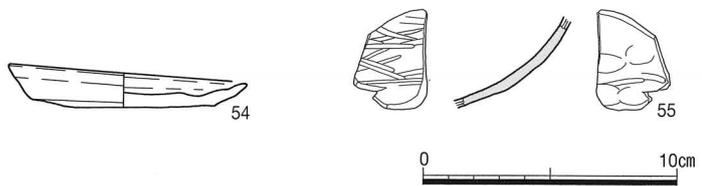


- EP7
- 1 黄褐色 (2.5Y5/3) シルト
  - 2 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) シルト 粘質土を含む
  - 3 黄褐色 (2.5Y5/4) シルト

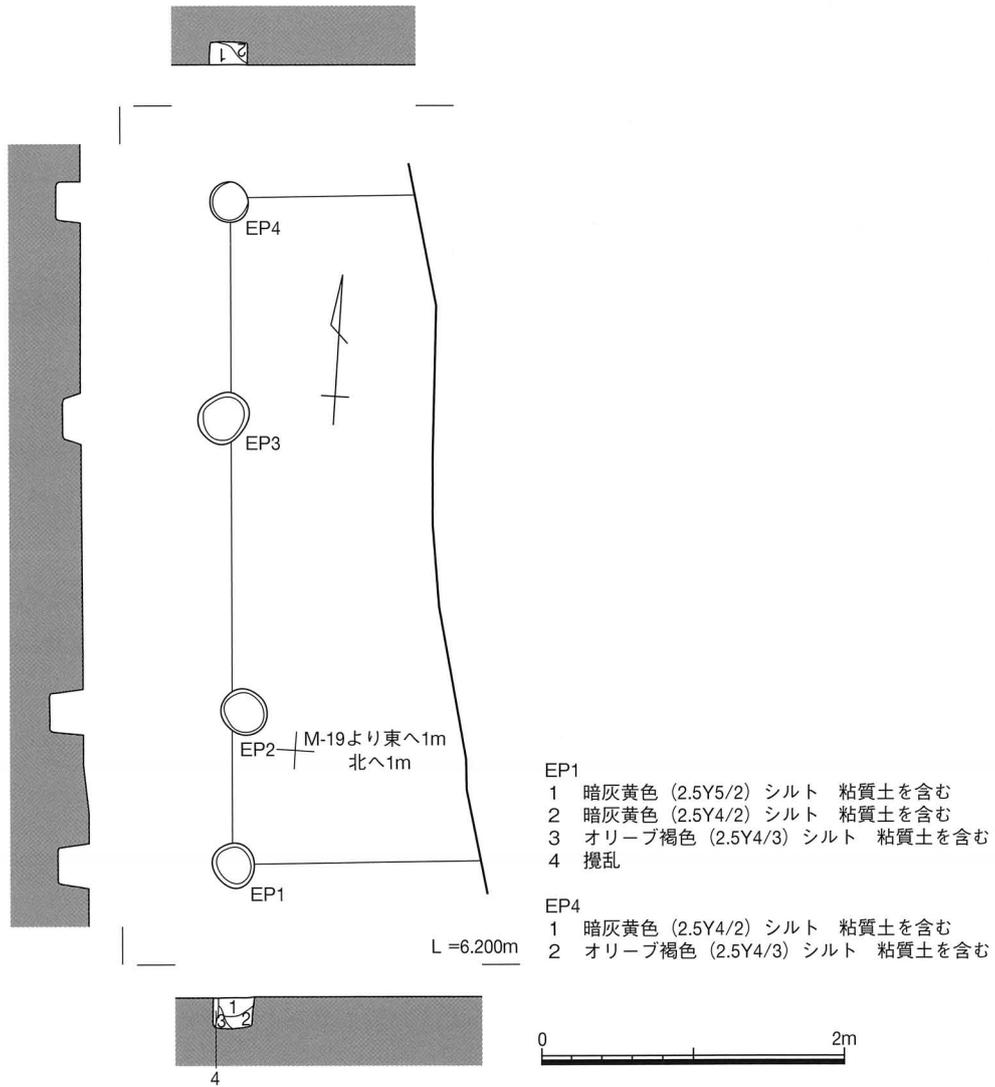
第101図 SA1051EP7 遺物出土状況図



第102図 SA1051EP7 出土遺物



第105図 SA1051EP11 出土遺物



第106図 SA1052 平・断面図

### ③ 竪穴住居

#### 竪穴住居 (SB1001) (第107～114図)

検出場所 6区 γ-IV・R-18、19およびS-18、19グリッド

形態・規模 平面形状は、西側半分が調査区外に位置するため半円形を呈する。長軸5.45m (残存値) × 短軸3.00m (残存値)、深度は0.28mである。

土層 オリーブ褐色、黒褐色などの粘性砂質土を9層に細分した。

炉 EH1の平面形状は、東西方向を軸とした、長軸1.30m × 短軸0.43m、深度0.11mの長楕円形である。暗灰黄色、黒褐色などの粘性砂質土を4層に細分した (第110図)。

土坑 2基検出した。EK1は平面形はN72°Eを軸とした長軸0.82m × 短軸0.50mの楕円形で、深度0.14mを測る。住居中央部に位置し、EH1の北側に隣接する。オリーブ褐色、暗灰黄色などの粘性砂質土を5層に細分した。EK2は長軸0.40m × 短軸0.34mの楕円形で、深度0.12mである。EK1の北側に位置する。暗オリーブ褐色、オリーブ褐色の粘性砂質土に細分した。

柱穴 5基が検出された。オリーブ褐色、暗灰黄色などの粘性砂質土を3～6層に細分した。

遺物出土状況 遺物は、EH1の周辺で集中して出土した。垂直分布によると、大半の遺物は遺構検出面直下で出土しているが、北側、東側の一部に床面直上の遺物が存在する。

出土遺物 57～62は壺である。63～76は甕である。77、78は高杯である。79は石鏃である。80は断面が長方形の棒状鉄製品で、釘か。

時期 弥生時代後期後半と考えられる。

#### 竪穴住居 (SB1002) (第115図)

検出場所 6区 δ-IV・A、B-20およびδ-V・B-1グリッド

形態・規模 南東部をSD1036に切られるが、平面形状は方形であったと考えられる。長軸4.20m (残存値) × 短軸4.15m (残存値)、深度は0.22mである。

土層 オリーブ褐色、暗灰黄色などの粘性砂質土を10層に細分した。

炉 検出されていない。

土坑 検出されていない。

柱穴 3基が検出された。各柱穴の覆土は暗灰黄色、オリーブ褐色などの粘性砂質土で、2～7層に細分した。

遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

出土遺物 図化できる遺物は出土していない。

時期 平面形状など考慮すると、古墳時代の可能性がある。

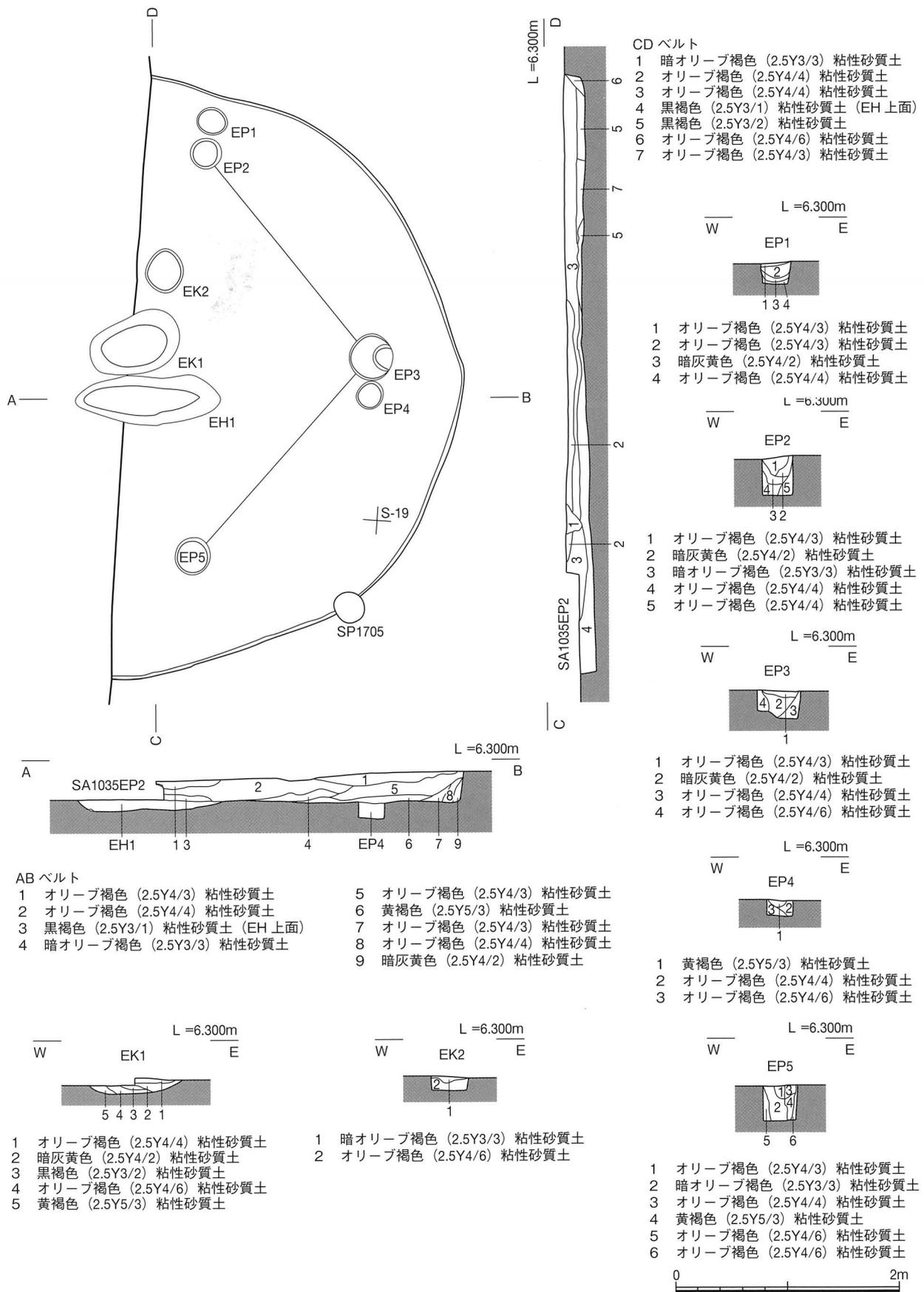
#### 竪穴住居 (SB1003) (第116図)

検出場所 6区 δ-IV・B、C、D-20およびδ-V・B、C-1グリッド

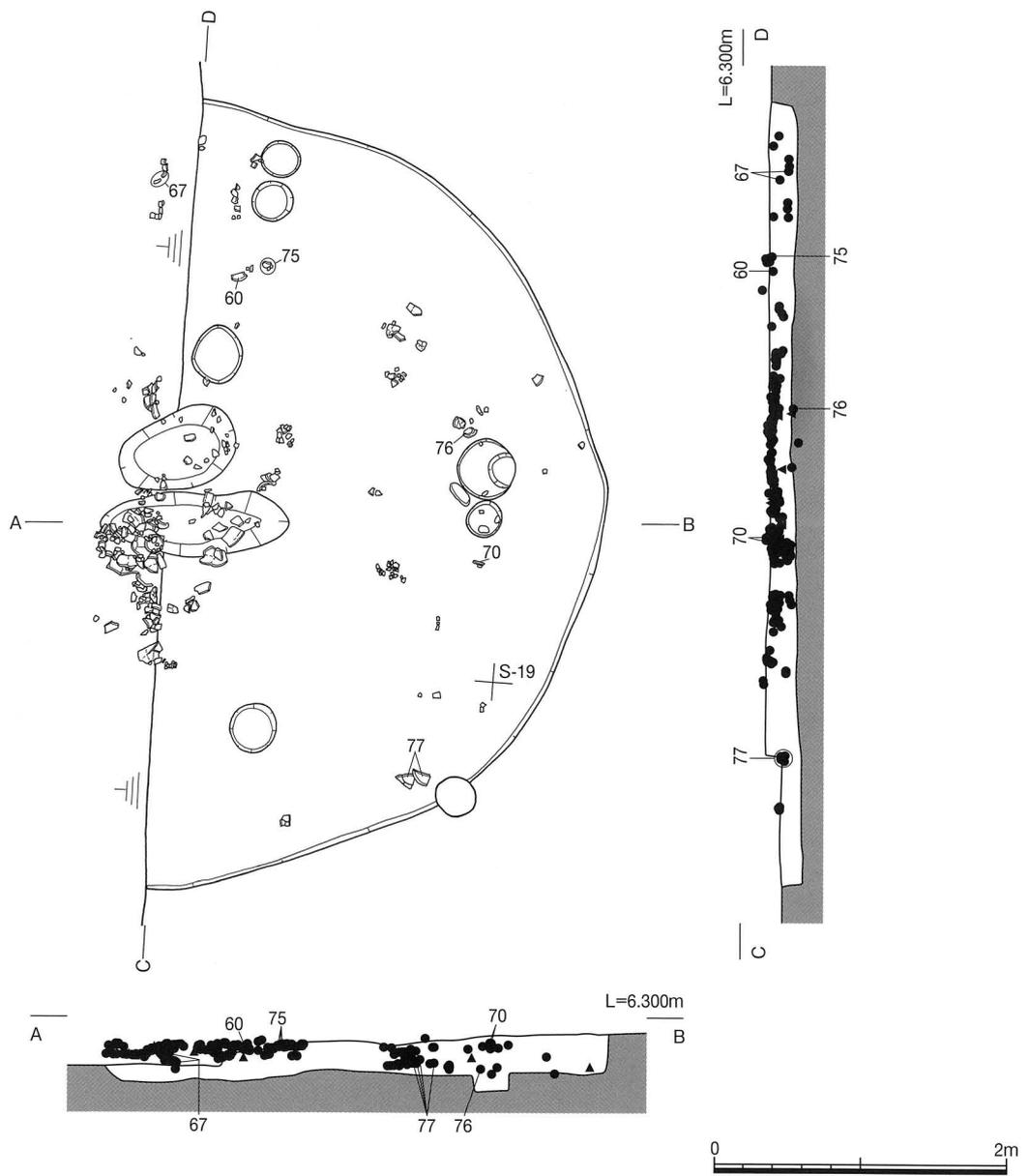
形態・規模 東側の大半が調査区外に位置するが、残存部分の形状から円形であったと推測される。長軸7.50m (残存値) × 短軸1.80m (残存値)、深度は0.16mである。

土層 オリーブ褐色、暗灰黄色などの粘性砂質土を5層に細分した。

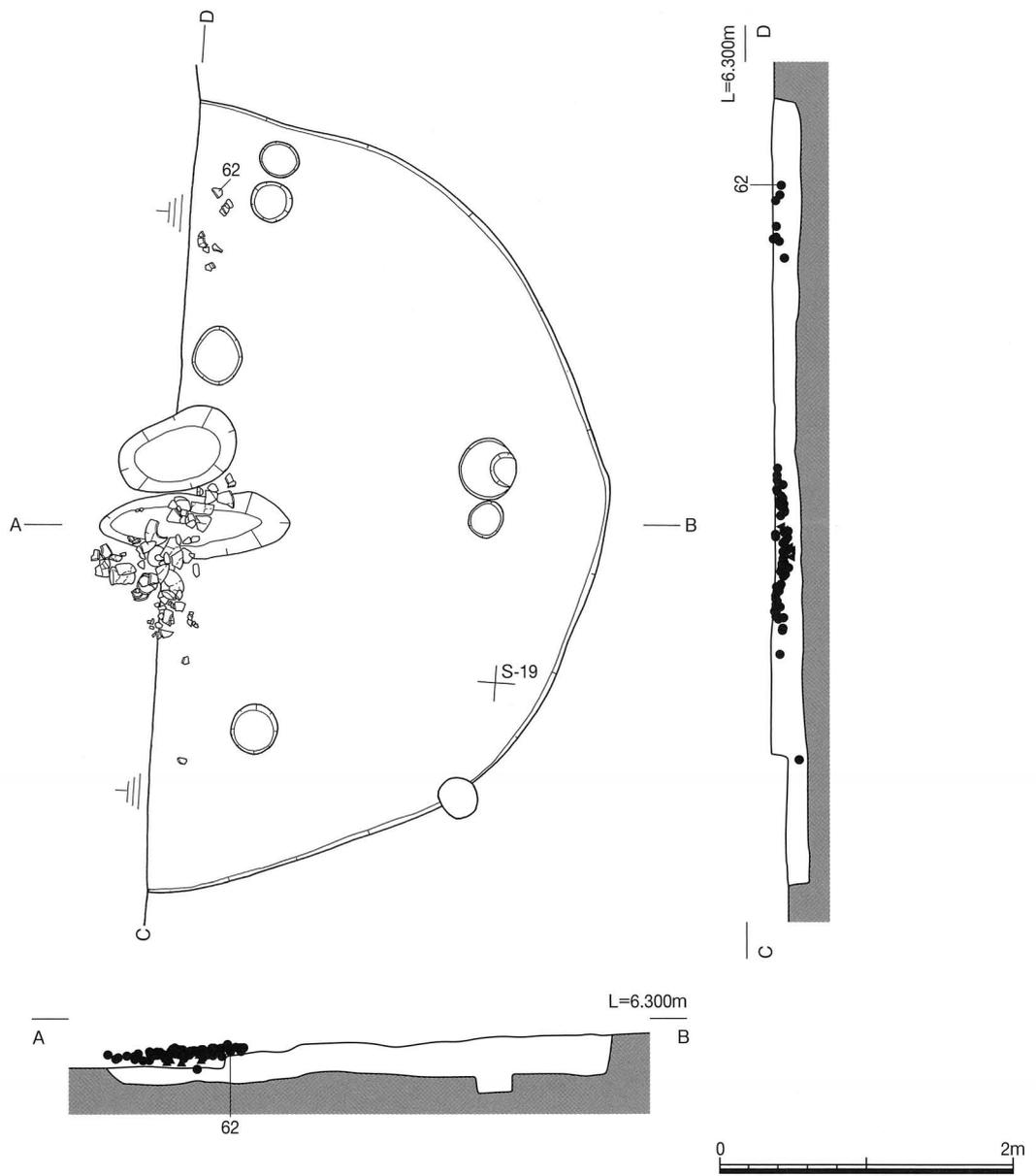
炉 検出されていない。



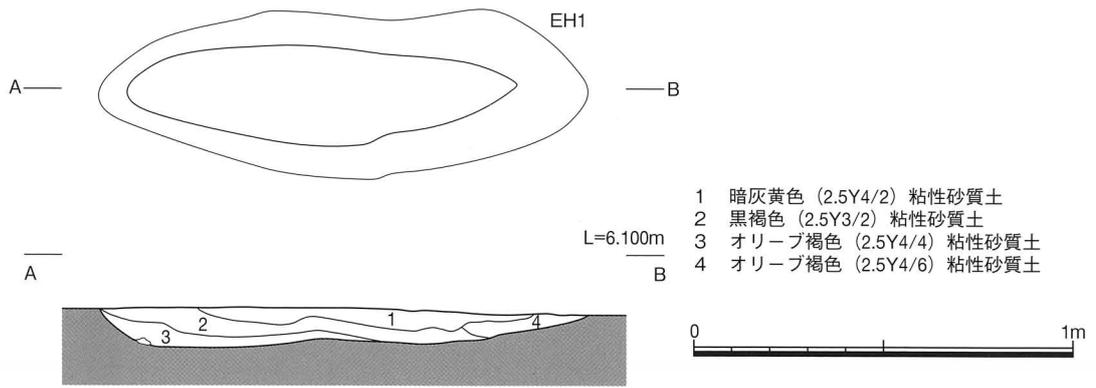
第107図 SB1001・EK・EP 平・断面図



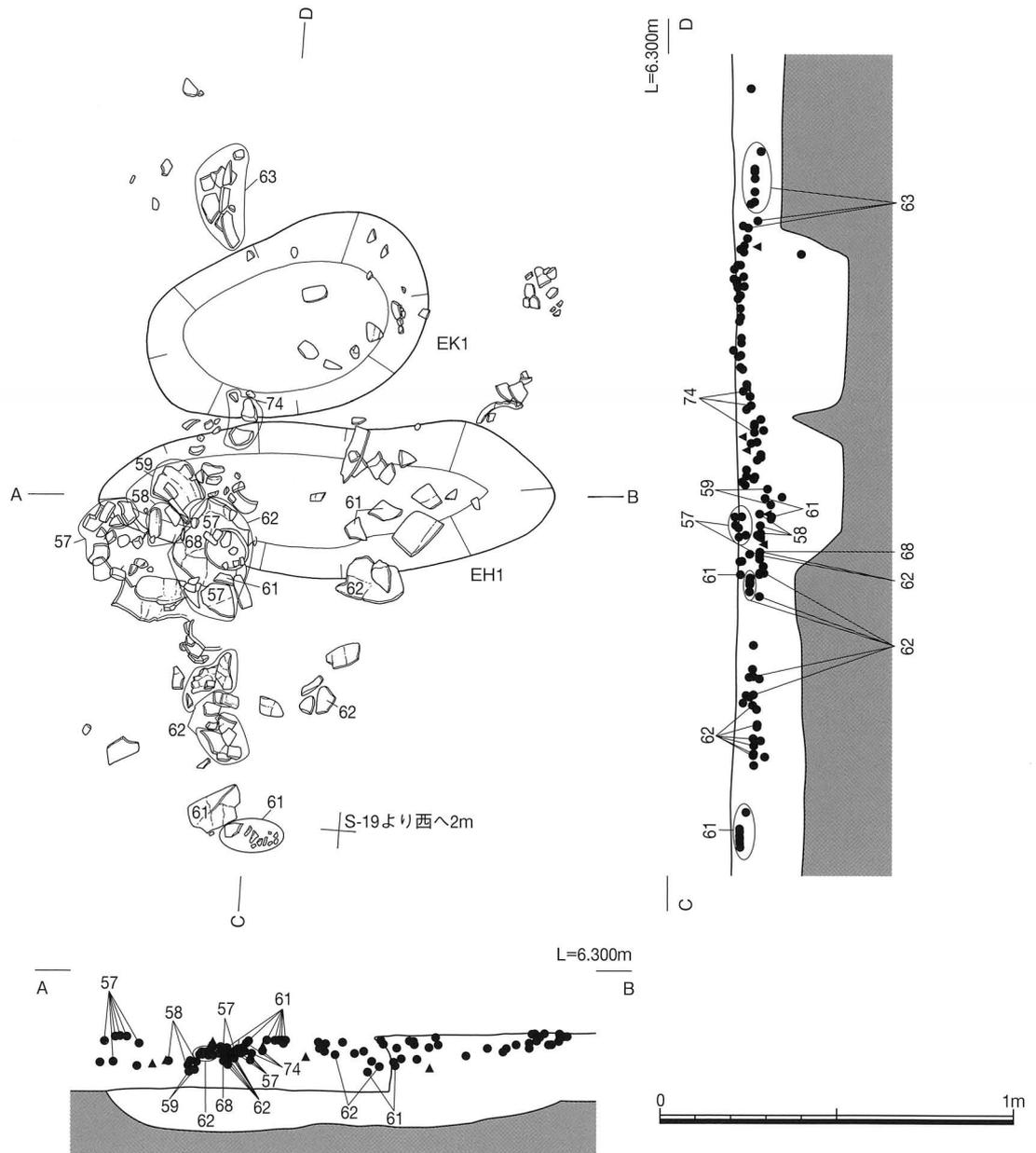
第108図 SB1001 遺物出土状況図(1)



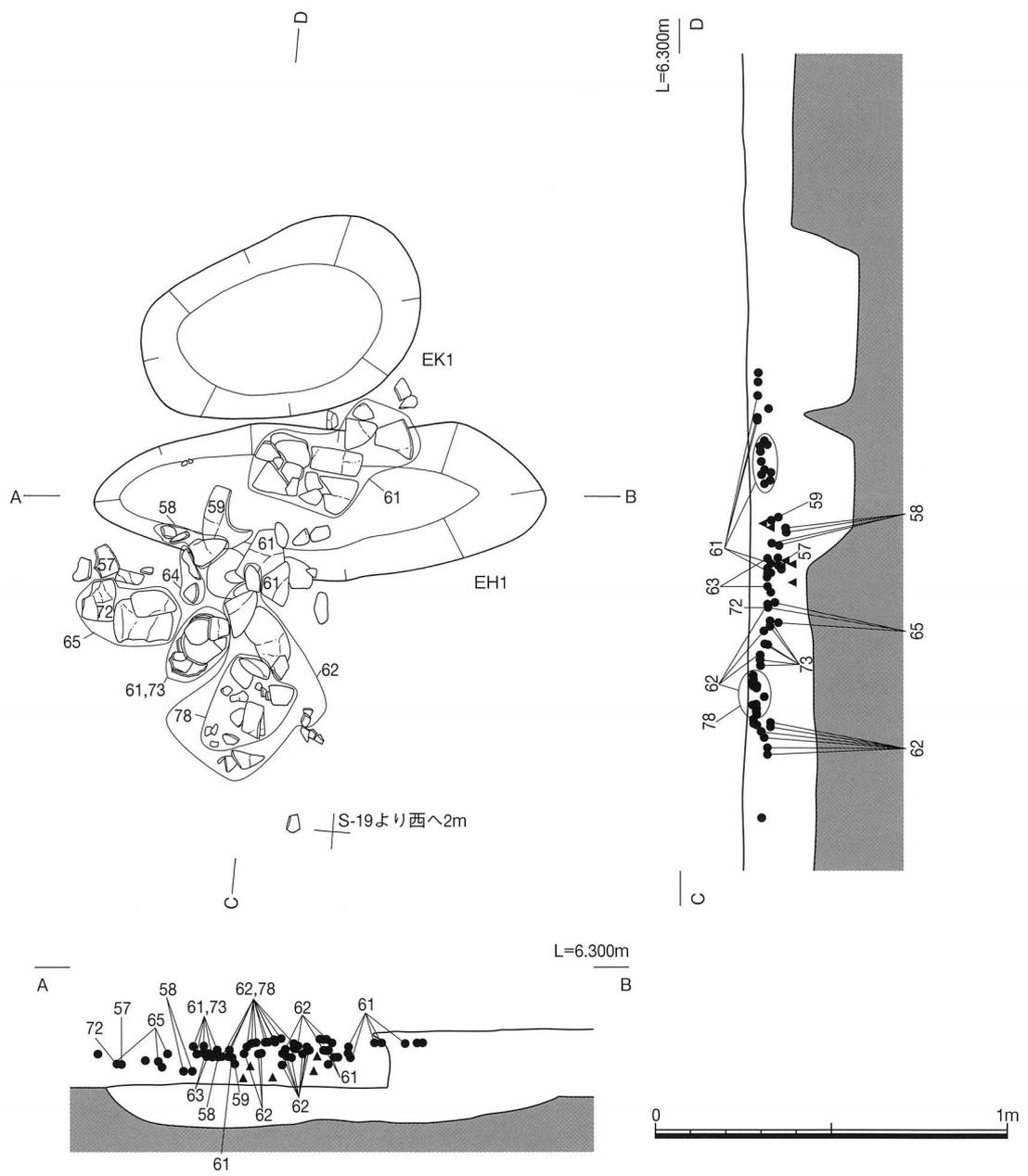
第109図 SB1001 遺物出土状況図(2)



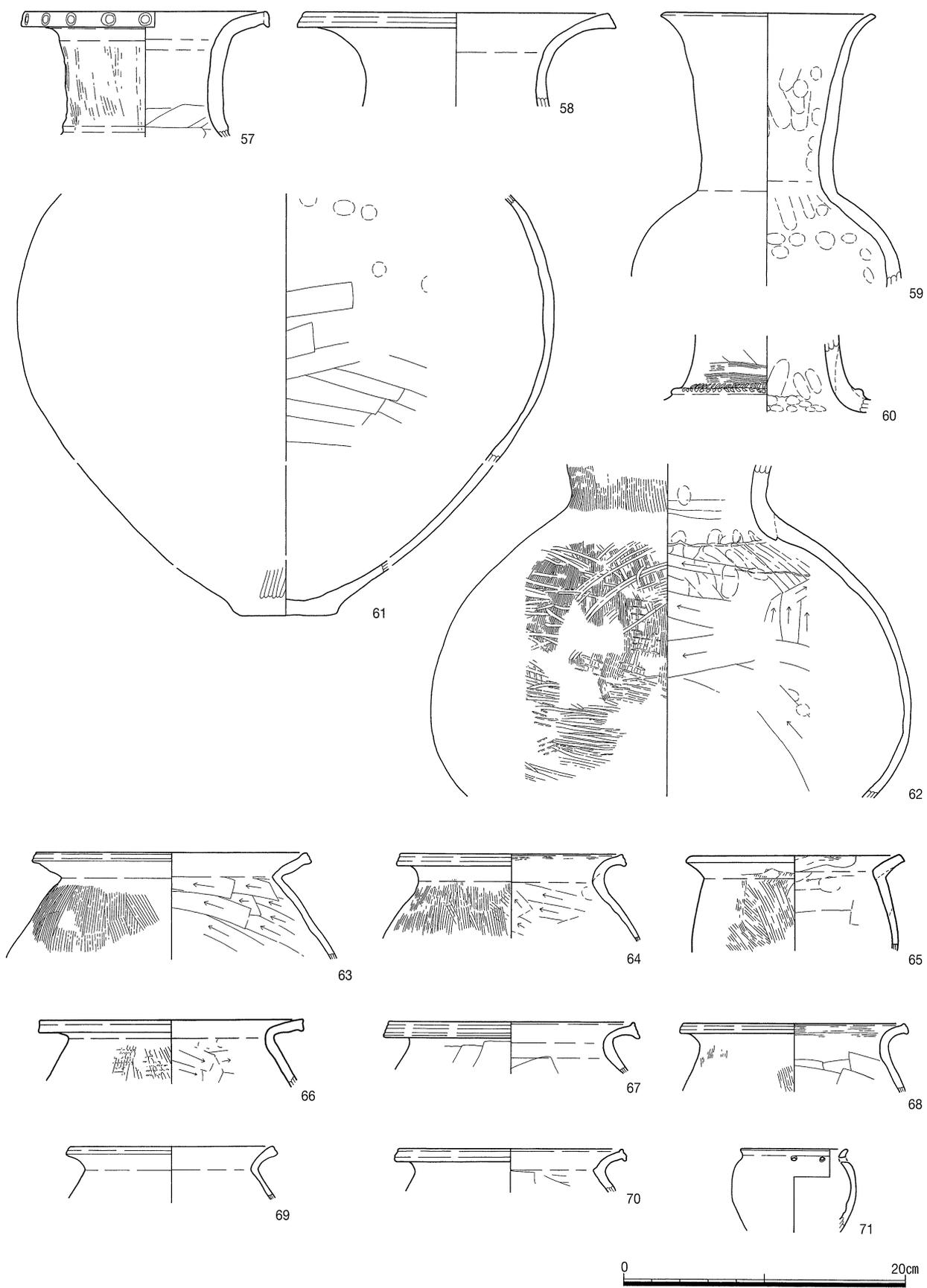
第110図 SB1001EH1 平・断面図



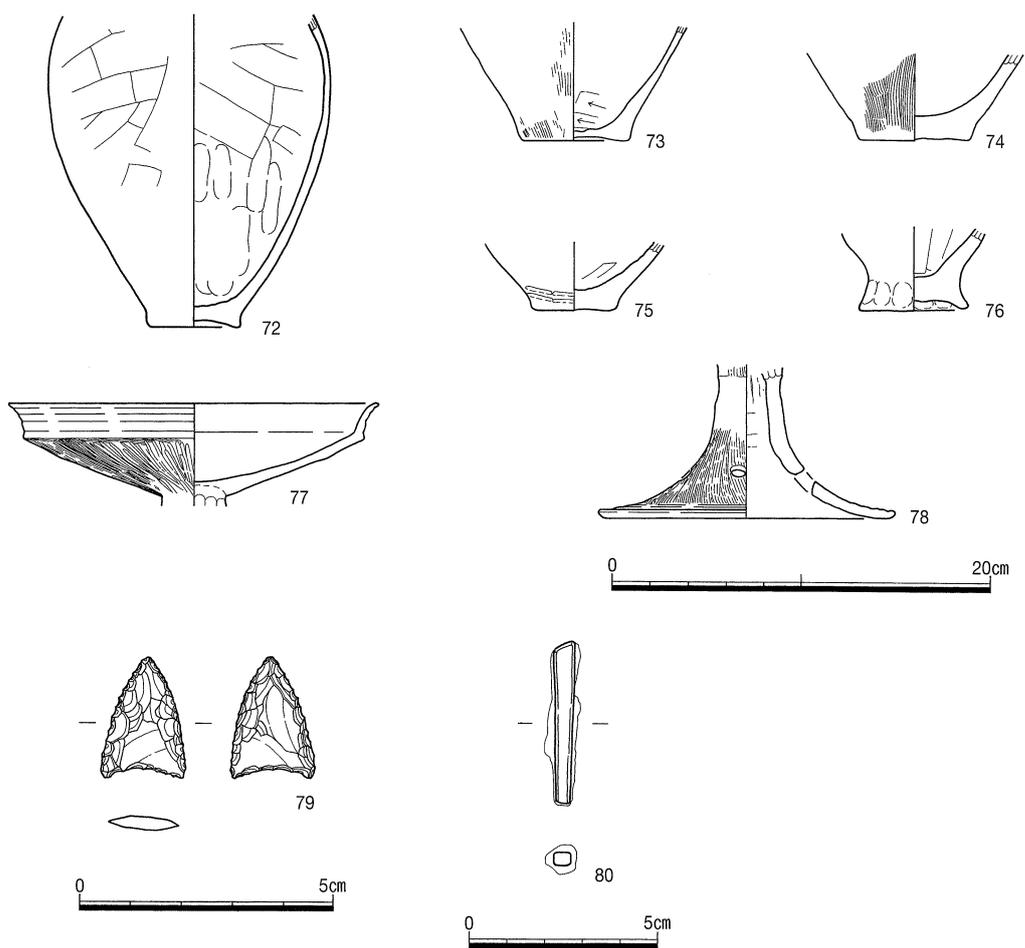
第111図 SB1001EH1 遺物出土状況図(1)



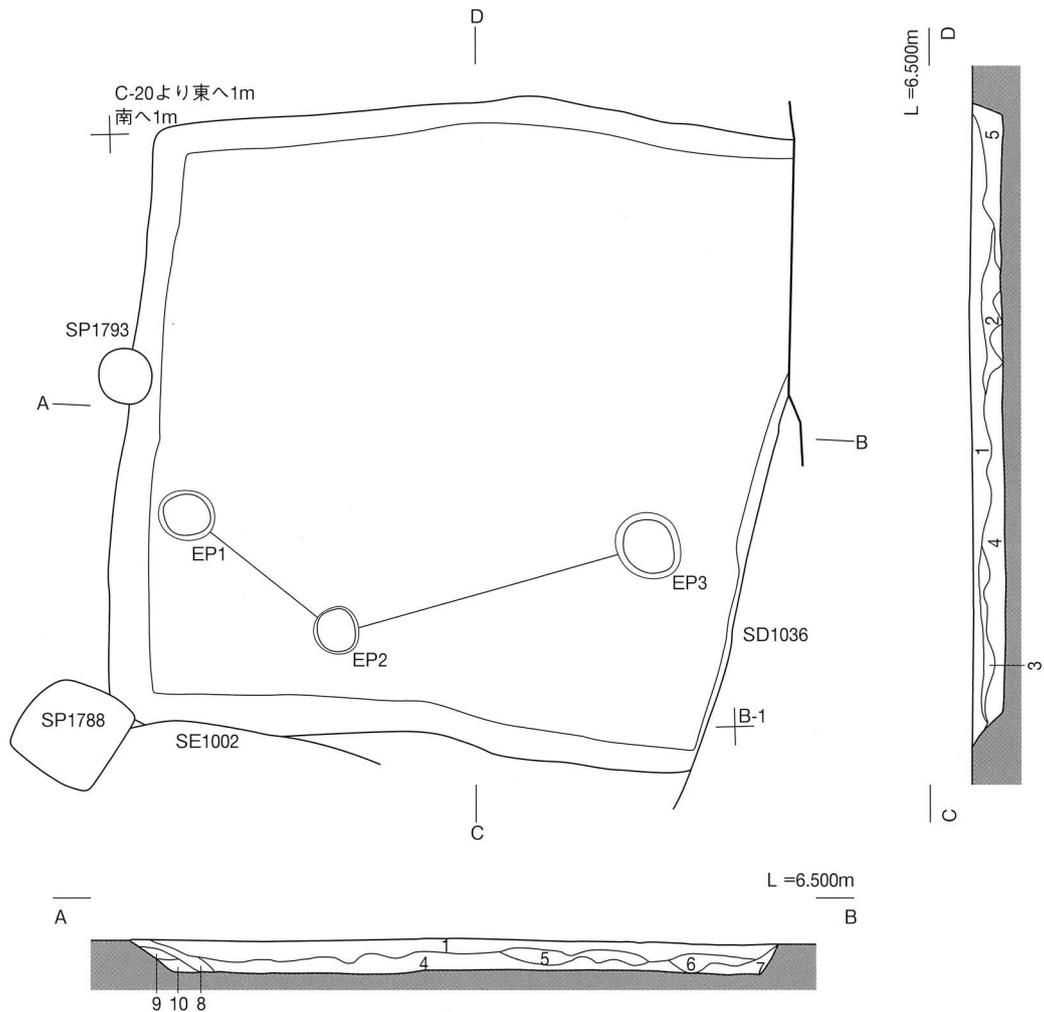
第112図 SB1001EH1 遺物出土状況図(2)



第113图 SB1001 出土遺物(1)



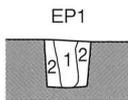
第114図 SB1001 出土遺物(2)



AB・CD ベルト

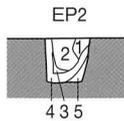
- |   |                       |    |                       |
|---|-----------------------|----|-----------------------|
| 1 | オリブ褐色 (2.5Y4/3) 粘性砂質土 | 6  | オリブ褐色 (2.5Y4/3) 粘性砂質土 |
| 2 | オリブ褐色 (2.5Y4/4) 粘性砂質土 | 7  | 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粘性砂質土  |
| 3 | オリブ褐色 (2.5Y4/4) 粘性砂質土 | 8  | オリブ褐色 (2.5Y4/4) 粘性砂質土 |
| 4 | オリブ褐色 (2.5Y4/6) 粘性砂質土 | 9  | オリブ褐色 (2.5Y4/6) 粘性砂質土 |
| 5 | オリブ褐色 (2.5Y4/6) 粘性砂質土 | 10 | 黄褐色 (2.5Y5/4) 粘性砂質土   |

L = 6.500m  
W E



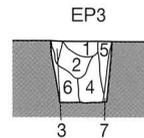
- 1 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘性砂質土
- 2 オリブ褐色 (2.5Y4/4) 粘性砂質土

L = 6.500m  
W E



- 1 オリブ褐色 (2.5Y4/3) 粘性砂質土
- 2 黒褐色 (2.5Y3/2) 粘性砂質土
- 3 黄灰色 (2.5Y5/1) 粘性砂質土
- 4 オリブ褐色 (2.5Y4/6) 粘性砂質土
- 5 オリブ褐色 (2.5Y4/3) 粘性砂質土

L = 6.500m  
W E

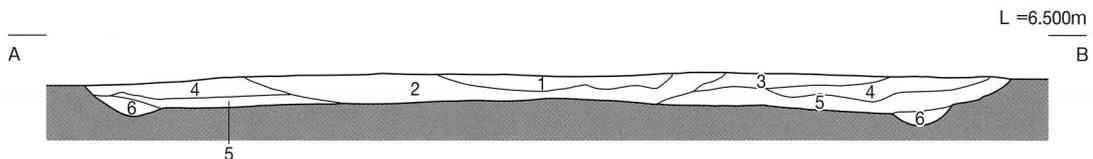
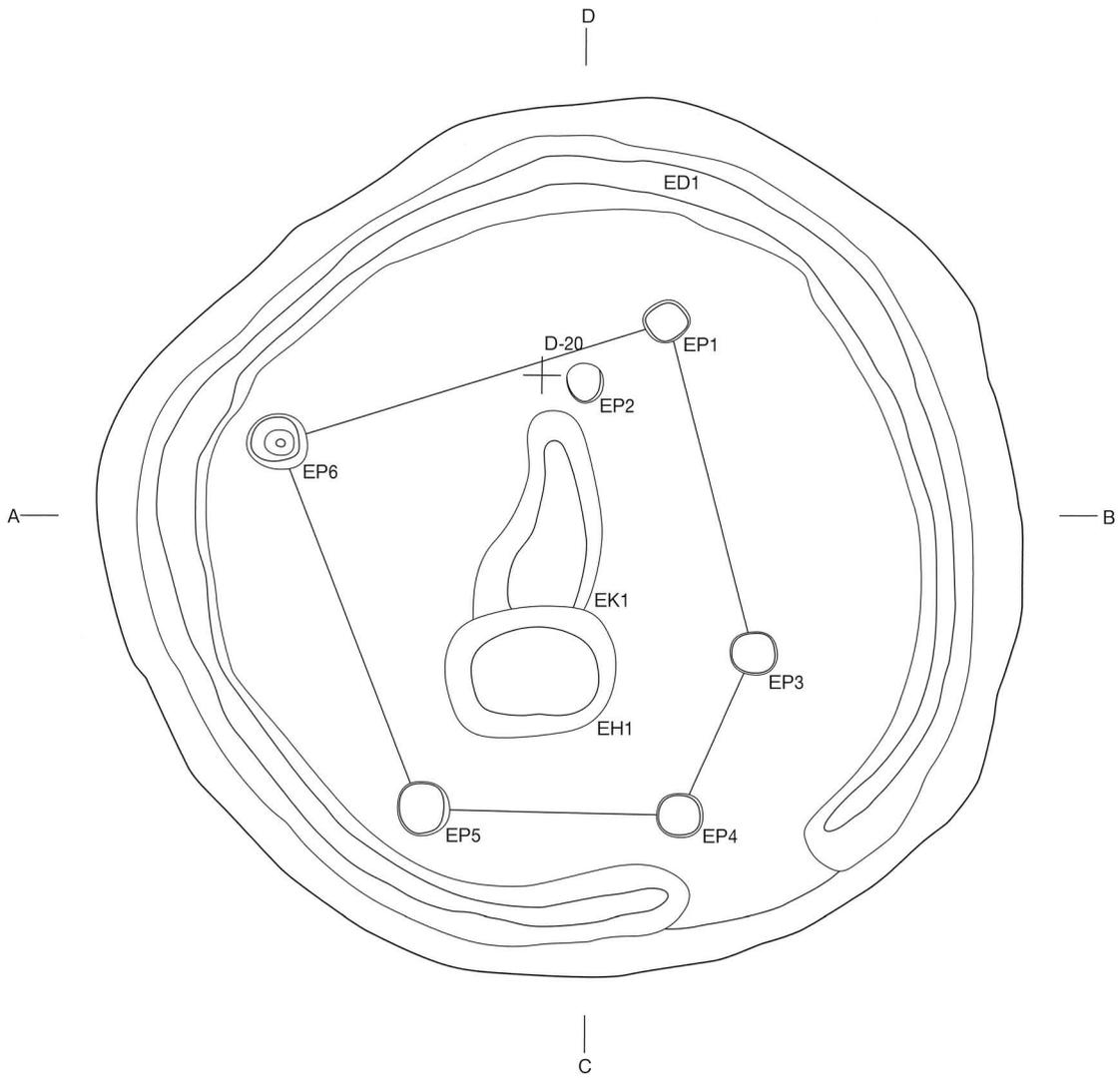


- 1 黒褐色 (2.5Y3/2) 粘性砂質土
- 2 暗オリブ褐色 (2.5Y3/3) 粘性砂質土
- 3 黄灰色 (2.5Y5/1) 粘性砂質土
- 4 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘性砂質土
- 5 オリブ褐色 (2.5Y4/3) 粘性砂質土
- 6 オリブ褐色 (2.5Y4/6) 粘性砂質土
- 7 黄褐色 (2.5Y5/6) 粘性砂質土

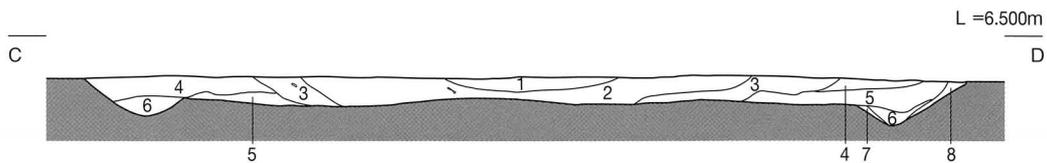


第115図 SB1002・EP 平・断面図





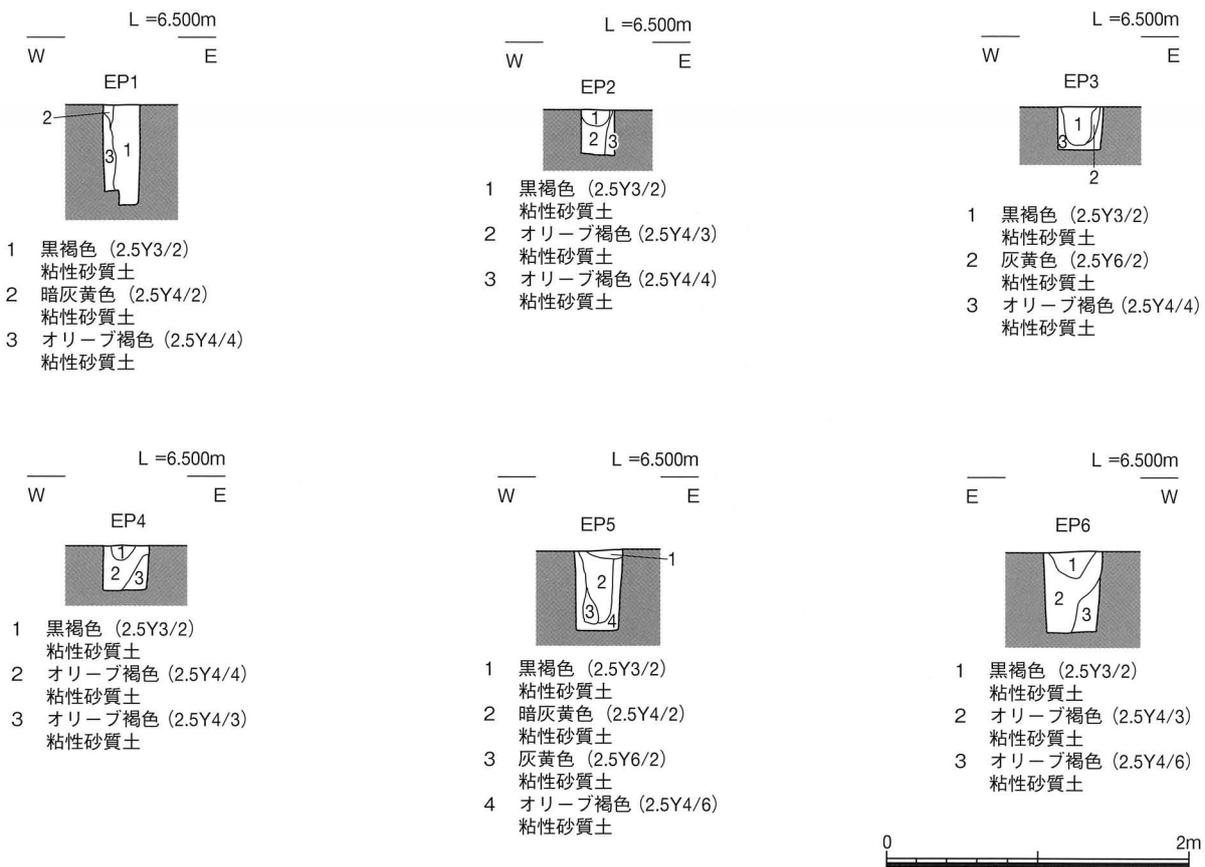
- |                           |                                |
|---------------------------|--------------------------------|
| 1 黒色 (2.5Y2/1) 粘性砂質土      | 4 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘性砂質土         |
| 2 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘性砂質土     | 5 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 粘性砂質土       |
| 3 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 粘性砂質土 | 6 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘性砂質土 (ED1) |



- |                        |                                |
|------------------------|--------------------------------|
| 1 黒色 (2.5Y2/1) 粘性砂質土   | 5 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 粘性砂質土       |
| 2 黒褐色 (2.5Y3/1) 粘性砂質土  | 6 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘性砂質土 (ED1) |
| 3 黒褐色 (2.5Y3/2) 粘性砂質土  | 7 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘性砂質土         |
| 4 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘性砂質土 | 8 オリーブ褐色 (2.5Y4/6) 粘性砂質土       |



第117図 SB1004 平・断面図



第118図 SB1004EP 断面図

竪穴住居 (SB1004) (第117～130図)

検出場所 6区 δ-IV・C-19、20およびD-19、20グリッド

形態・規模 平面形状は、長軸6.10m×短軸5.90m、深度は0.24mの円形である。

土層 オリーブ褐色などの粘性砂質土を8層に細分した。

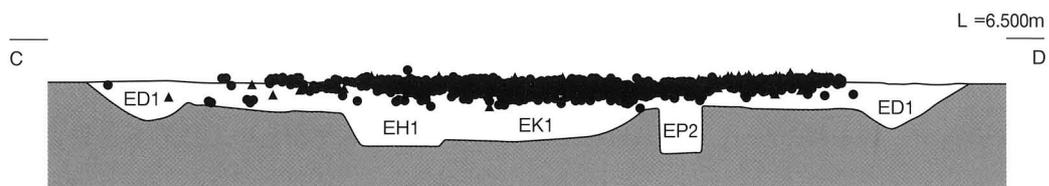
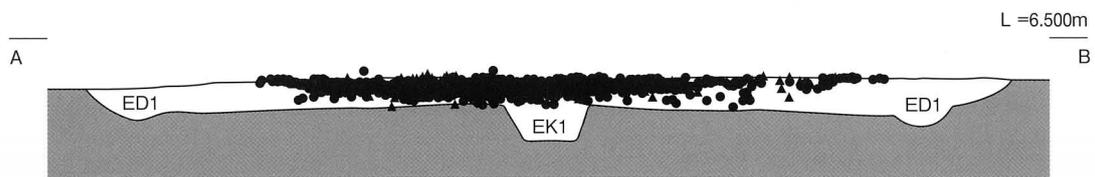
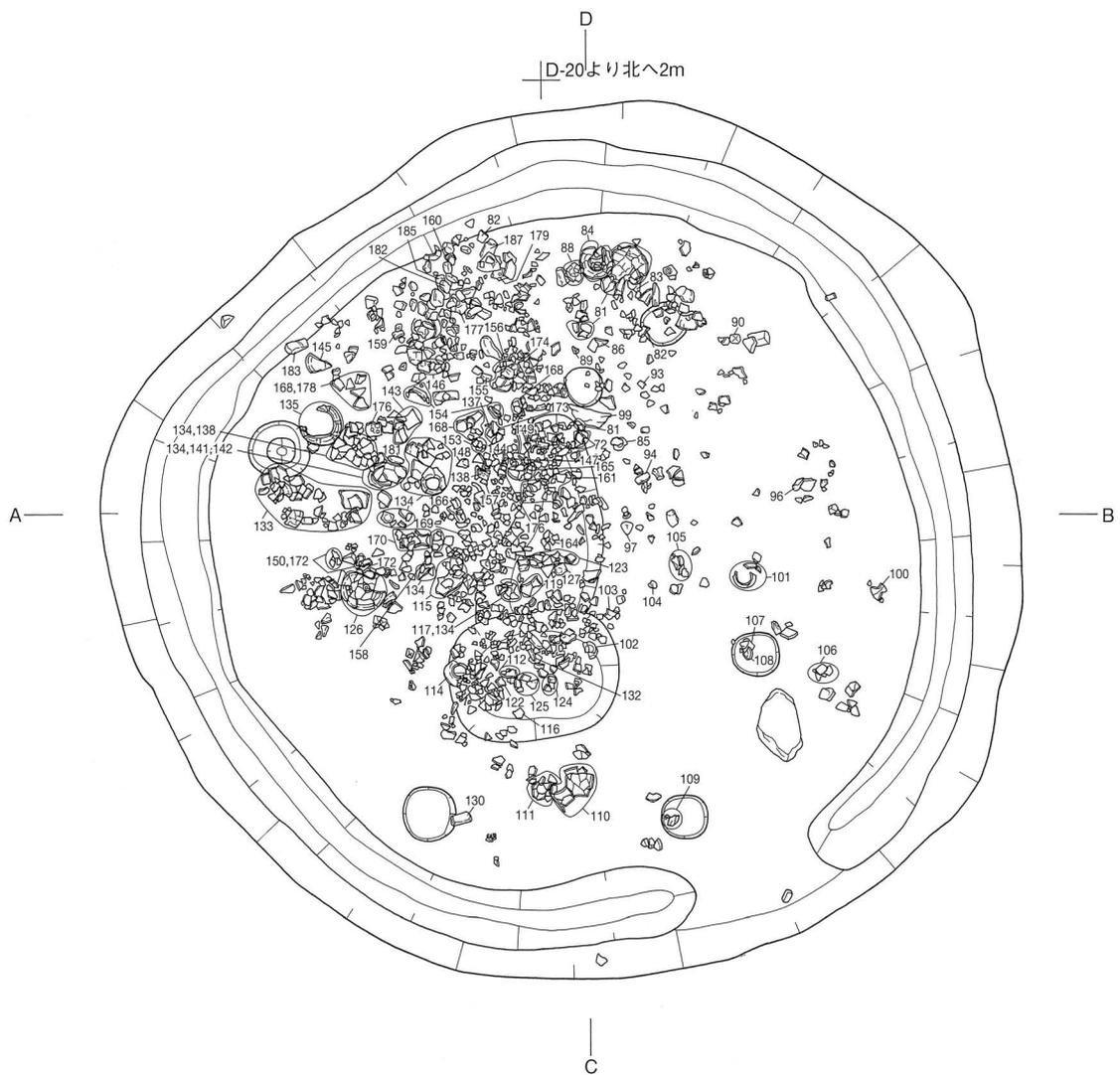
炉 EH1は、床面の中央部から約1m南側で検出した。平面形状はN82°Eを軸とした長軸1.12m×短軸0.85m、深度0.21mの隅丸方形である。黒褐色、黒色の粘性砂質土を6層に細分した(第121図)。上層の1、2層に炭化物、焼土が顕著に見られた。

土坑 EK1の平面形状は、N3°Eを軸とした長軸1.27m(残存値)×短軸0.77m、深度0.20mの長楕円形で、南端をEH1に切られている。暗灰黄色、オリーブ褐色などの粘性砂質土を4層に細分した(第121図)。

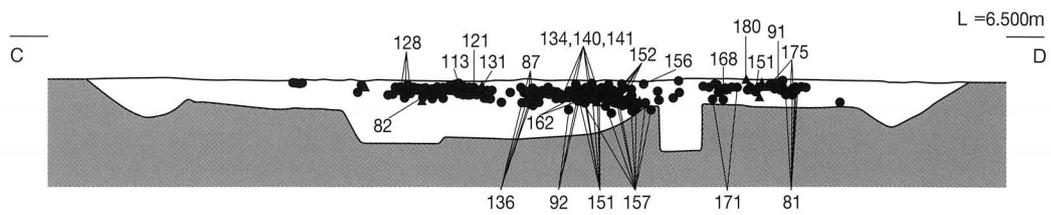
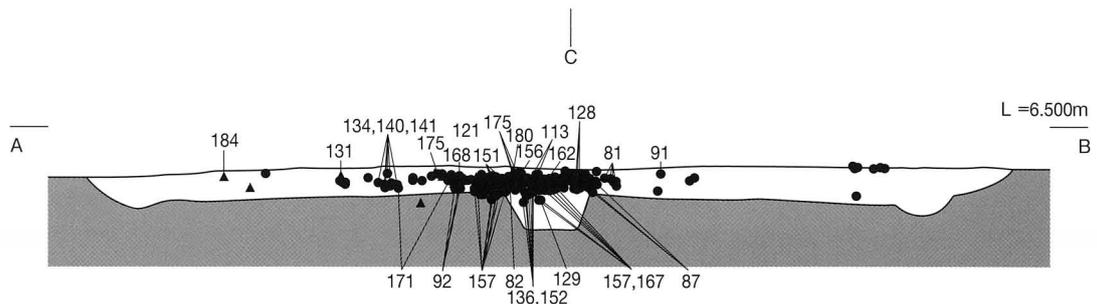
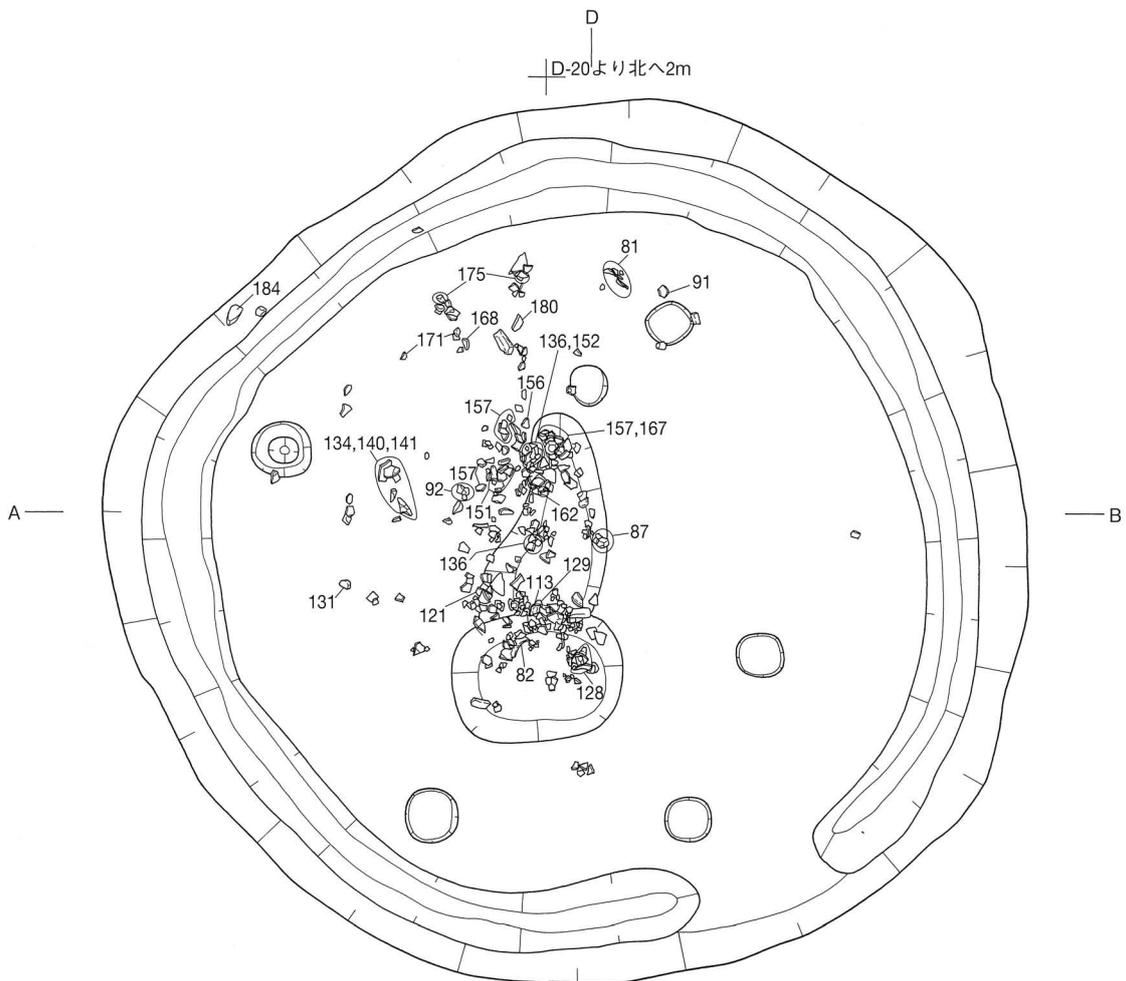
柱穴 炉を囲むように6基の柱穴を検出した。黒褐色、暗灰黄色などの粘性砂質土を3～4層に細分した。

周壁溝 延長15.00m、最大幅0.50m、深度0.12mの溝である。オリーブ褐色の粘性砂質土による単一層である。

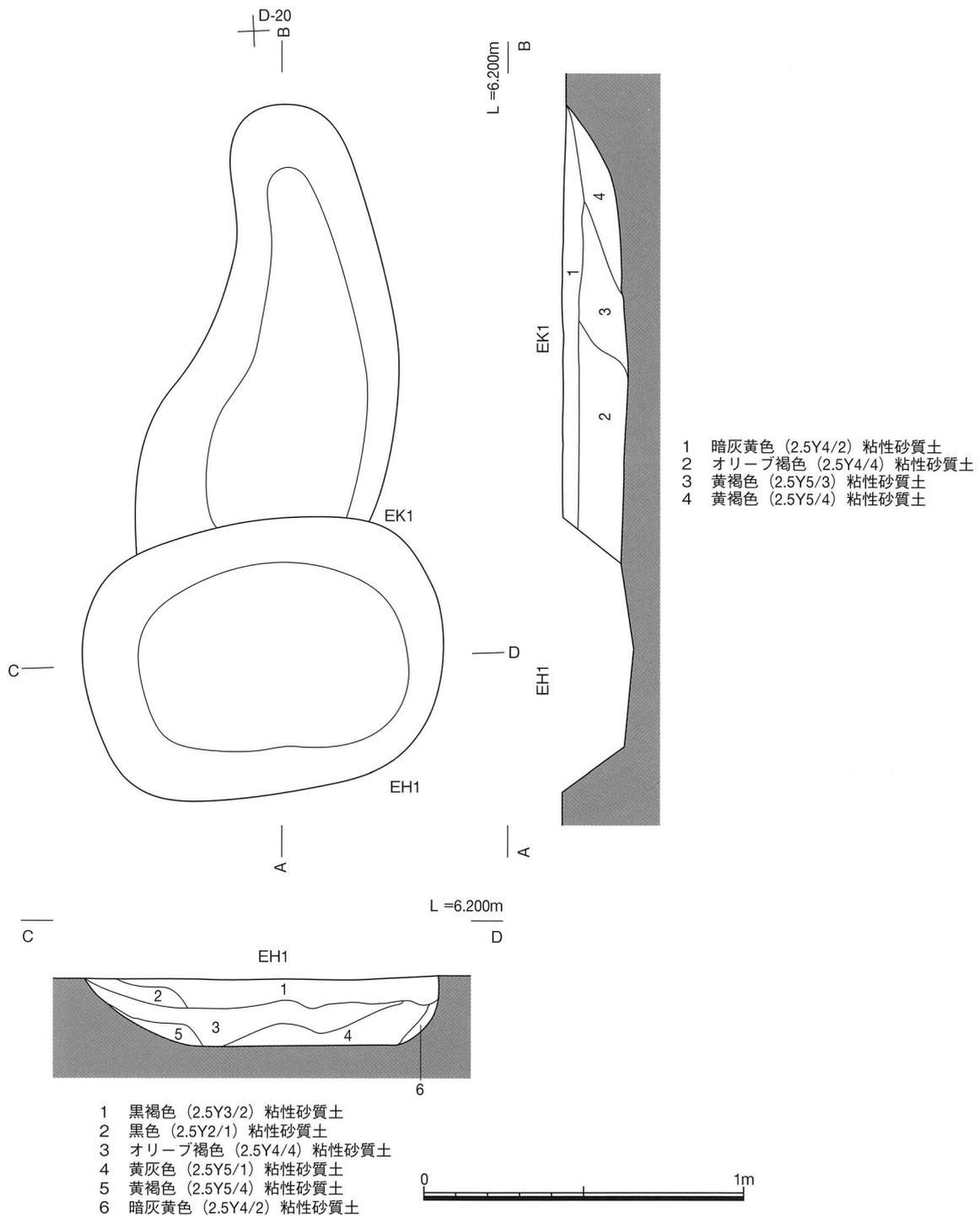
遺物出土状況 遺物は炉(EH1)を中心にSB1004の大部分から出土している。特に上層では、EH1から北西側の範囲に土器の集中部がみられる。下層ではEH1とEK1に集中し、東側での分布は見られなくなる。垂直分布では、遺物はSB1001の中央部で遺構検出面から床面直上にかけて分布し、外側では上層のみの分布になる。これは土層断面図の1～3層の堆積と一致している。下層出土遺物は、断面図の2層とほぼ重なる範囲である。これにより、出土遺物の大半は住居廃絶後に埋没する過程で廃棄され



第119図 SB1004 遺物出土状況図(1)



第120図 SB1004 遺物出土状況図(2)

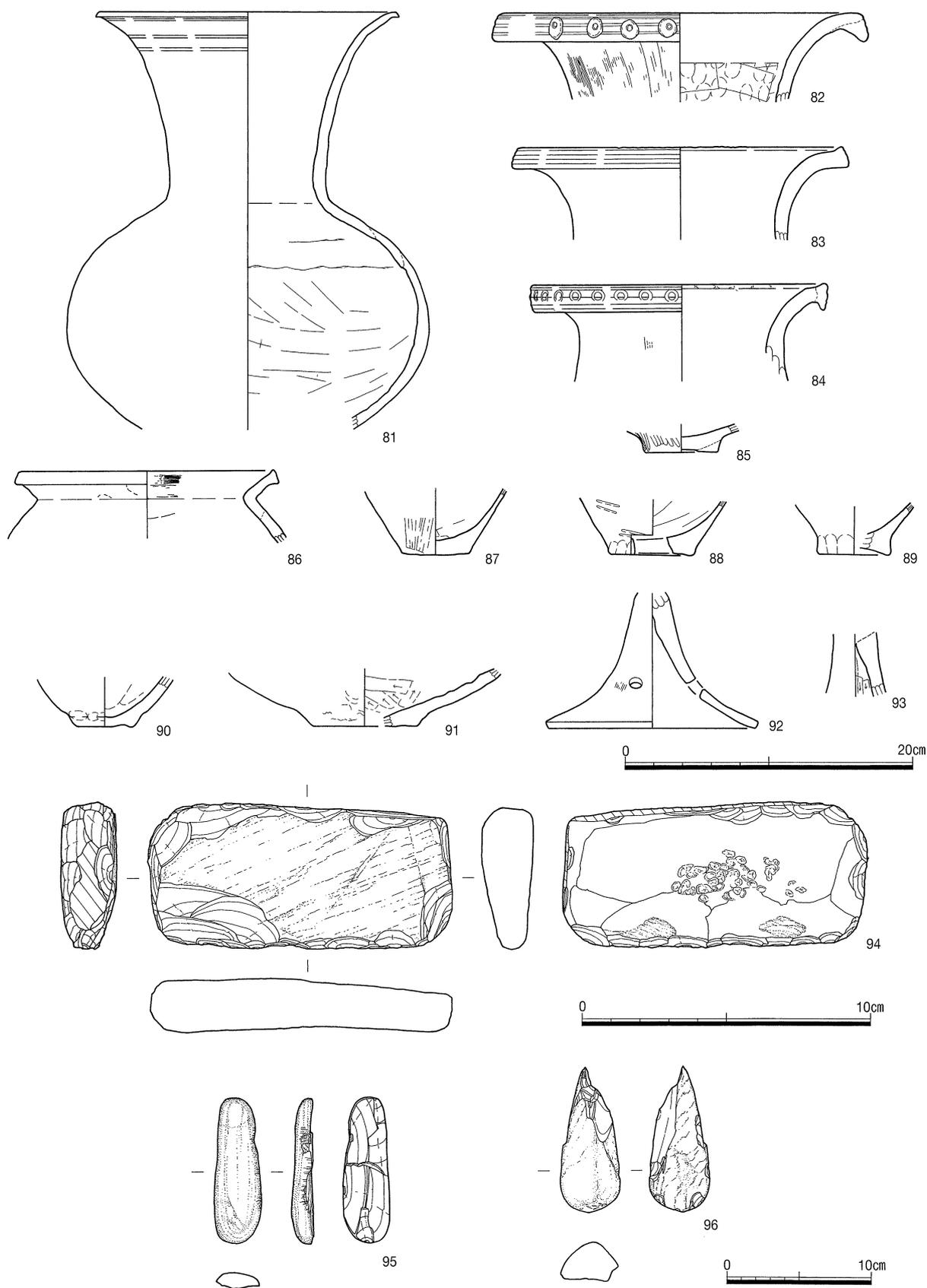


第121図 SB1004EH1・EK1 平・断面図

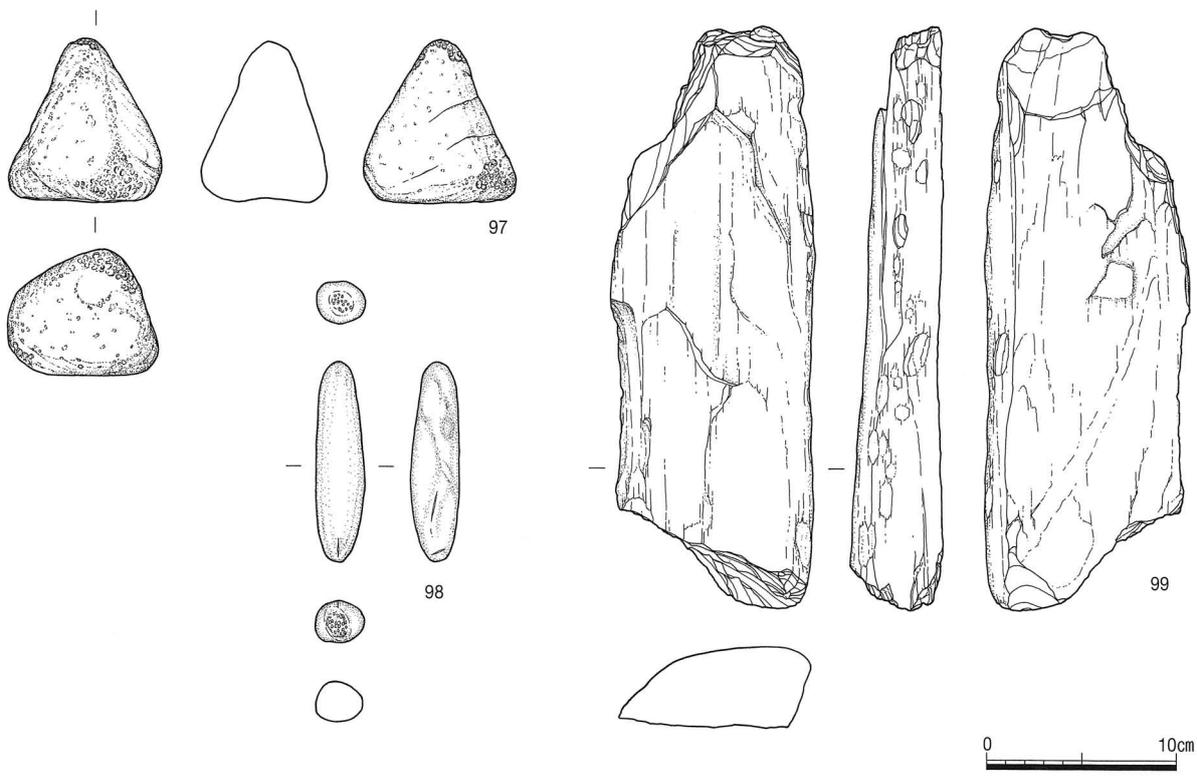
たものと推測され、住居の廃絶との間に若干の時期差が想定される。

**出土遺物** 出土遺物が多量であったため、住居内を A～D の範囲に区切って出土遺物を掲載した。調査時に設定した東西南北のベルトを基に、北東部の 1/4 を A、南東部を B、南西部を C、北西部を D とした。

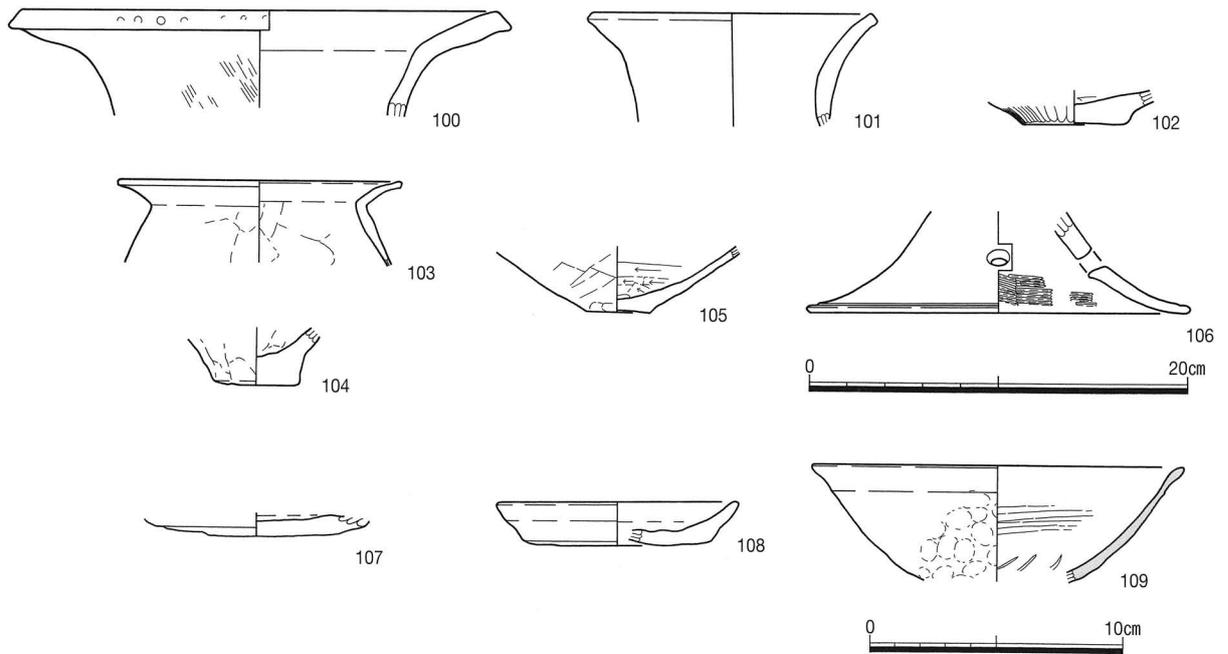
81～99は、A の範囲から出土した遺物である。81～85は壺である。86～90は甕である。91は鉢も



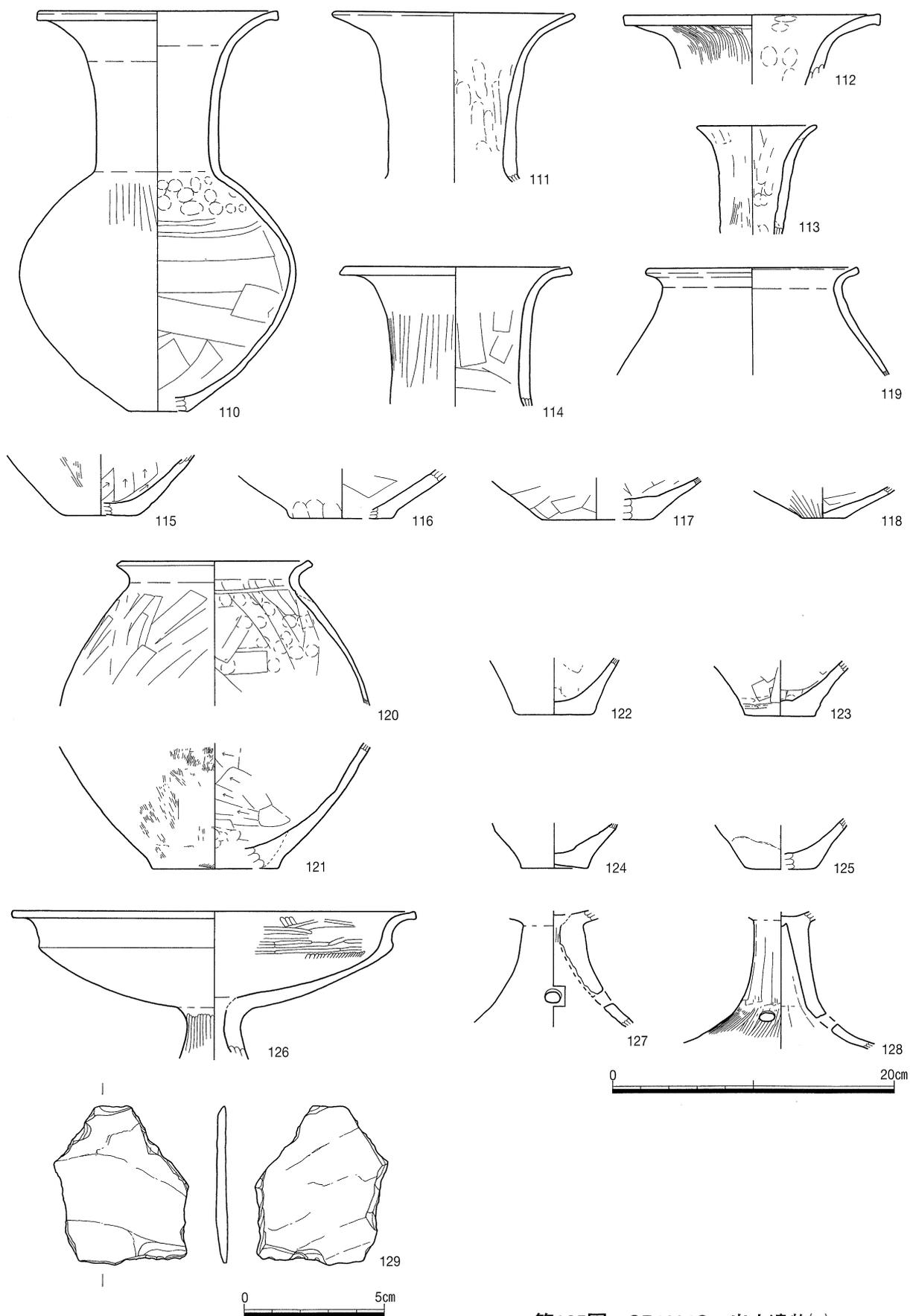
第122図 SB1004A 出土遺物(1)



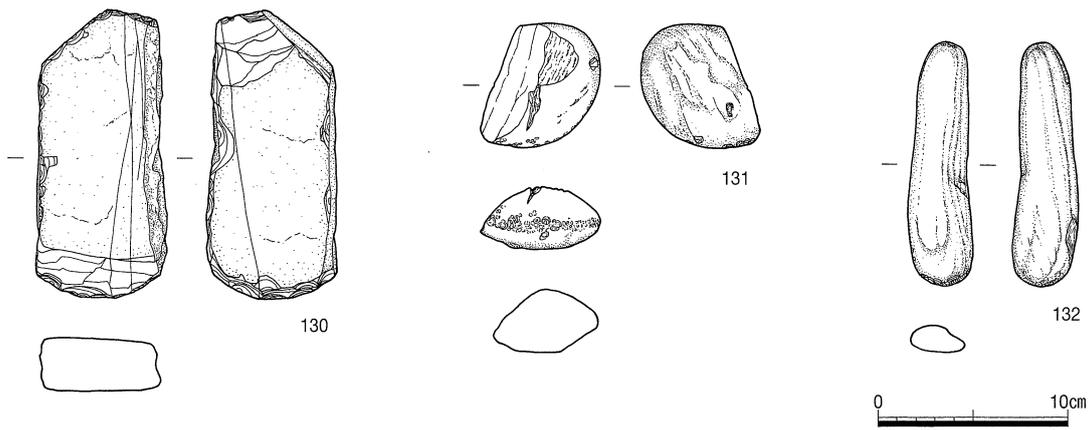
第123図 SB1004A 出土遺物(2)



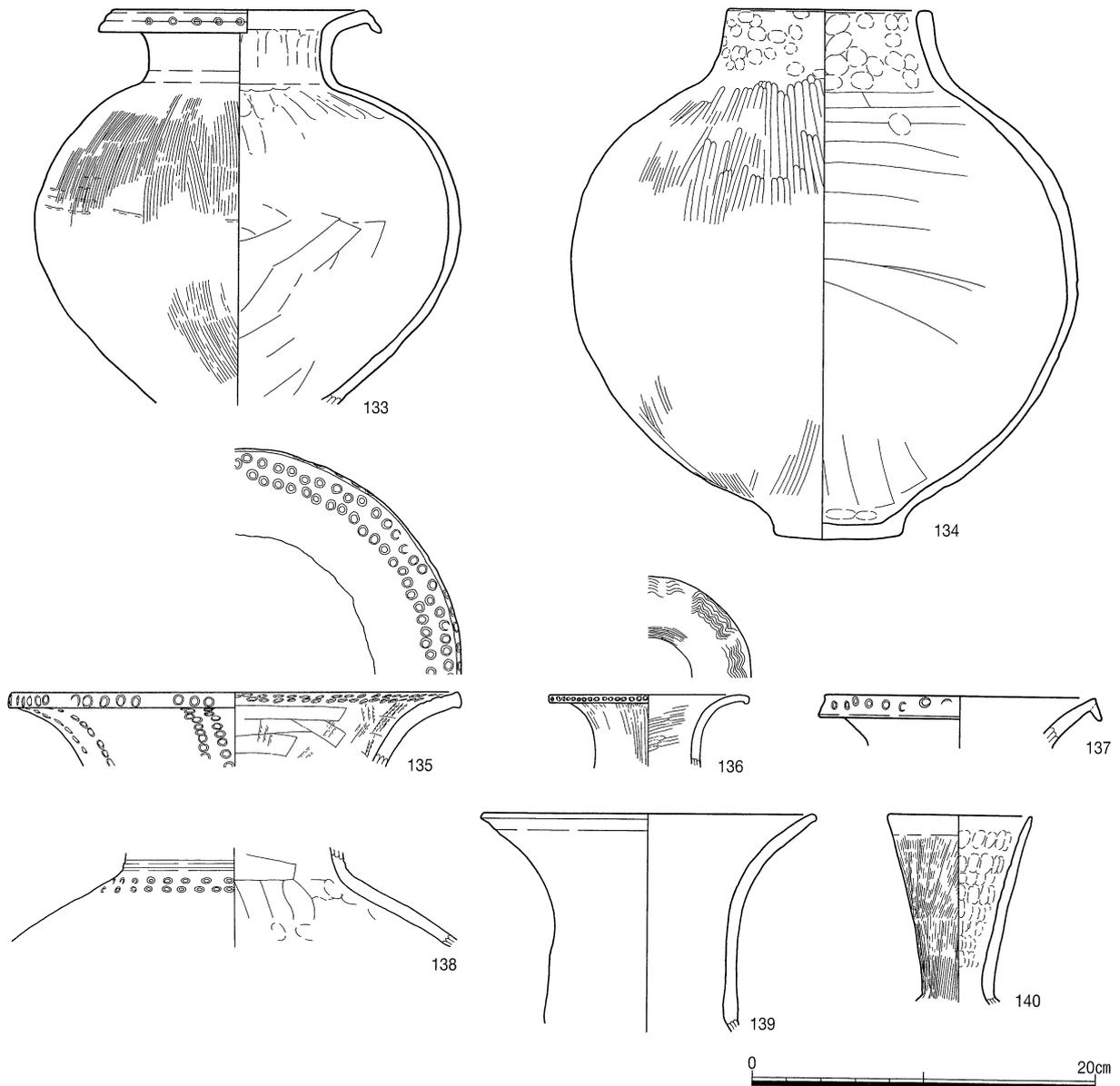
第124図 SB1004B 出土遺物



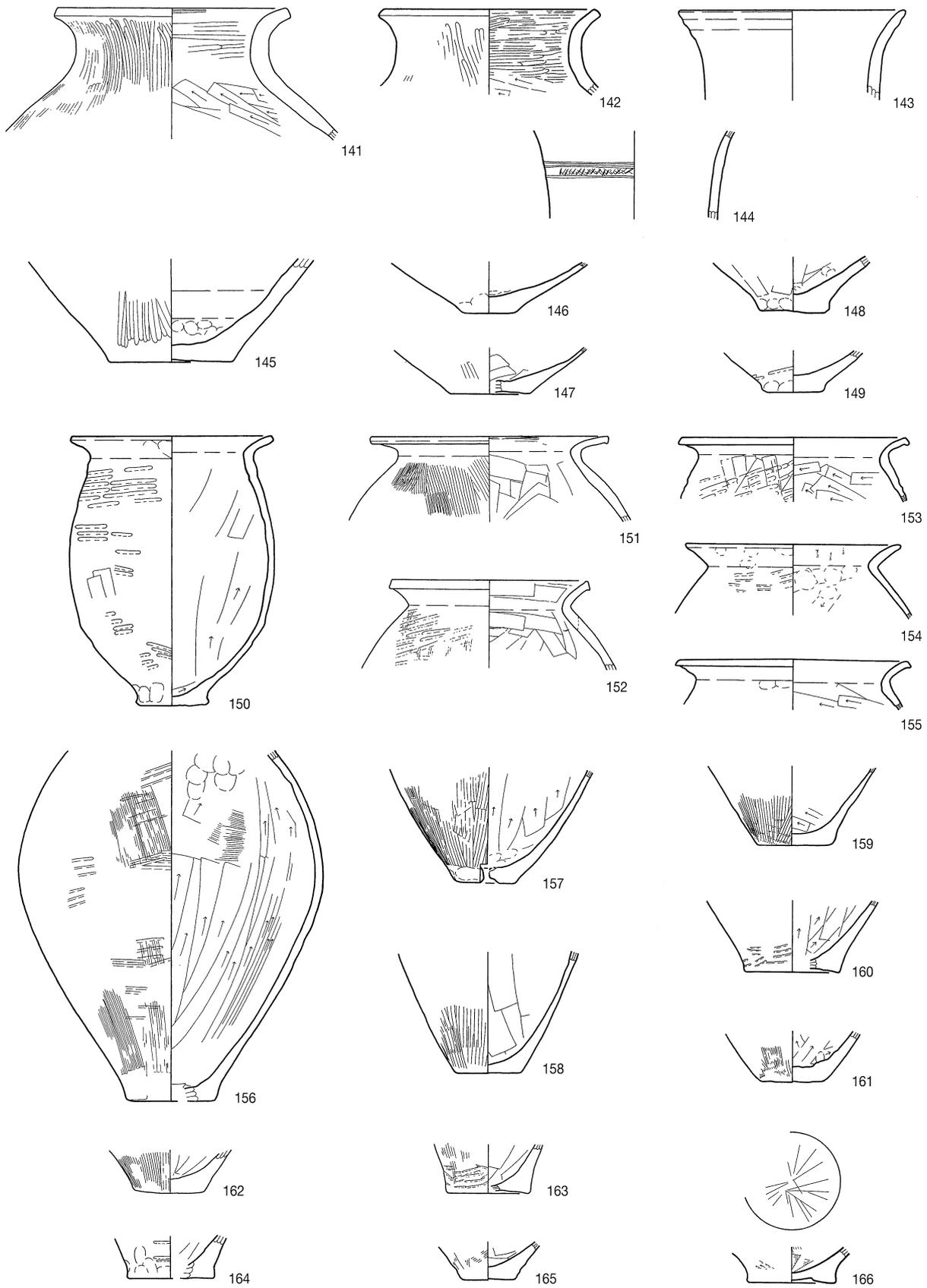
第125図 SB1004C 出土遺物(1)



第126图 SB1004C 出土遺物(2)

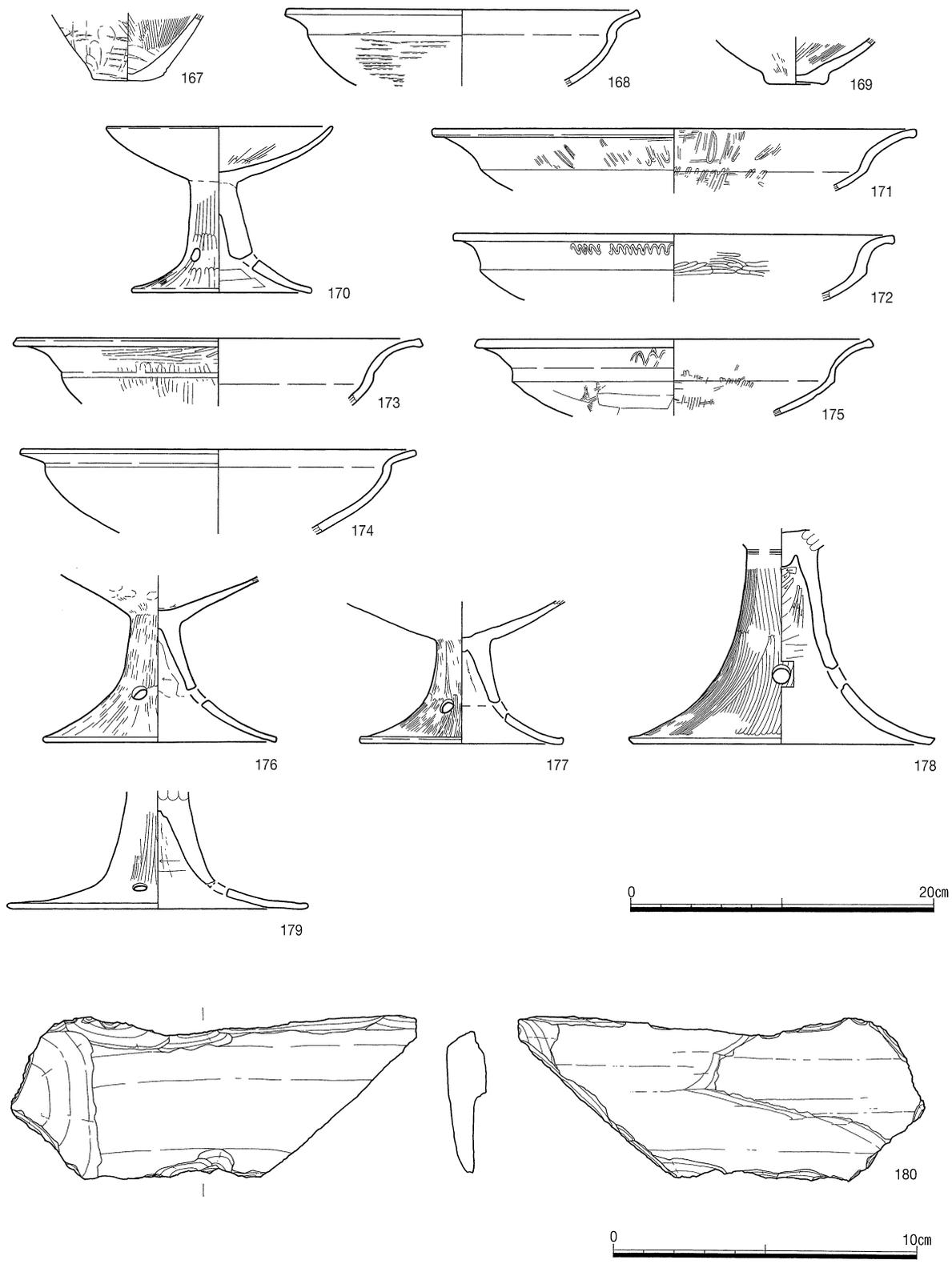


第127图 SB1004D 出土遺物(1)



第128图 SB1004D 出土遺物(2)

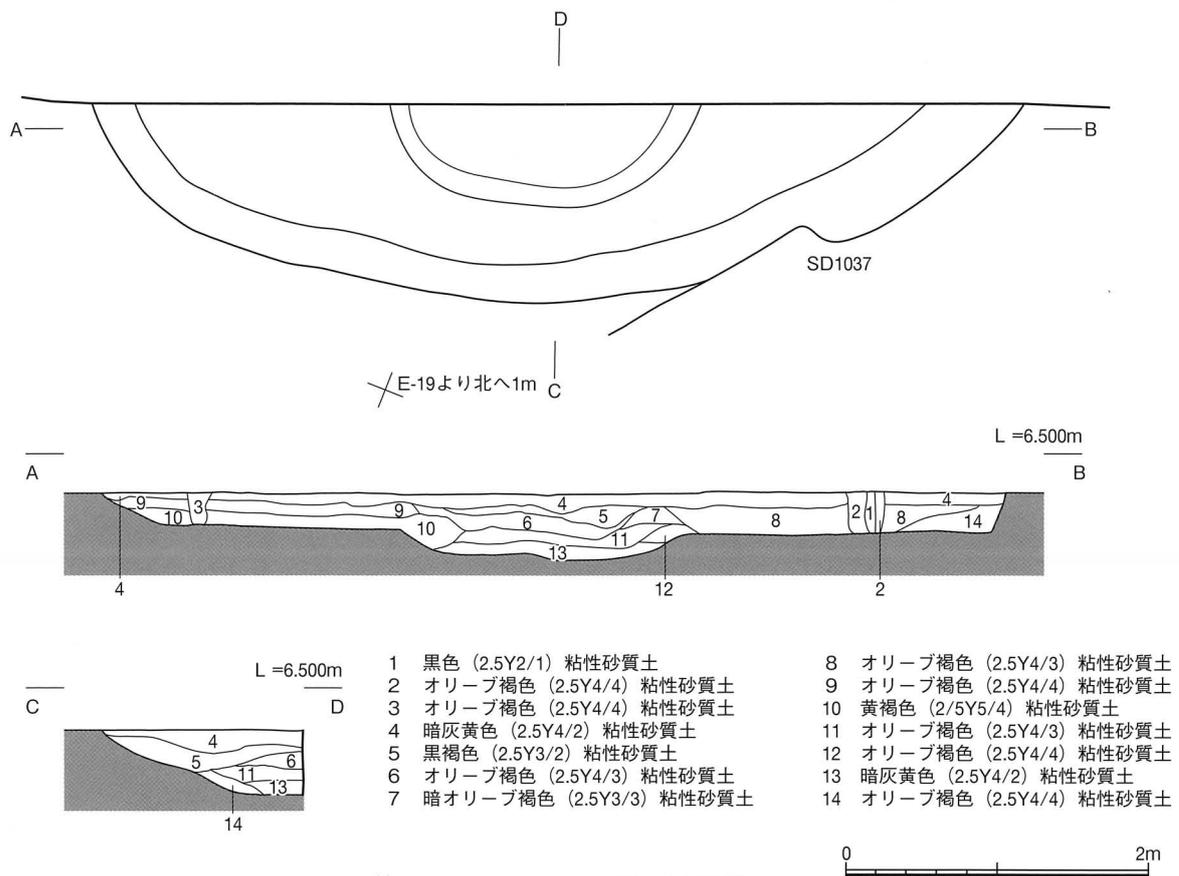
0 20cm



第129図 SB1004D 出土遺物(3)



第130図 SB1004D 出土遺物(4)



第131図 SB1005 平・断面図

しくは壺の底部破片である。92、93は高杯の脚部である。94は打製石庖丁の未製品か。95～99は敲石である。

100～109は、Bの範囲から出土した遺物である。100～102は壺である。103、104は甕である。105は鉢である。106は高杯の脚部である。107、108は土師器の杯である。109は和泉型瓦器碗である。

110～132は、Cの範囲から出土した遺物である。110～118は壺である。119～125は甕である。126～128は高杯である。129は打製石庖丁の破片か。130～132は敲石である。

133～188は、Dの範囲から出土した遺物である。133～149は壺である。150～167は甕である。168、169は鉢である。170～179は高杯である。174は鉢の可能性もある。180は打製石庖丁の未製品か。181、182は敲石である。183～187は石錘である。188は鉄製品である。

時期 弥生時代後期後半と考えられる。

#### 竪穴住居 (SB1005) (第131図)

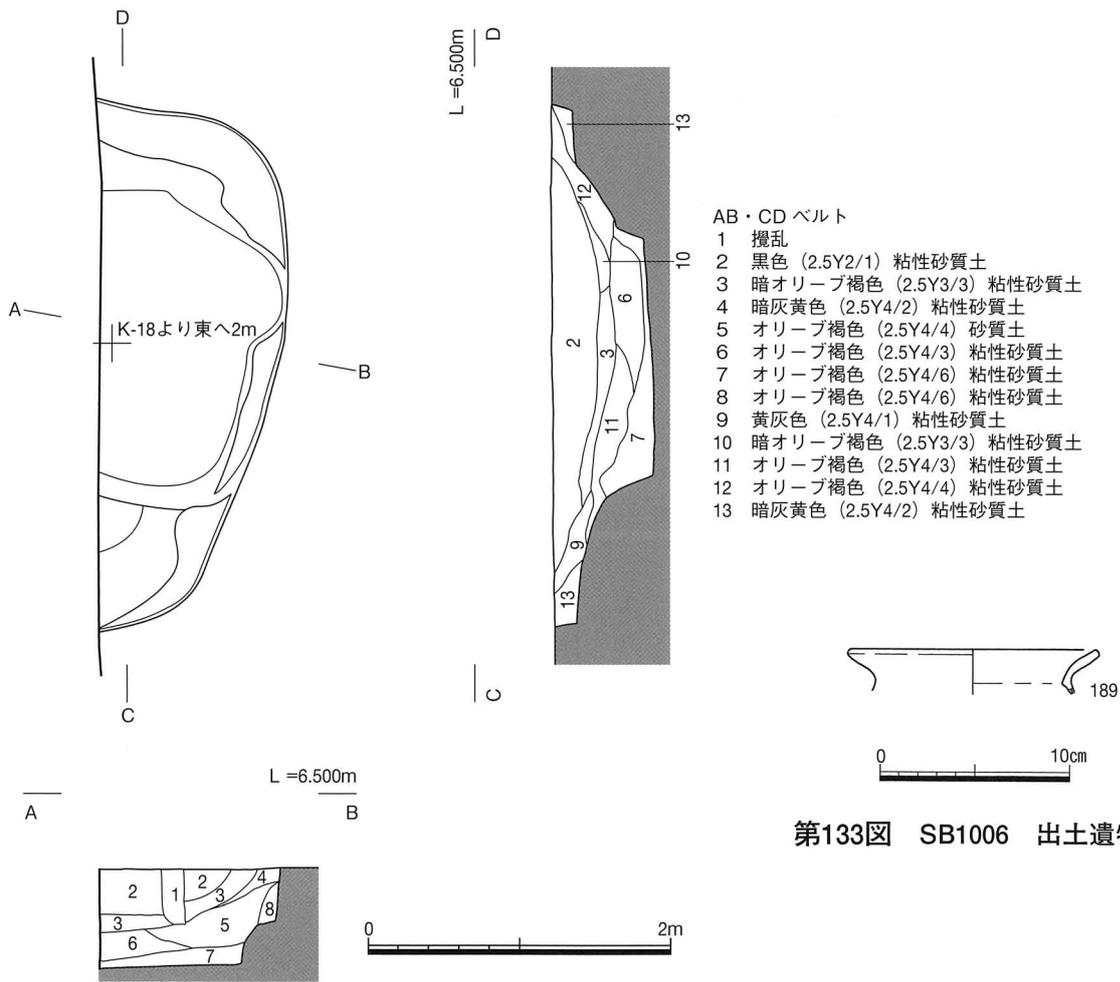
検出場所 6区 δ-IV・E-18およびE-19グリッド

形態・規模 北側の大部分が調査区外に位置するが、残存部分の形状から円形であったと推測される。長軸4.70m (残存値) × 短軸1.30m (残存値)、深度は0.44mである。

土層 黒褐色、オリーブ褐色を中心とした粘性砂質土を14層に細分した。

炉 検出されていない。

土坑 検出されていない。



第133図 SB1006 出土遺物

第132図 SB1006 平・断面図

柱穴 検出されていない。

遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

出土遺物 図化できる遺物は出土していない。

時期 他の遺構の時期を考慮すると、弥生時代後期と推測される。

#### 竪穴住居 (SB1006) (第132・133図)

検出場所 7区 δ-IV・J-18およびK-18グリッド

形態・規模 西側の大部分が調査区外に位置するため、平面形状は不明である。残存部分の形状から隅丸方形であったと推測される。長軸3.45m (残存値) × 短軸1.25m (残存値)、深度は0.65mである。

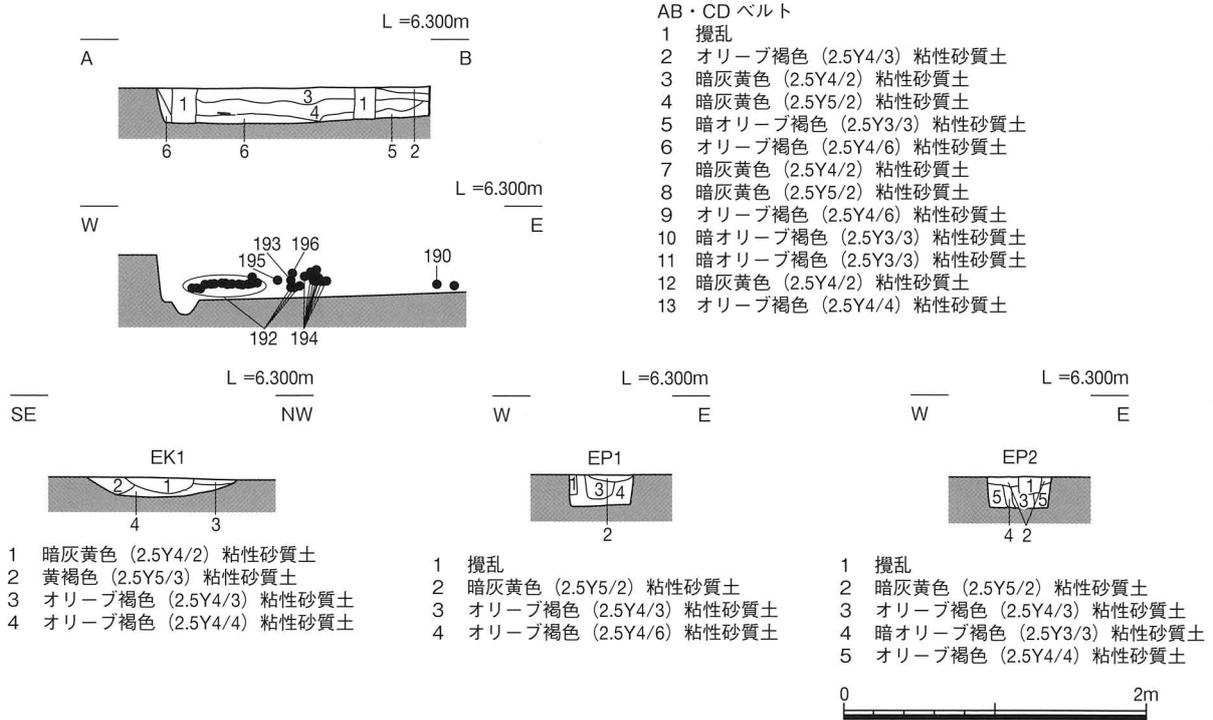
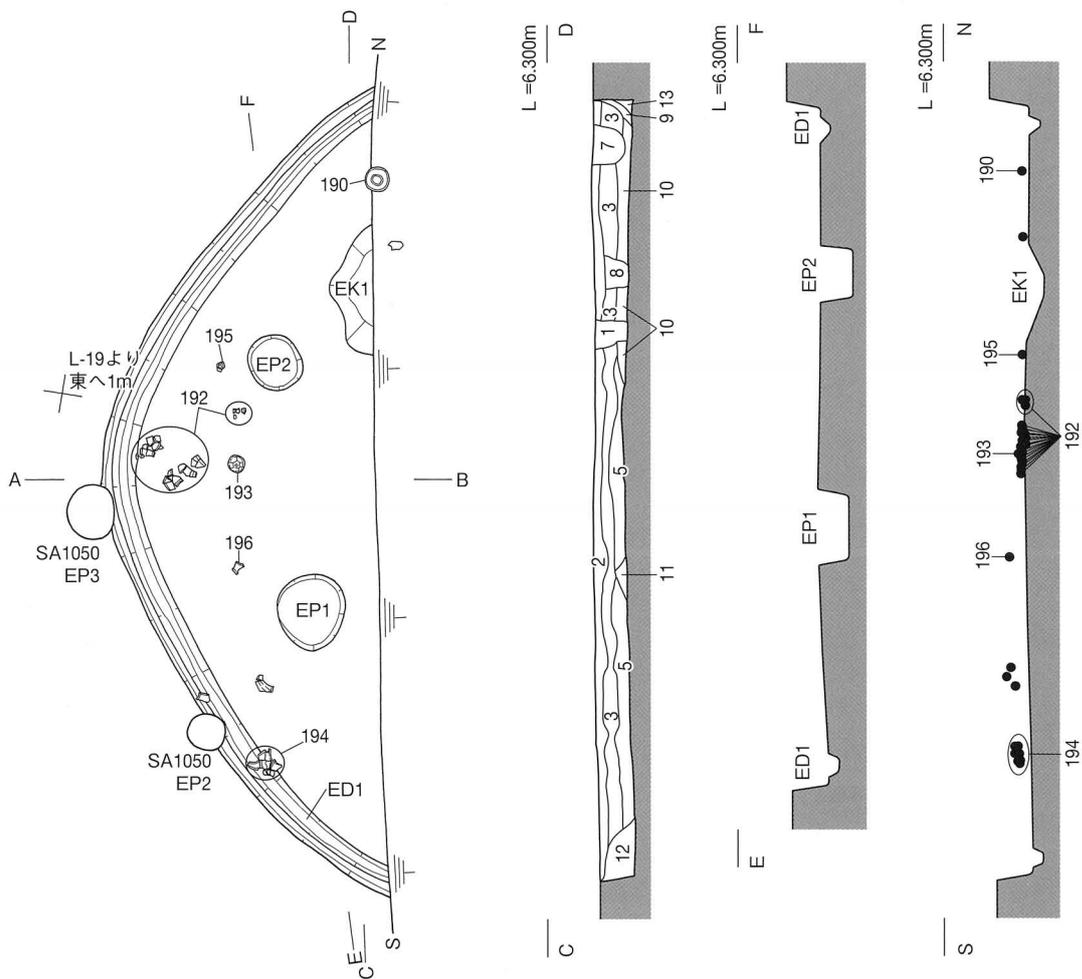
土層 オリーブ褐色、暗灰黄色を中心とした粘性砂質土を13層に細分した。

炉 検出されていない。

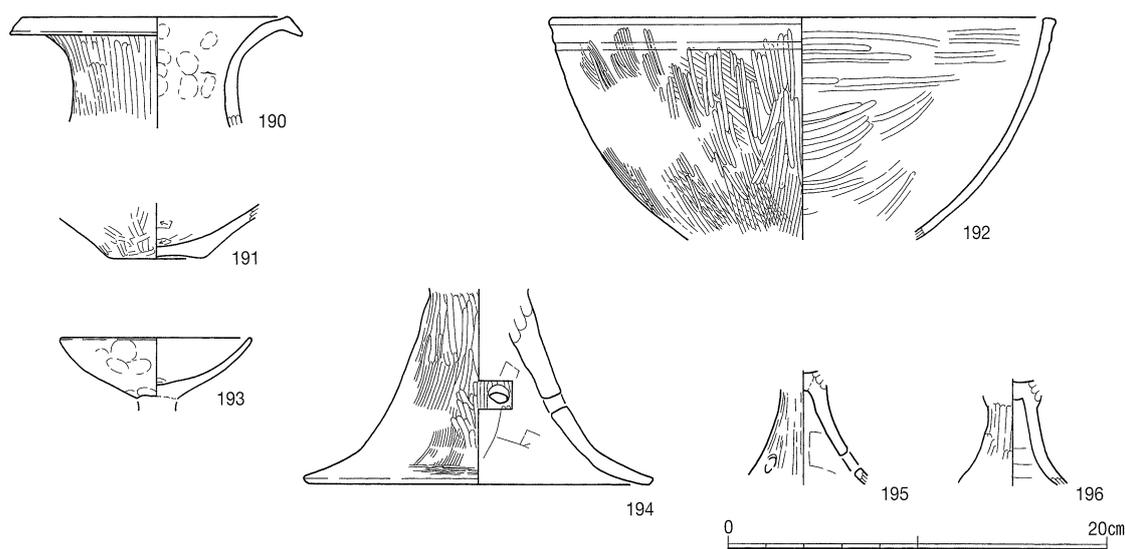
土坑 検出されていない。

柱穴 検出されていない。

遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。



第134図 SB1007・EK・EP 平・断面図・遺物出土状況図



第135図 SB1007 出土遺物

出土遺物 189は甕の口縁部破片である。

時期 弥生時代後期と考えられる。

竪穴住居 (SB1007) (第134・135図)

検出場所 7区 δ-IV・K-19およびL-19グリッド

形態・規模 西側の大部分が調査区外に位置するが、残存部分の形状から円形であったと推測される。長軸5.40m (残存値) × 短軸1.70m (残存値)、深度は0.26mである。

土層 暗灰黄色、暗オリーブ褐色を中心とした粘性砂質土を13層に細分した。

炉 検出されていない。

土坑 EK1は住居北側で検出された。東半分が調査区外に位置し、全体の形状は不明である。平面形状は長軸0.85m (残存値) × 短軸0.30m (残存値) の不整形と推測され、深度0.13mである。暗灰黄色、黄褐色、オリーブ褐色の粘性砂質土を4層に細分した。

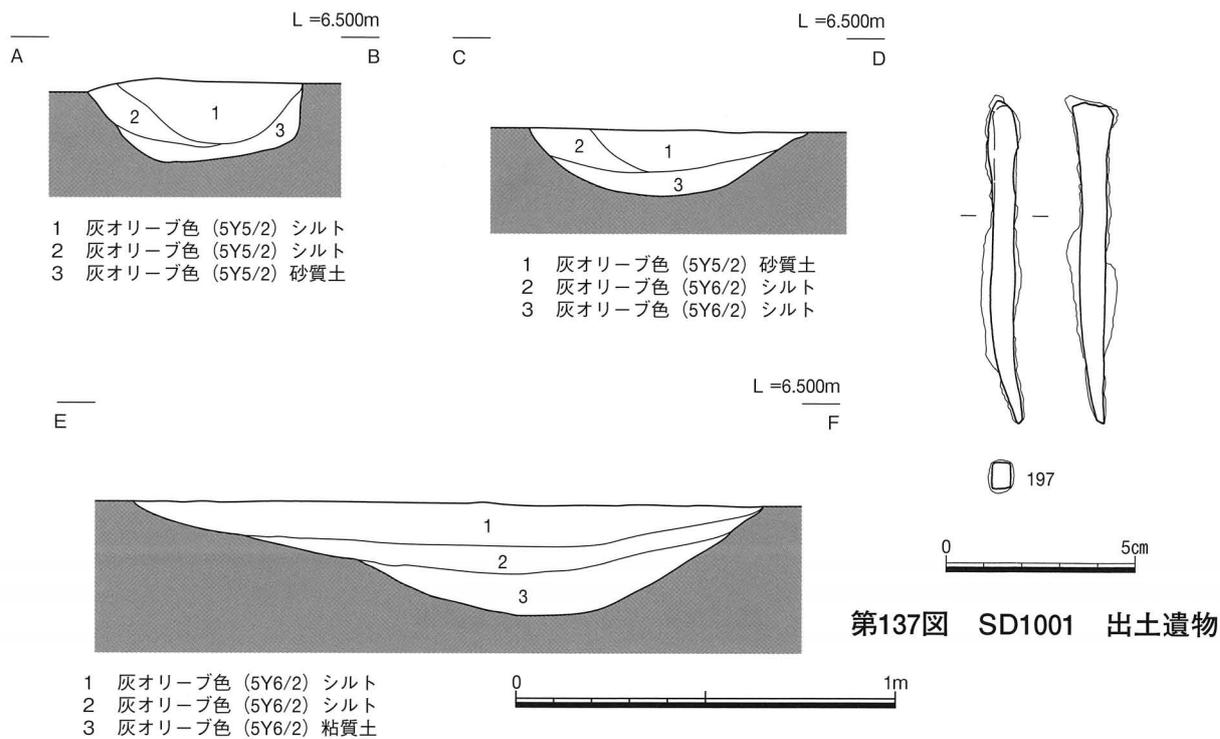
柱穴 2基が検出された。各柱穴は暗灰黄色、オリーブ褐色などの粘性砂質土で、EP1は4層に、EP2は5層に細分した。

周壁溝 延長6.75m (残存値)、最大幅0.15m、深度0.10mの溝である。

遺物出土状況 遺物は住居の西側に分布する。垂直分布では、4層から出土した遺物が多い。

出土遺物 190、191は壺である。192は鉢である。193～196は高杯である。

時期 弥生時代後期前半と考えられる。



第136図 SD1001 断面図

④溝状遺構

溝状遺構 (SD1001) (第136・137図 付図10)

検出場所 1区 a-IV・S-19、20、T-19、20およびβ-IV・A-19、20、B-19、20グリッド

規模・断面形態 南側の2/3は、真北を軸に調査区の中央を縦断する。北側の1/3はN18°Wを軸に延びる。残存する延長距離は15.7mである。最大幅1.5m、深さ0.3mを測る。断面形状は逆台形および逆三角形で、南側(AB)は幅が狭く、北側(CD)で広がっている。断面図から、南から北への流れと推測される。

土層 灰オリーブ色のシルトを3層に細分した。南側(AB)の最下層には砂質土が、北側(EF)の最下層では粘質土が堆積する。

遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

出土遺物 197は鉄製品の釘である。

時期 同一遺構面の遺構の時期を考慮すると、中世以降と推測される。

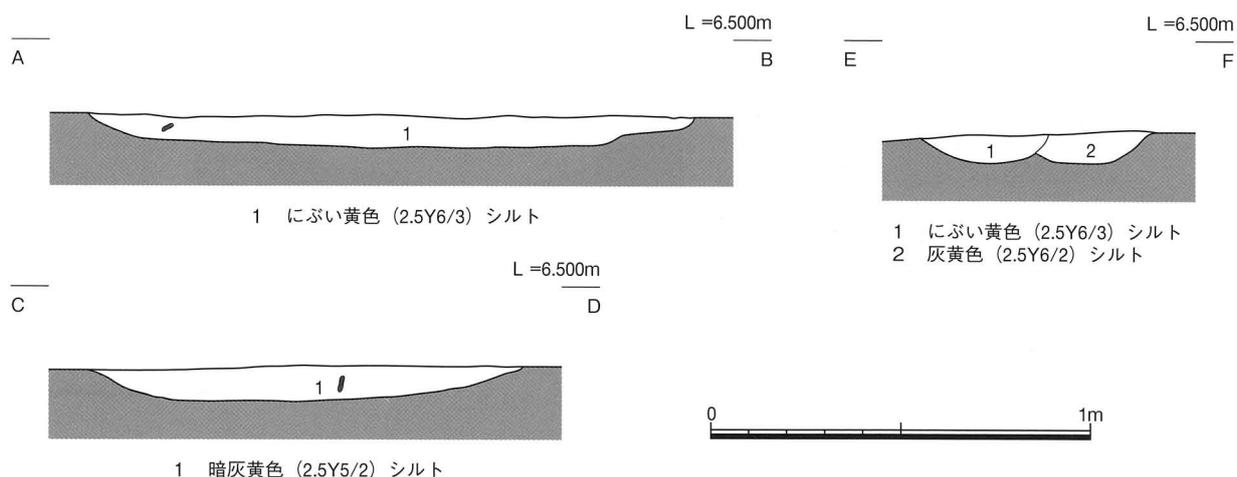
溝状遺構 (SD1002) (第138・139図 付図10)

検出場所 1区 a-IV・S、T-19およびβ-IV・A、B-19グリッド

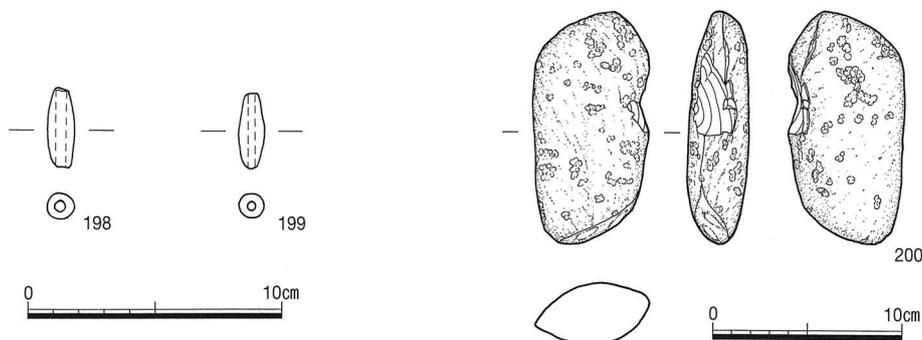
規模・断面形態 N12°Wを軸に南北に延びるが、浅いため平面形状は不整形である。残存する延長距離は6.2mである。最大幅1.95m、深さ0.08mを測る。断面形状は皿形である。幅は南側(AB)が広く、北側(EF)が狭くなる。断面図から、南から北への流れと推測される。

土層 におい黄色、灰黄色のシルトを1~2層に細分した。

遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。



第138図 SD1002 断面図



第139図 SD1002 出土遺物

出土遺物 198、199は土錘である。200は敲石である。

時期 同一遺構面の遺構の時期を考慮すると、中世以降と推測される。

溝状遺構 (SD1003) (第140・141図 付図10)

検出場所 1区 a-IV・B-18およびB-19グリッド

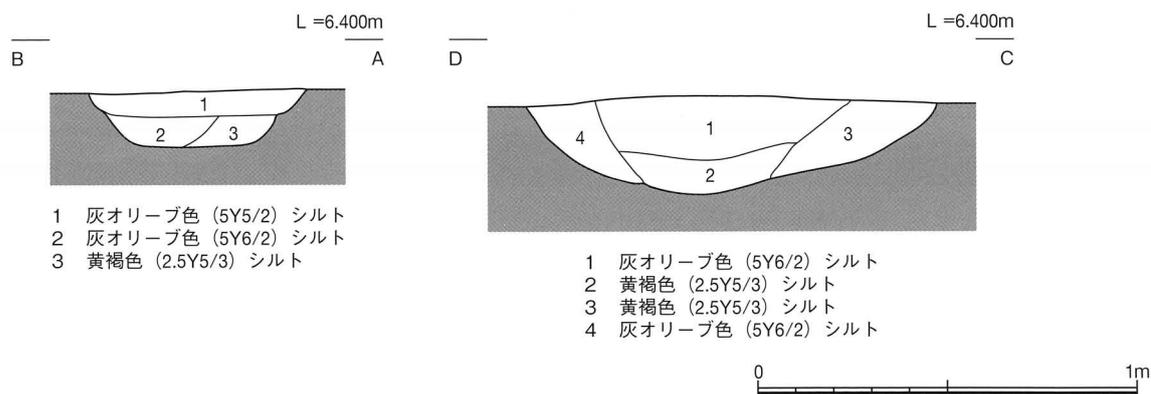
規模・断面形態 N88°Wを軸に、SD1001から西側へ延びる。残存する延長距離は4.3mである。最大幅1.20m、深さ0.25mを測る。断面形状は逆台形および半円形である。東側(AB)は幅が狭く、西側(CD)は広い。底面の高さから考えると、東から西への流れと推測される。

土層 灰オリーブ色、黄褐色のシルトを3～4層に細分した。

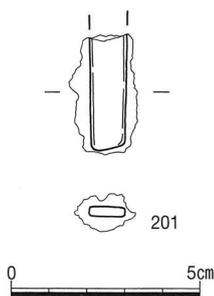
遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

出土遺物 201は板状の鉄製品である。刀子の破片か。

時期 同一遺構面の遺構の時期を考慮すると、中世以降と推測される。



第140図 SD1003 断面図



第141図 SD1003 出土遺物

溝状遺構 (SD1004) (第142～145図 付図11)

検出場所 2区  $\beta$ -IV・D-18～20、E～G-20 および  $\beta$ -V・E～H-1グリッド

規模・断面形態 N32° Wを軸に南西から北東にやや湾曲して延びる。残存する延長距離は22.90mである。最大幅4.25m、深さ0.86mを測る。各断面において西側の肩に落ち込みが見られることから、埋没の最終段階で細い溝状遺構が存在していたと考えられる。南西から北東への流れと推測される。

土層 黄褐色、暗灰黄色のシルト、砂質土などを17層に細

分した。

遺物出土状況 D-18、19グリッドおよびD-19、20グリッドで集石が見られた。両集石の中間が攪乱で失われているが、一連の集石であったと推測される。南側は調査区外にあたる。

出土遺物 202は土師器の杯である。203は和泉型瓦器碗Ⅲ-2期である。204は弥生土器の甕、205は鉢である。206は石鏃である。

時期 13世紀前半と考えられる。

溝状遺構 (SD1006) (第146・147図 付図11)

検出場所 2区  $\beta$ -IV・D、E-20 および  $\beta$ -V・E-1グリッド

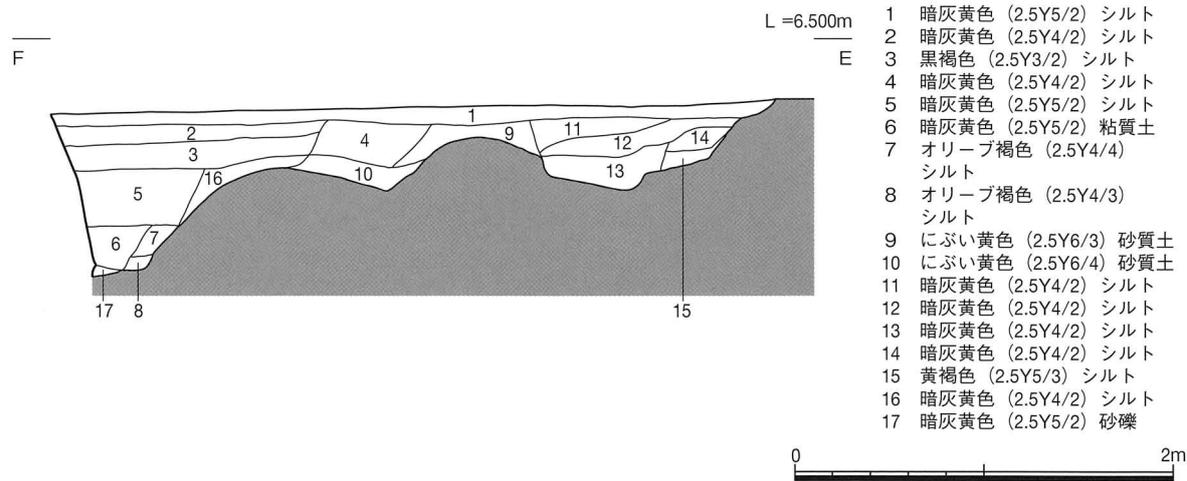
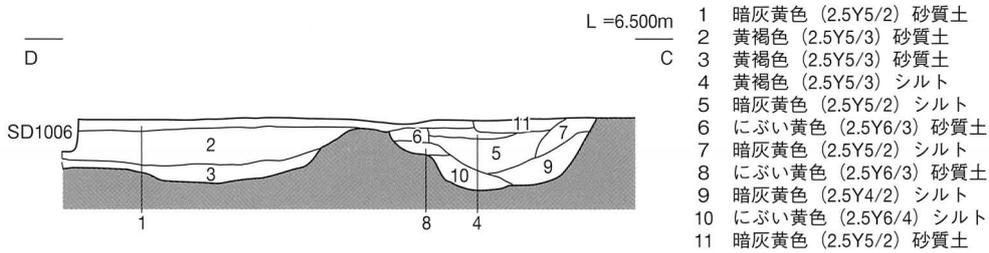
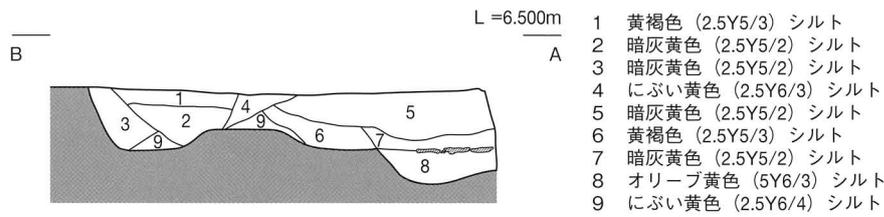
規模・断面形態 N40° Wを軸に南西から北東に延びるが、両端は攪乱され、一部のみ残存する。残存する延長距離は5.90mである。最大幅0.95m、深さ0.15mを測る。断面形状は不整形の皿形である。底面の高さから南西から北東への流れと推測される。

土層 黄褐色のシルトと灰オリーブ色の砂質土の2層に細分した。

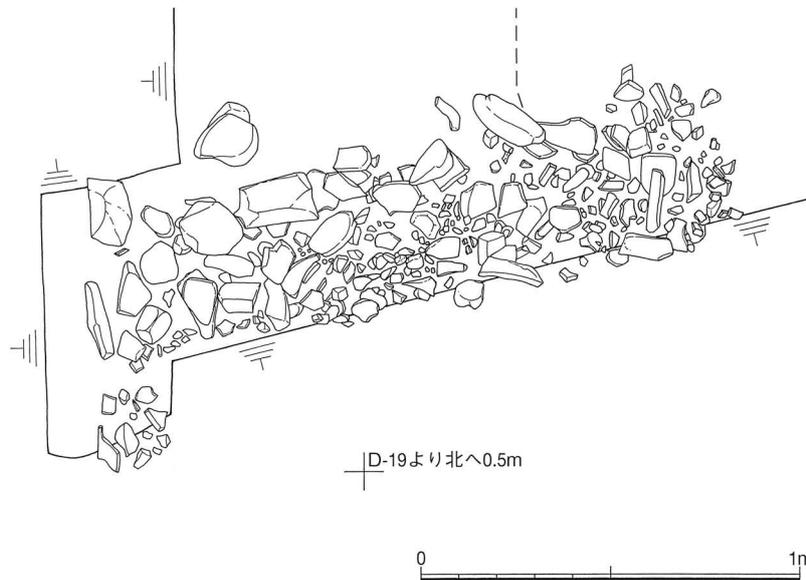
遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

出土遺物 207は肥前系の皿である。

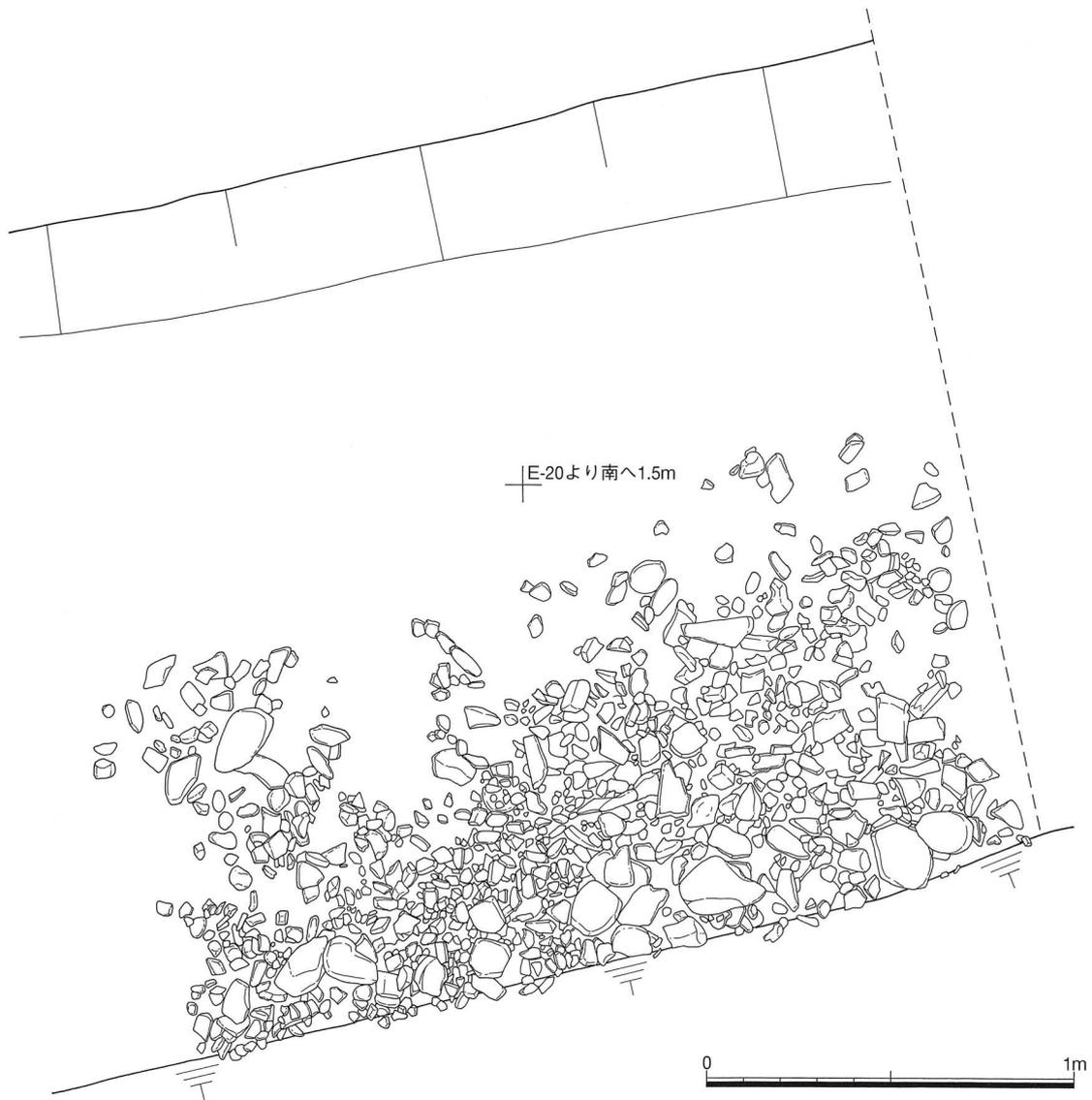
時期 近世と考えられる。



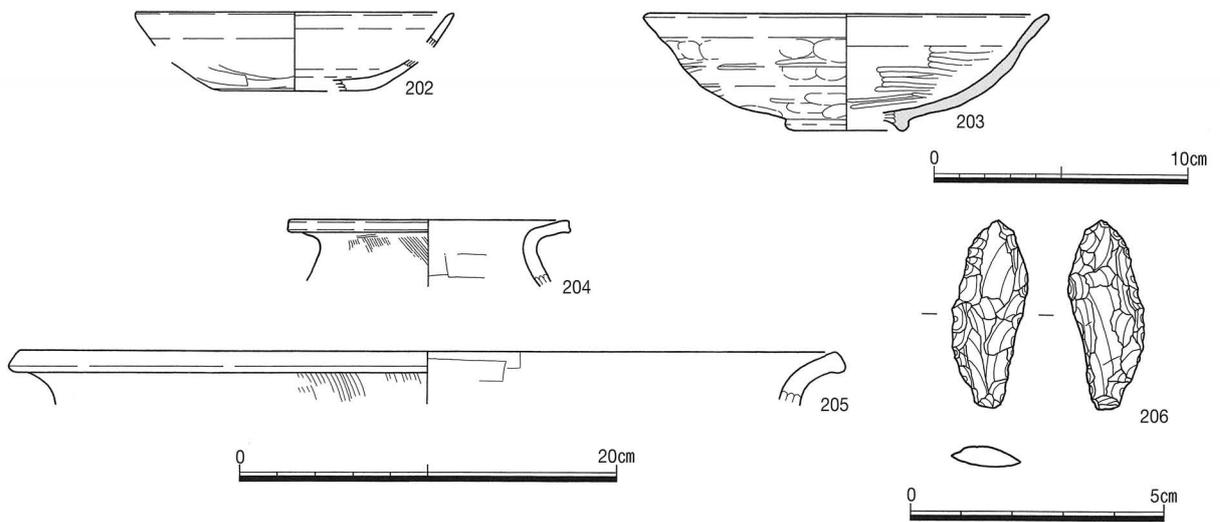
第142図 SD1004 断面図



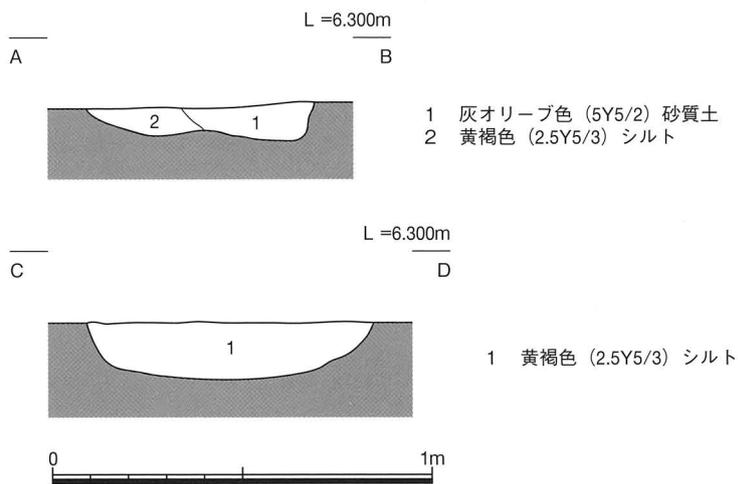
第143図 SD1004 遺物出土状況図(1)



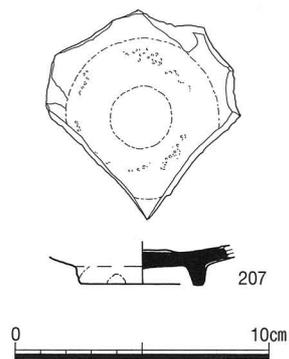
第144図 SD1004 遺物出土状況図(2)



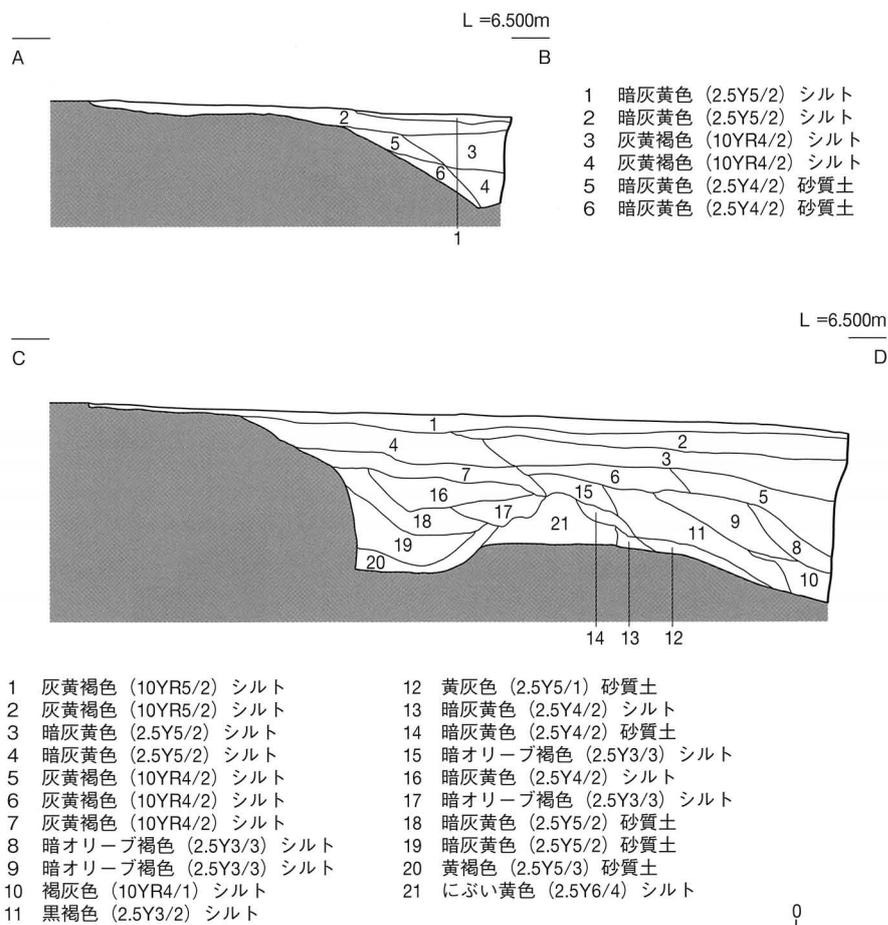
第145図 SD1004 出土遺物



第146図 SD1006 断面図

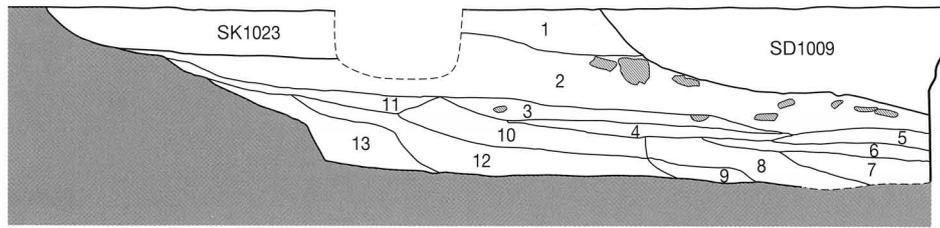


第147図 SD1006 出土遺物



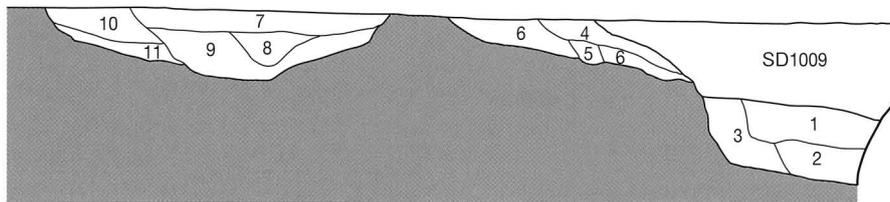
第148図 SD1008 断面図(1)

E L = 6.500m  
F



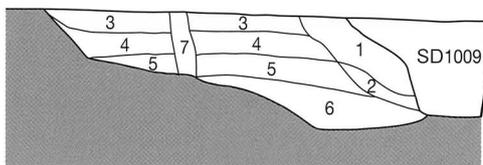
- |                            |                        |
|----------------------------|------------------------|
| 1 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土       | 8 灰オリーブ色 (5Y5/2) 粘土    |
| 2 灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂質土 (礫混入) | 9 灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂質土   |
| 3 灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂質土       | 10 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土   |
| 4 灰色 (5Y5/1) 粘土            | 11 灰色 (5Y5/1) シルト      |
| 5 灰色 (5Y5/1) 粘土            | 12 黄褐色 (2.5Y5/3) 細砂    |
| 6 灰色 (7.5Y5/1) 細砂          | 13 にぶい褐色 (7.5YR5/4) 細砂 |
| 7 灰色 (7.5Y5/1) 細砂          |                        |

G L = 6.500m  
H



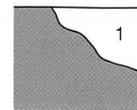
- |                        |                       |
|------------------------|-----------------------|
| 1 にぶい黄色 (2.5Y6/4) 砂質土  | 7 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土  |
| 2 灰オリーブ色 (7.5Y5/2) 砂質土 | 8 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土  |
| 3 灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂質土   | 9 黄褐色 (2.5Y5/4) 砂質土   |
| 4 灰オリーブ色 (5Y5/2) シルト   | 10 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土  |
| 5 黄褐色 (2.5Y5/3) シルト    | 11 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土 |
| 6 暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルト   |                       |

I L = 6.500m  
J



- |                           |
|---------------------------|
| 1 灰オリーブ色 (5Y5/2) シルト      |
| 2 灰オリーブ色 (5Y5/2) シルト      |
| 3 灰オリーブ色 (5Y5/2) シルト      |
| 4 暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルト      |
| 5 暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルト      |
| 6 灰オリーブ色 (5Y5/2) 粘土       |
| 7 灰黄色 (2.5Y6/2) シルト (杭痕跡) |

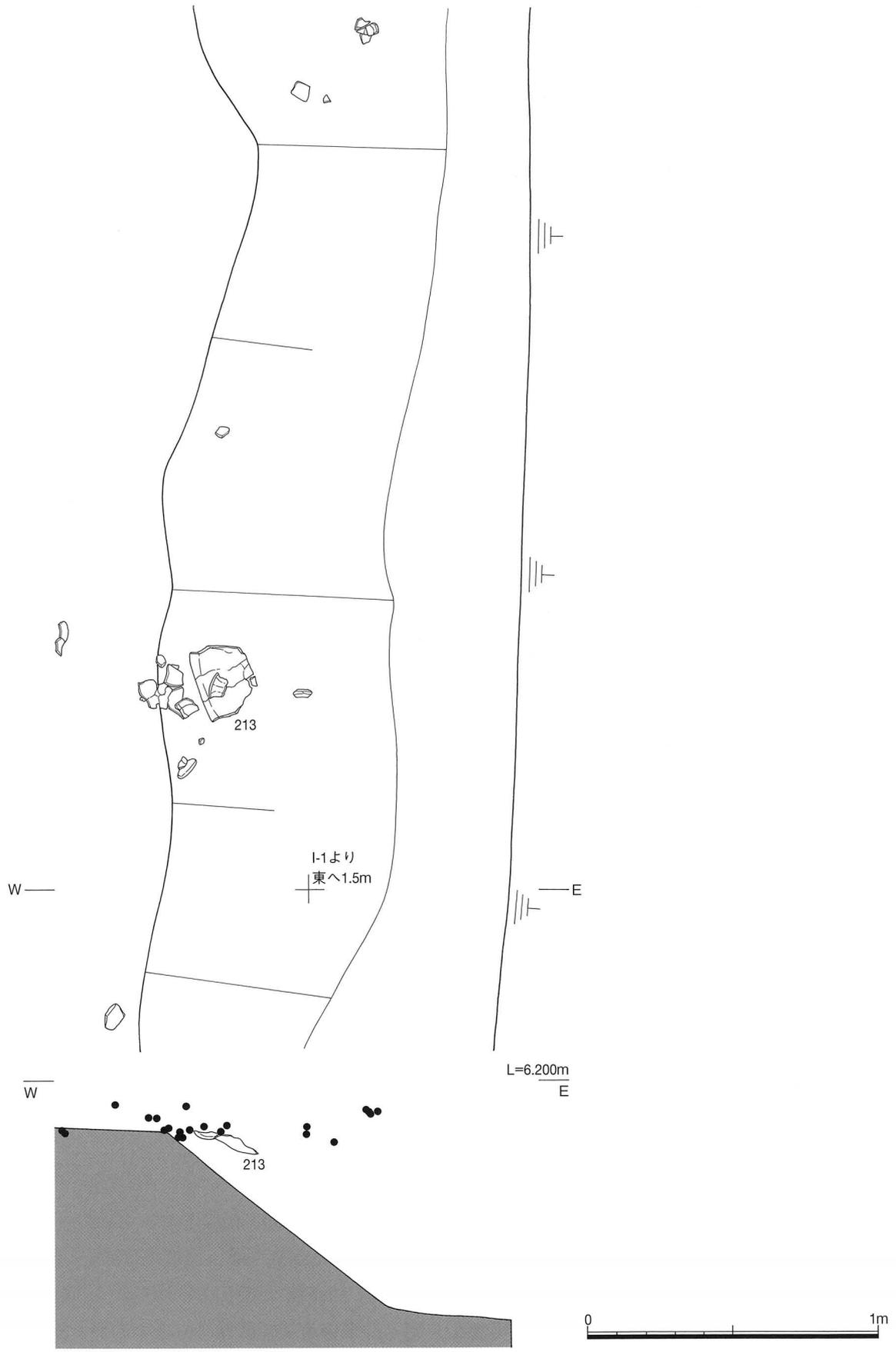
K L = 6.500m  
L



- 1 灰黄色 (2.5Y6/2) シルト



第149図 SD1008 断面図(2)



第150図 SD1008 遺物出土状況図(1)

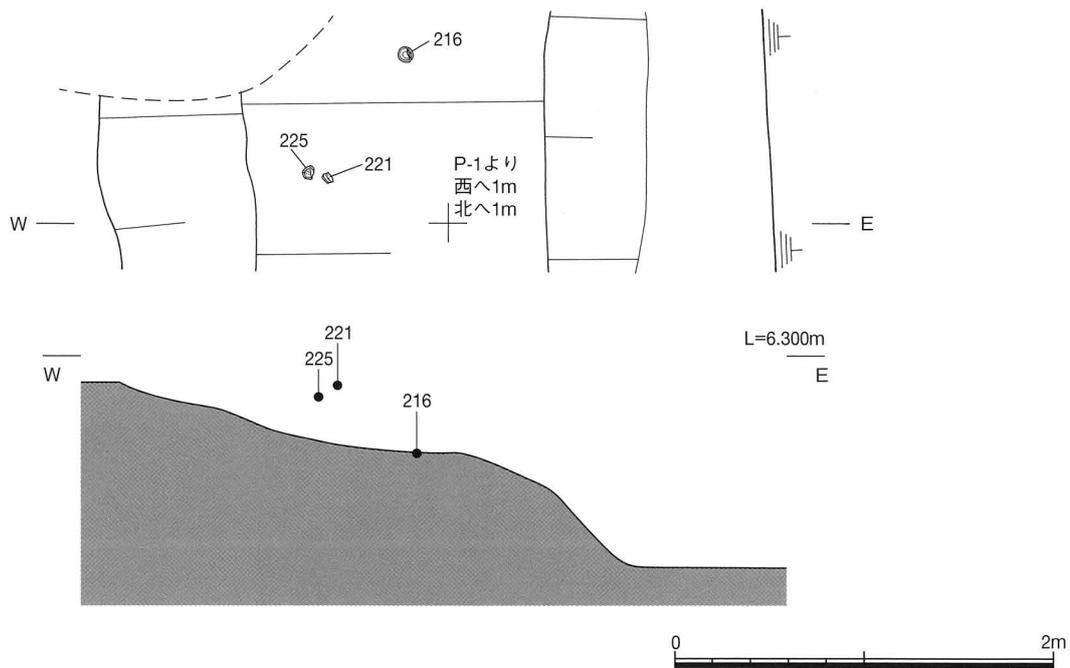


第151図 SD1008・SD1009 遺物出土状況図

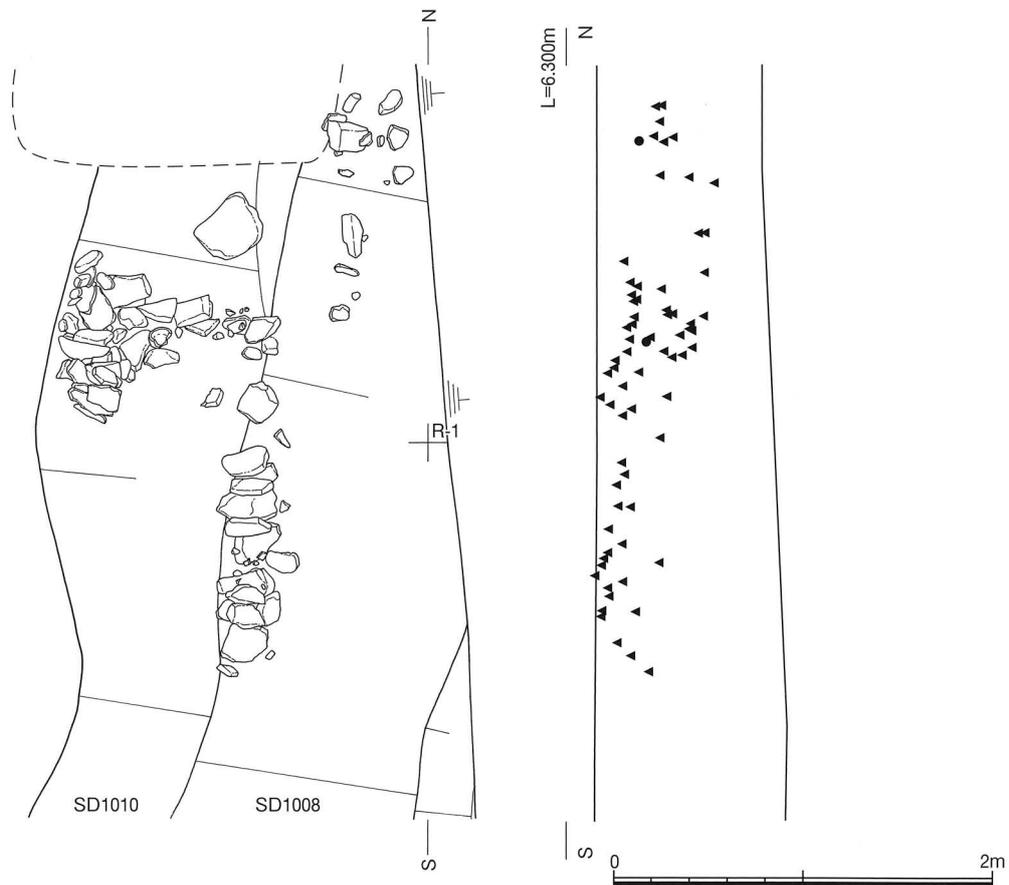
溝状遺構 (SD1008) (第148～155図 付図11・12)

検出場所 2区・3区  $\beta$ -IV・J～S-20および $\beta$ -V・H～K、Q、R-1グリッド

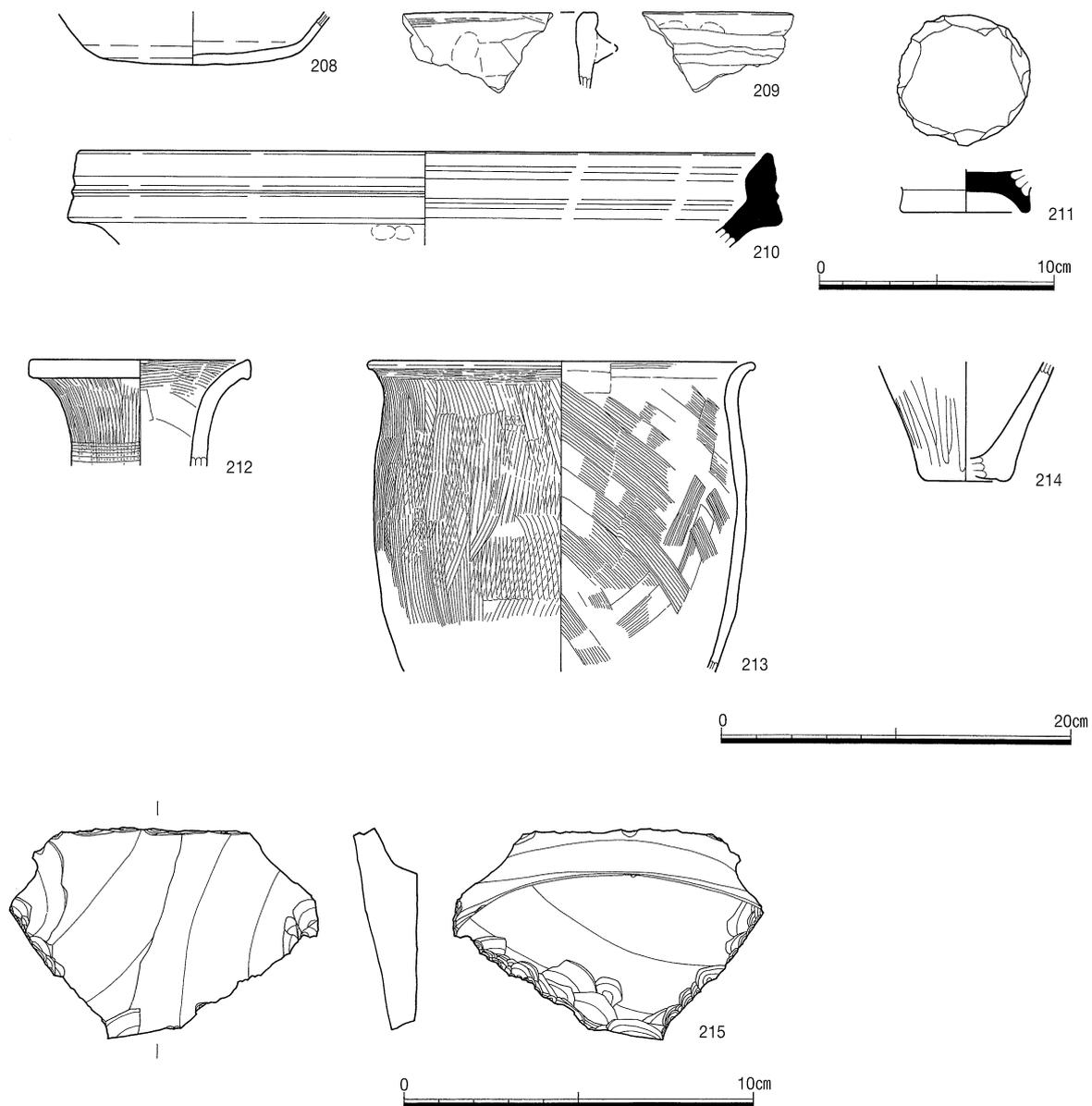
規模・断面形態 2区から3区にかけて南北に延びる。2区では $N5^{\circ}W$ 、3区では $N3^{\circ}E$ を軸とする。2区では遺構の東側の大半は調査区外にあたり、3区では東側はSD1009に切られる。残存する延長距離は48.2mである。最大幅3.85m、深さ0.98mを測る。東側が調査区外に位置するが、断面形状は逆台形状と推測される。断面図CDが最も深くなっているが、流れの方向は不明である。



第152図 SD1008 遺物出土状況図



第153図 SD1008・SD1010 遺物出土状況図



第154図 SD1008 出土遺物(1)

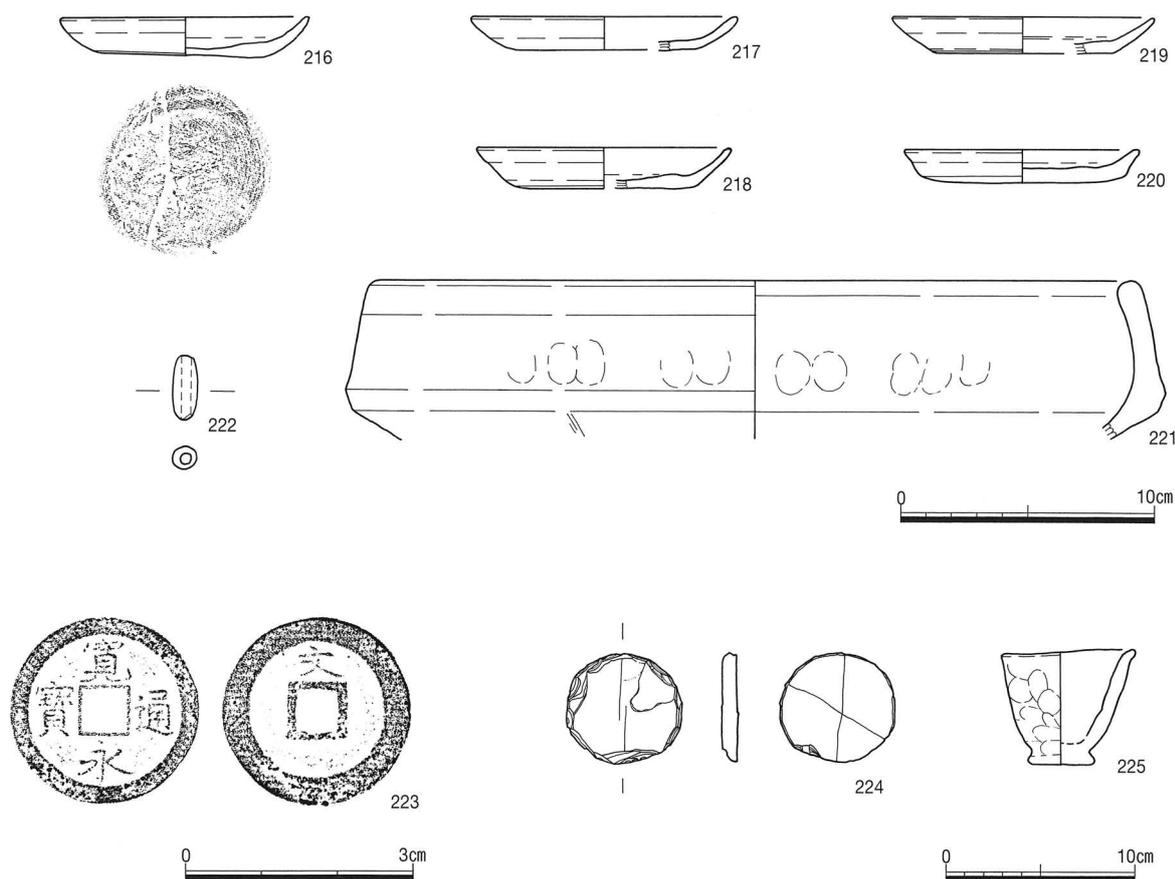
**土層** 灰黄褐色のシルト、暗灰黄色の砂質土などを21層に細分した(第148図)。

**遺物出土状況** 遺物は溝の西側の肩の部分に分布する。遺構検出面とその直上にあたり、溝 SD1008の埋没が進んだ後の遺物と考えられる。

**出土遺物** 遺構が2区と3区の南北広範囲にまたがるため、それぞれに記述する。

208～215は南側(2区)の遺物である。208は土師器の杯である。209は播磨型の土師質土器羽釜である。210は備前焼の播鉢V期である。211は京焼の高台部を加工した加工円盤である。212は弥生土器の壺、213、214は甕である。215はサヌカイト製のスクレイパーである。

216～225は北側(3区)の遺物である。216～220は土師質土器の皿である。221は土師質土器の焙烙である。222は土錘である。223は「寛永通寶」である。224は石製円盤である。225はミニチュア土器である。



第155図 SD1008 出土遺物(2)

時期 16世紀以降と考えられる。

溝状遺構 (SD1009) (第151・156～158図 付図12)

検出場所 3区 β-IV・L～Q-20およびβ-V・L～Q-1グリッド

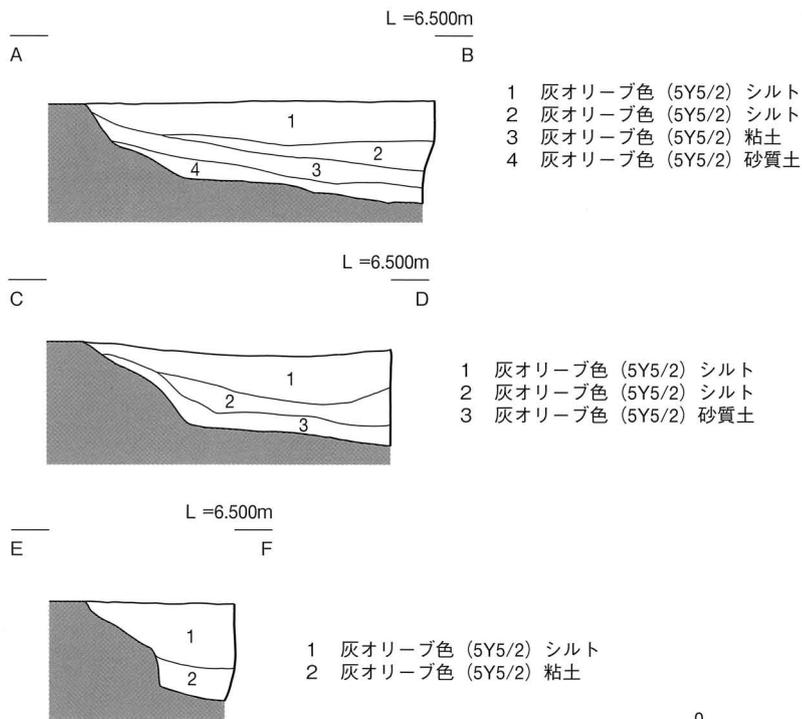
規模・断面形態 SD1008の東側に位置し、N 3° Eを軸に南北方向に延びる。残存する延長距離は26.00mである。最大幅1.85m、深さ0.93mを測る。東側が調査区外に位置するため、断面形状は不整形な逆台形である。溝の底面の高さは、南北各地点ではほぼ一定で、流れの方向は不明である。

土層 灰オリーブ色のシルト、粘土などを4層に細分した。

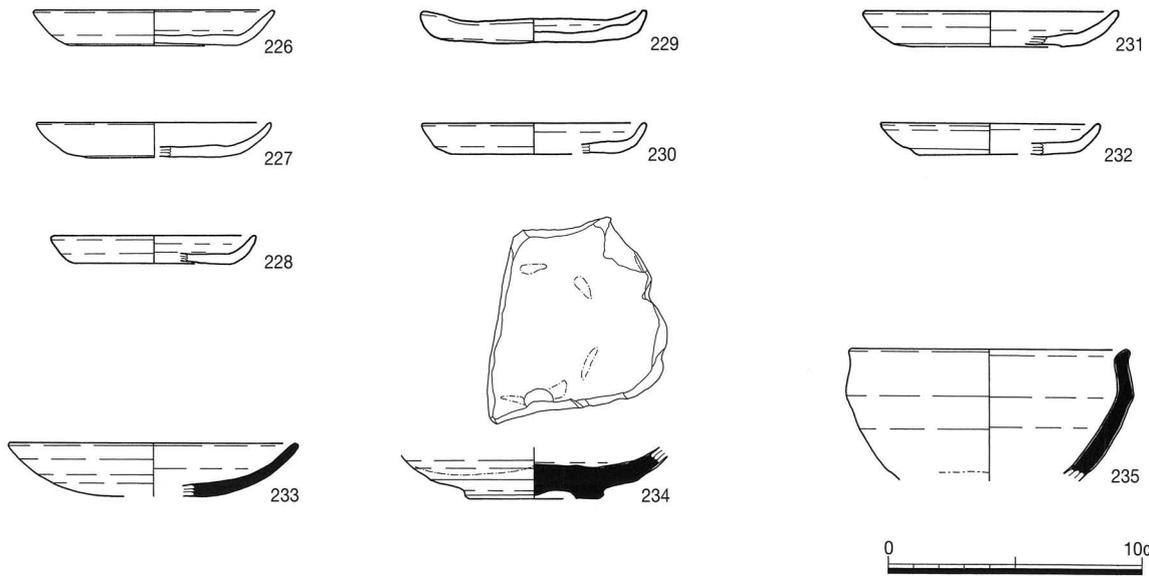
遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

出土遺物 226～232は土師質土器の皿である。233は備前焼の灯明皿である。234は陶器碗である。235は陶器の天目茶碗である。236～238は備前の播鉢V期である。239は青磁碗の小破片である。240、241は陶器碗の底部破片である。242は陶器碗を円盤状に加工したものである。高台部に削りがある。243は「寛永通寶」である。244、245は不明鉄製品である。246はスラグである。247は打製石庖丁である。

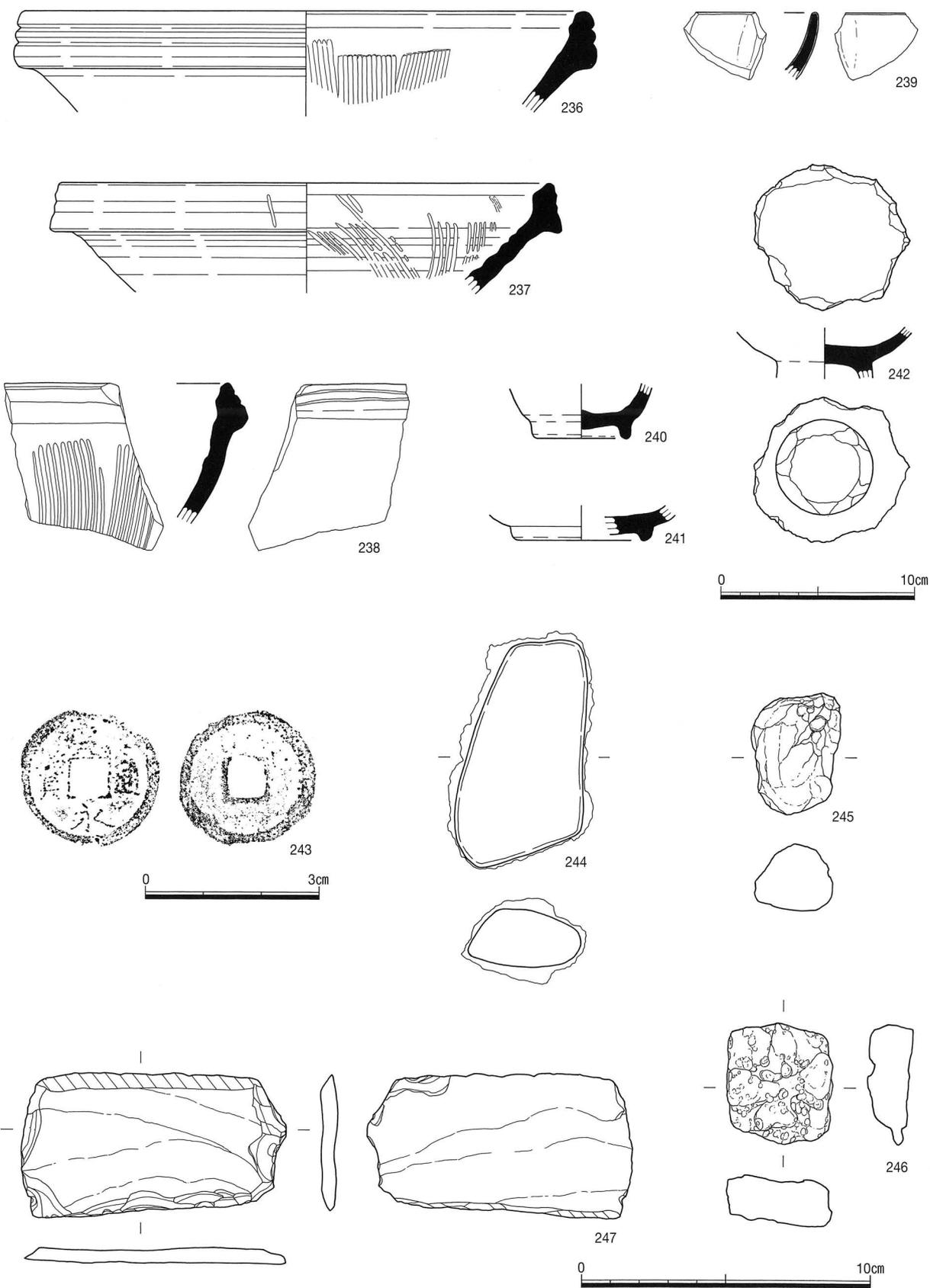
時期 近世と考えられる。



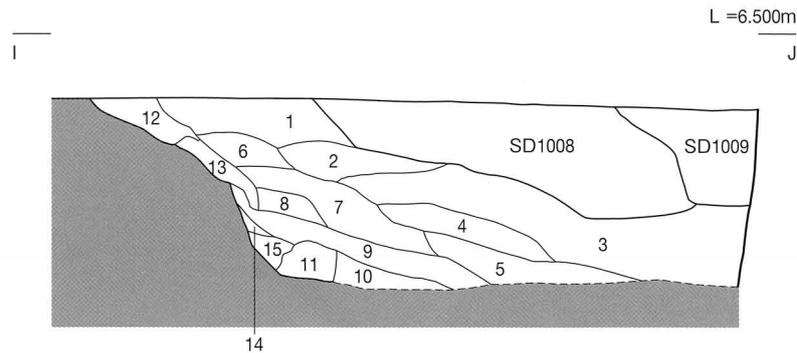
第156図 SD1009 断面図



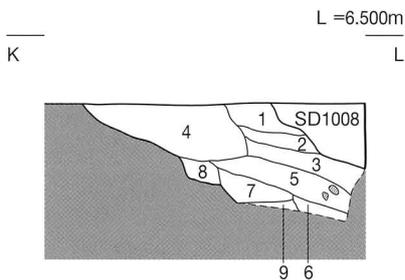
第157図 SD1009 出土遺物(1)



第158图 SD1009 出土遺物(2)



- |                              |                        |
|------------------------------|------------------------|
| 1 暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルト         | 10 にぶい黄色 (2.5Y6/3) シルト |
| 2 灰オリーブ色 (5Y5/2) 粘土          | 11 にぶい黄色 (2.5Y6/3) シルト |
| 3 灰色 (5Y5/1) 粘土              | 12 暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルト  |
| 4 灰色 (5Y5/1) 粘土              | 13 にぶい黄色 (2.5Y6/4) シルト |
| 5 灰色 (5Y5/1) 粗砂              | 14 黄褐色 (2.5Y5/4) 細砂    |
| 6 黄褐色 (2.5Y5/3) シルト (マンガン多量) | 15 黄灰色 (2.5Y5/1) 粘土    |
| 7 灰色 (5Y5/1) 砂質土             |                        |
| 8 暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルト         |                        |
| 9 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト          |                        |



- |                       |
|-----------------------|
| 1 灰黄色 (2.5Y6/2) シルト   |
| 2 にぶい黄色 (2.5Y6/3) シルト |
| 3 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト   |
| 4 暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルト  |
| 5 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト   |
| 6 黄褐色 (2.5Y5/3) シルト   |
| 7 黄褐色 (2.5Y5/3) シルト   |
| 8 暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルト  |
| 9 暗灰黄色 (2.5Y4/2) シルト  |



第159図 SD1010 断面図

溝状遺構 (SD1010) (第153・159・160図 付図12)

検出場所 3区 β-IV・O～S-20グリッド

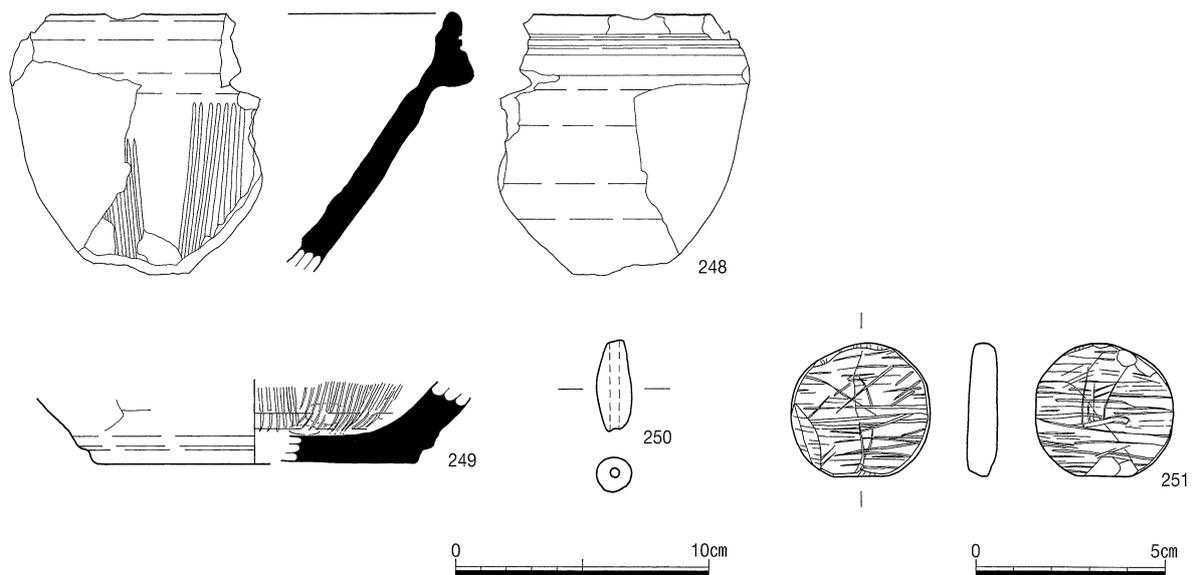
規模・断面形態 N 7° E を軸に、SD1008の西側を南北に延びる。残存する延長距離は21.30mである。最大幅1.20m、深さ0.95mを測る。東側が調査区外に位置するため、断面形状は逆台形および逆直角三角形である。

土層 灰色、暗灰黄色のシルトなどを15層に細分した。

遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

出土遺物 248は備前焼の播鉢V期である。249は備前焼播鉢の底部破片である。250は土錘である。251は石製円盤であるが、丸軋の未製品の可能性も考えられる。

時期 16世紀以降と考えられる。



第160図 SD1010 出土遺物

溝状遺構 (SD1014) (第161～164図 付図12)

検出場所 3区 β-IV・R～T-20およびγ-IV・A～C-20グリッド

規模・断面形態 N 8° E を軸に南北に延びるが、南側はSD1010に切られている。残存する延長距離は25.70mである。最大幅3.60m、深さ1.13mを測る。東側が調査区外に位置するため、断面形状は逆直角三角形である。

土層 暗灰黄色のシルト、黄灰色の粘土などを18層に細分した。

遺物出土状況 A-20、S-20グリッド周辺で遺物が集中して出土した。断面によると、溝の西側斜面に沿って分布している。

出土遺物 252は土師器の高台付き皿、253～256は土師質土器の鍋、257は瓦器椀の底部破片である。258は東播系捏鉢の口縁部破片である。259は青磁碗の体部破片、260は染付碗 D 群IV類の体部破片である。261は丸瓦である。262は石鏝である。

時期 12世紀後半から15世紀後半と考えられる。

溝状遺構 (SD1015) (第165・166図 付図13)

検出場所 4区 γ-IV・E-19グリッド

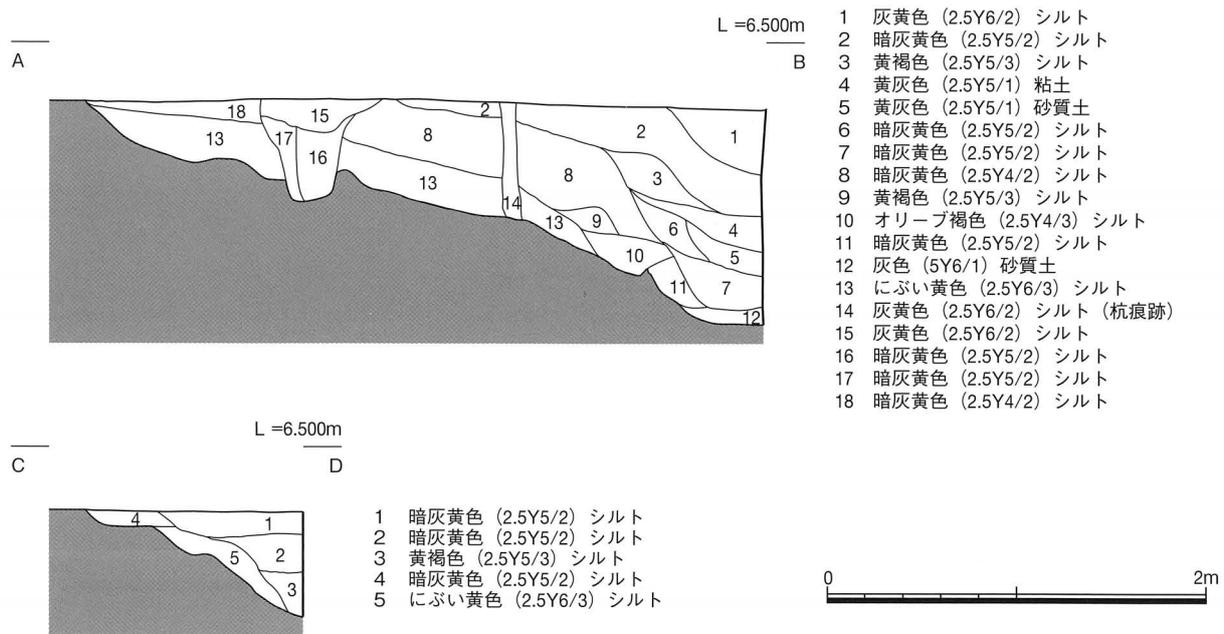
規模・断面形態 N88° E を軸に東西に延びる。残存する延長距離は3.80mである。最大幅1.10m、深さ0.54mを測る。断面形状は逆台形で、1層のみが北へ広がる。

土層 暗灰黄色、黒褐色のシルトなどを10層に細分した。

遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

出土遺物 263、264は土師質土器の杯である。265は瓦質の羽釜の口縁部小破片である。266は土錘である。

時期 13世紀後半と考えられる。



第161図 SD1014 断面図

溝状遺構 (SD1016) (第167・168図 付図13)

検出場所 4区 γ-IV・E-19、20グリッド

規模・断面形態 N87° Eを軸にSD1015の北側を並行に延びる。残存する延長距離は5.25mである。最大幅0.78m、深さ0.17mを測る。断面形状は北側が上がった皿形である。

土層 暗灰黄色のシルトの単一層である。

遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

出土遺物 267は土師質土器の皿である。

時期 13世紀と考えられる。

溝状遺構 (SD1017) (第169・170図 付図13)

検出場所 4区 γ-IV・E-19、20およびF-19、20グリッド

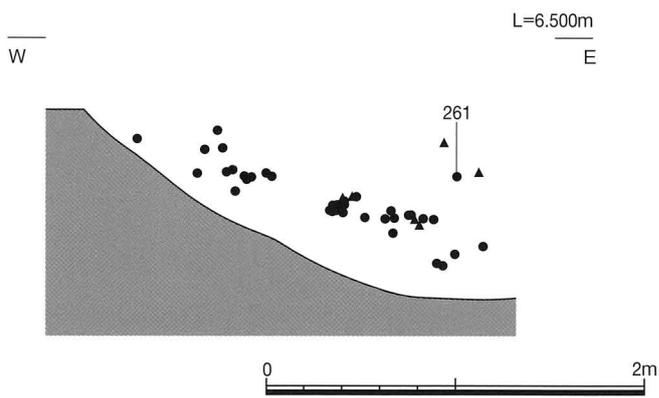
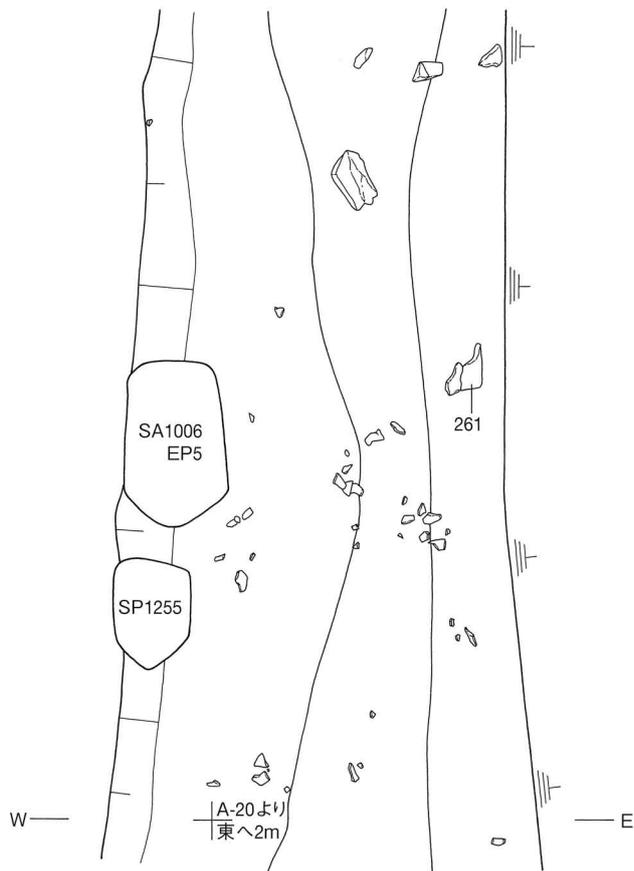
規模・断面形態 N88° Eを軸にSD1016の北側を東西に並行に延びる。残存する延長距離は7.20mである。最大幅2.25m、深さ1.24mを測る。断面形状は逆台形である。底面の高さから、東側 (AB) へ向かって急激に深くなっていることがわかる。

土層 黄褐色のシルト、黄灰色の粘質土などを12層に細分した。

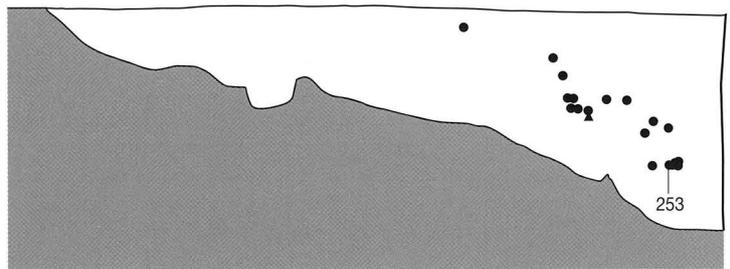
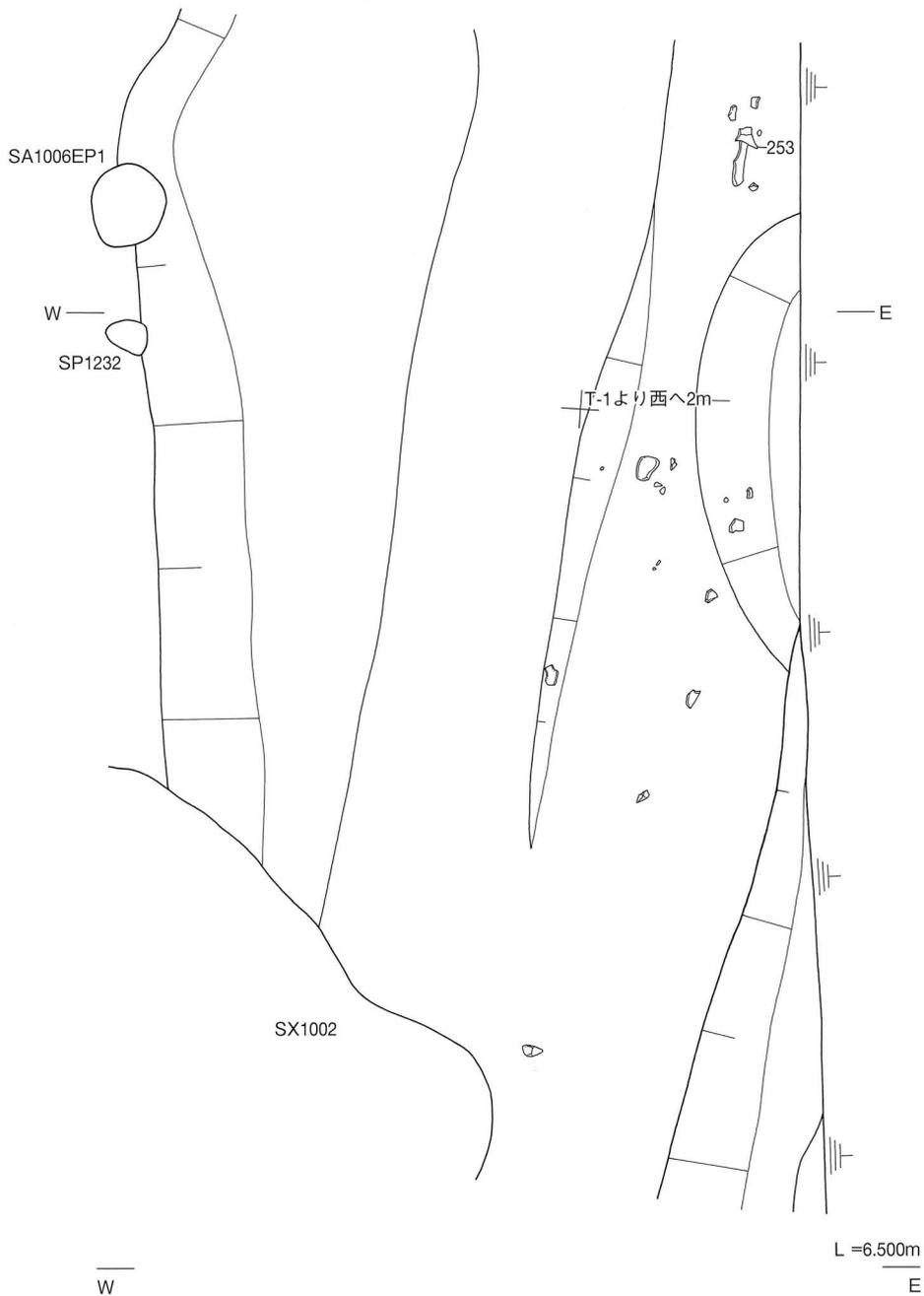
遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

出土遺物 268は土師質土器の杯である。269は土師質土器の羽釜の口縁部である。270は羽釜の脚部である。271は土師質土器の羽釜の口縁部破片である。272は須恵器の壺の底部である。273は青磁碗、274は白磁碗である。275は石製円盤であるが、丸靱未製品の可能性も考えられる。276は土師器の甕である。277は弥生土器の甕の底部である。

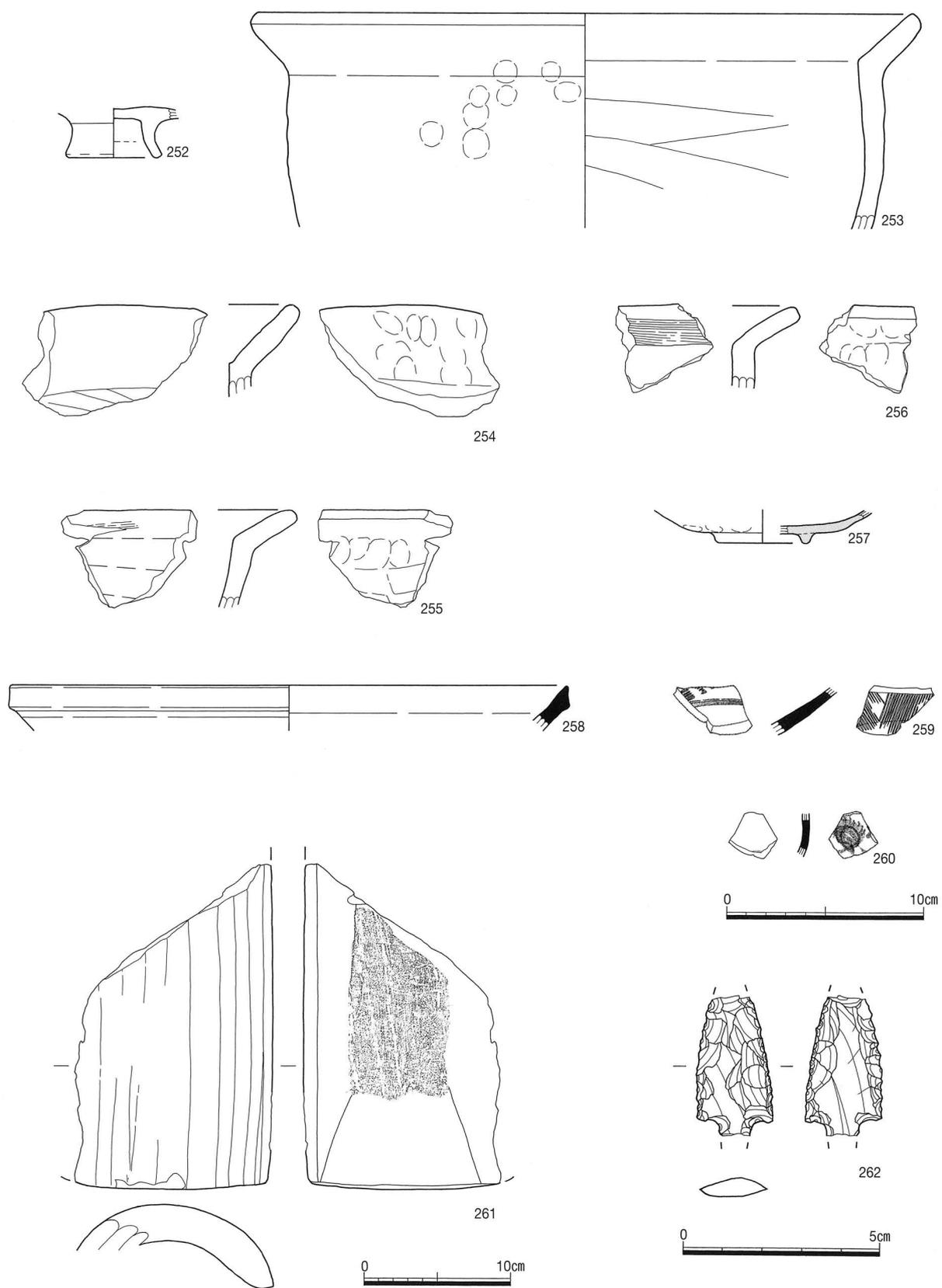
時期 幅広い時期の遺物が混在しているが、13世紀から16世紀と推測される。



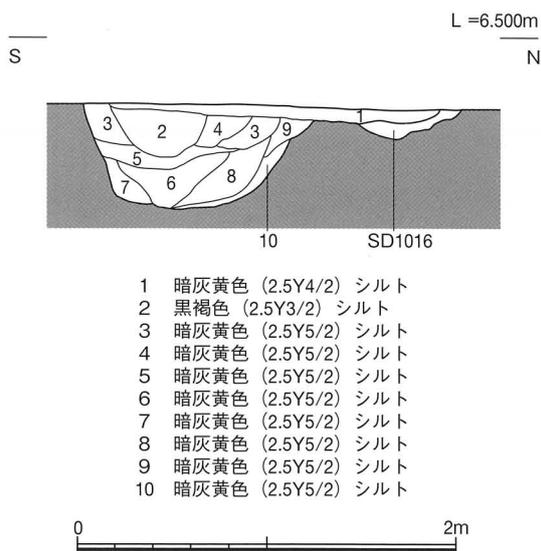
第162図 SD1014 遺物出土状況図(1)



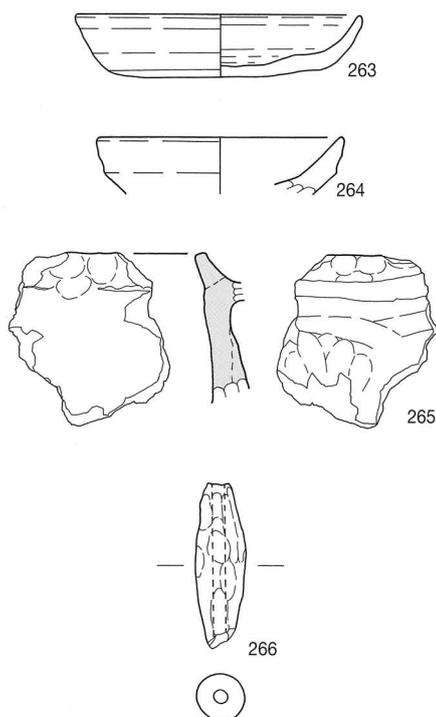
第163図 SD1014 遺物出土状況図(2)



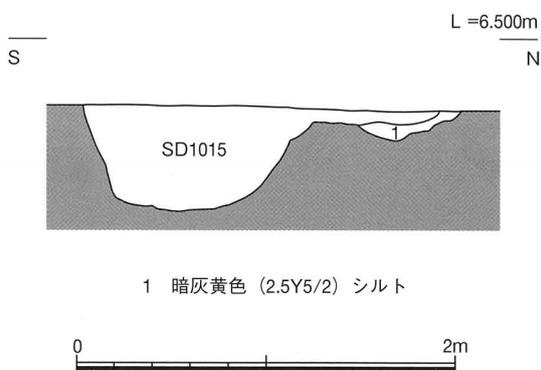
第164図 SD1014 出土遺物



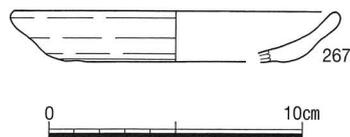
第165図 SD1015 断面図



第166図 SD1015 出土遺物



第167図 SD1016 断面図



第168図 SD1016 出土遺物

溝状遺構 (SD1018) (第171・172図 付図13)

検出場所 4区 γ-IV・F-19、20およびG-19、20グリッド

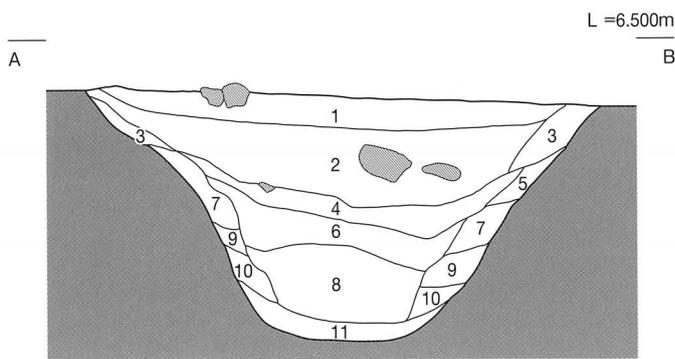
規模・断面形態 N86°Eを軸にSD1017の北側を東西に並行に延びる。残存する延長距離は8.70mである。最大幅2.20m、深さ0.42mを測る。断面形状は半円形である。底面の高さが一定で、流れの方向は不明である。

土層 黄褐色、暗灰黄色のシルトなどを6～8層に細分した。

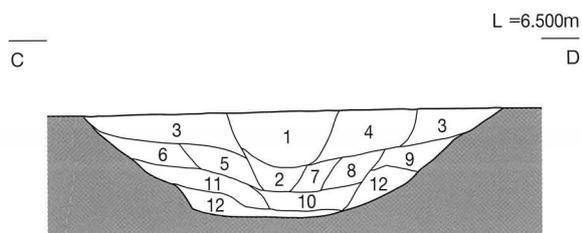
遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

出土遺物 278は土師質土器の羽釜である。鏝部が、ほとんど退化している。279は青磁碗の底部である。280はスラグである。281は石錘か。結晶片岩の縁辺を加工し、3ヶ所に抉りが見られる。48同様の穿孔の痕跡と考えられる。

時期 16世紀と考えられる。



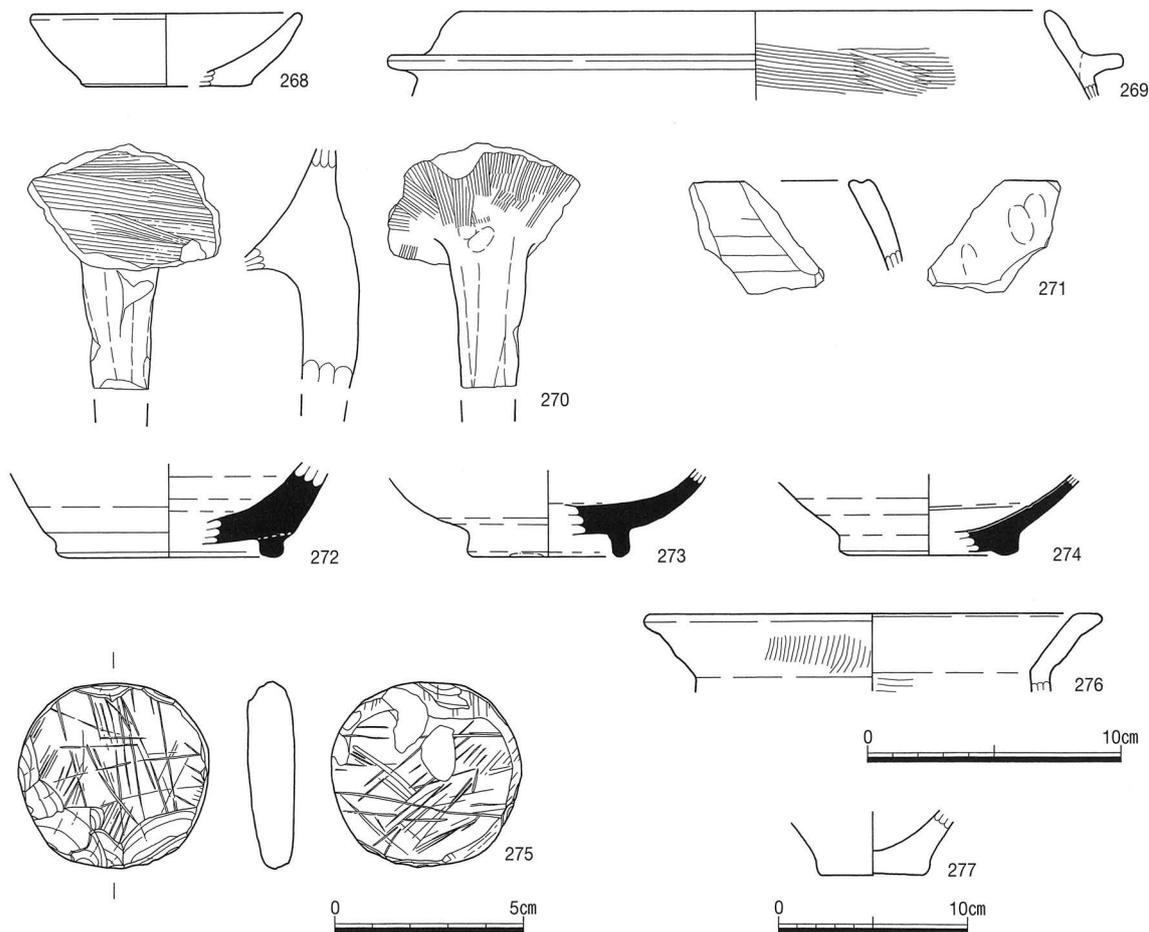
- 1 黄褐色 (2.5Y5/3) シルト
- 2 灰色 (5Y5/1) シルト
- 3 黄褐色 (2.5Y5/3) シルト
- 4 暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルト
- 5 暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルト
- 6 黄灰色 (2.5Y5/1) 粘質土
- 7 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト
- 8 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘土
- 9 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト
- 10 灰色 (7.5Y4/1) 粘土
- 11 オリーブ灰色 (5GY5/1) 粘土



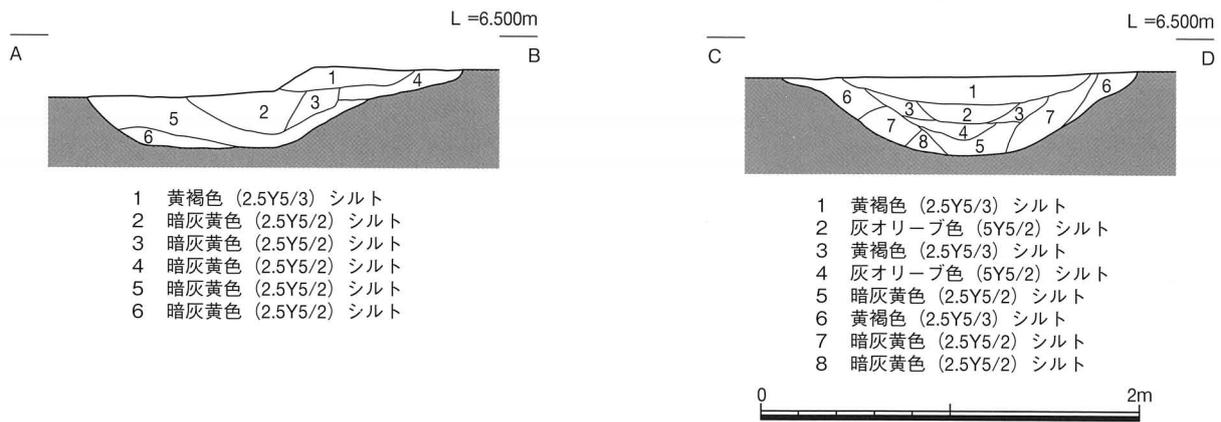
- 1 暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルト
- 2 黄褐色 (2.5Y5/3) シルト
- 3 黄褐色 (2.5Y5/3) シルト
- 4 黄褐色 (2.5Y5/3) シルト
- 5 灰黄色 (2.5Y6/2) シルト
- 6 黄褐色 (2.5Y5/3) シルト
- 7 暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルト
- 8 暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルト
- 9 暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルト
- 10 暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルト
- 11 灰黄色 (2.5Y6/2) シルト
- 12 にぶい黄色 (2.5Y6/4) シルト



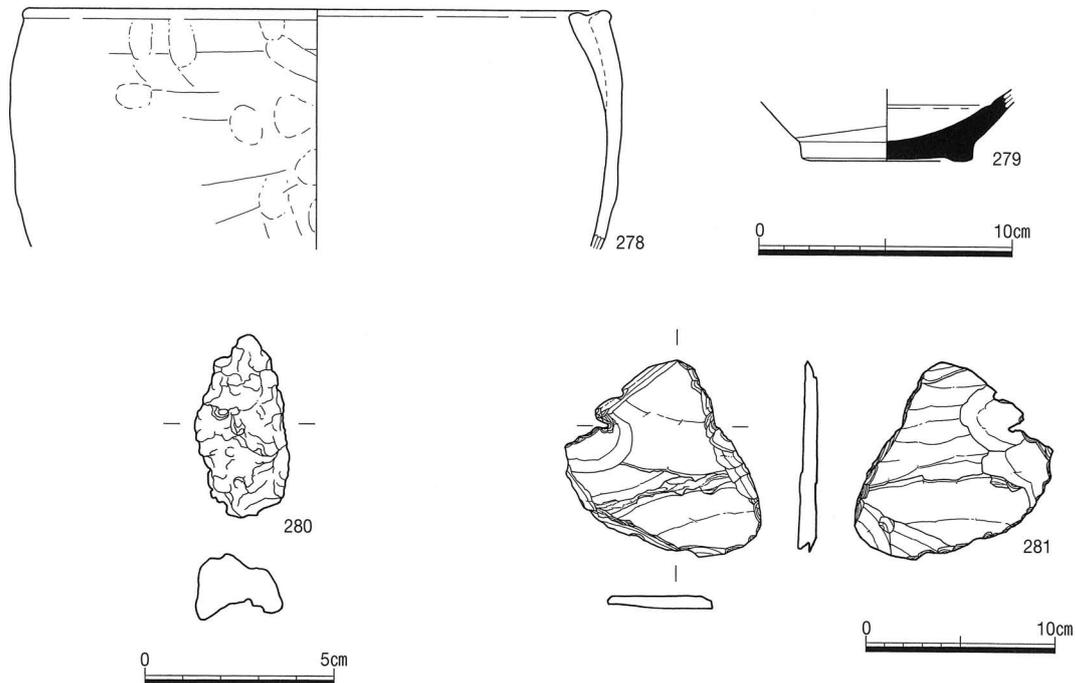
第169図 SD1017 断面図



第170図 SD1017 出土遺物



第171図 SD1018 断面図



第172図 SD1018 出土遺物

溝状遺構 (SD1019) (第173・174図 付図13・14)

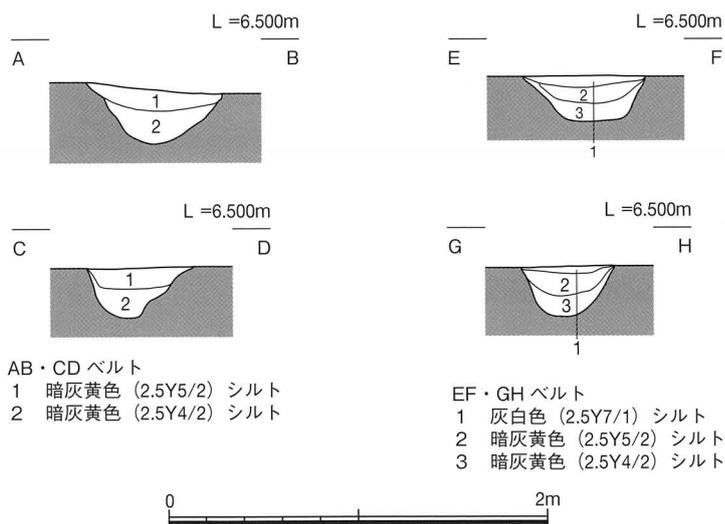
検出場所 4区・5区  $\gamma$ -IV・F~H-19, G~K-20および $\gamma$ -V・K-1グリッド

規模・断面形態 4区ではN27°E、5区ではN16°Eを軸に南西から北東に延びる。残存する延長距離は30.80mである。最大幅0.9m、深さ0.28mを測る。断面形状は逆台形および逆三角形である。底面は北側(GH)が南側(AB)より僅かに高いことから、北から南への流れと推測される。

土層 暗灰黄色、灰白色のシルトを3層に細分した。

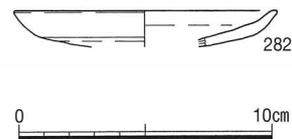
遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

出土遺物 282は土師器の皿である。



AB・CD ベルト  
 1 暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルト  
 2 暗灰黄色 (2.5Y4/2) シルト

EF・GH ベルト  
 1 灰白色 (2.5Y7/1) シルト  
 2 暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルト  
 3 暗灰黄色 (2.5Y4/2) シルト



第174図 SD1019 出土遺物

第173図 SD1019 断面図

時期 古代末と考えられる。

溝状遺構 (SD1020) (第175～177図 付図13)

検出場所 4区  $\gamma$ -IV・I-19、20、J-19、20および $\gamma$ -V・I、J-1グリッド

規模・断面形態 N88°Eを軸に東西に延びる。残存する延長距離は10.10mである。最大幅1.95m、深さ0.30mを測る。断面形状は皿形である。底面は東側 (AB) が浅く、西側 (CD) が深いことから、東から西への流れと推測される。

土層 暗灰黄色のシルトを2層に細分した。

遺物出土状況 遺物はJ-20グリッドで散漫に出土した。北側の傾斜と底面の傾斜変換点に沿って分布している。

出土遺物 283は土師質土器の羽釜である。底部外面に格子タタキが残存する。284、285は土師質土器の羽釜の口縁部破片である。286は瓦器の皿である。287は鉄製品の釘である。

時期 16世紀と考えられる。

溝状遺構 (SD1021) (第178・179図 付図14・15)

検出場所 5区・6区  $\gamma$ -IV・M-18、19およびN、O-19、P-19、20グリッド

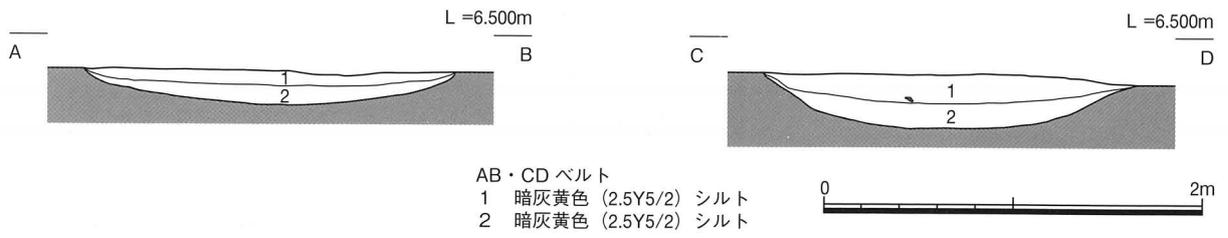
規模・断面形態 5区ではN15°Eを軸に、6区ではN38°Eを軸に南西から北東に延びる。残存する延長距離は18.60mである。最大幅1.00m、深さ0.20mを測る。断面形状は逆三角形および逆蒲鉾形である。底面は南側 (AB) が北側 (CD) よりやや浅く、南から北への流れと推測される。

土層 暗灰黄色、オリーブ褐色の粘性砂質土を4層に細分した。

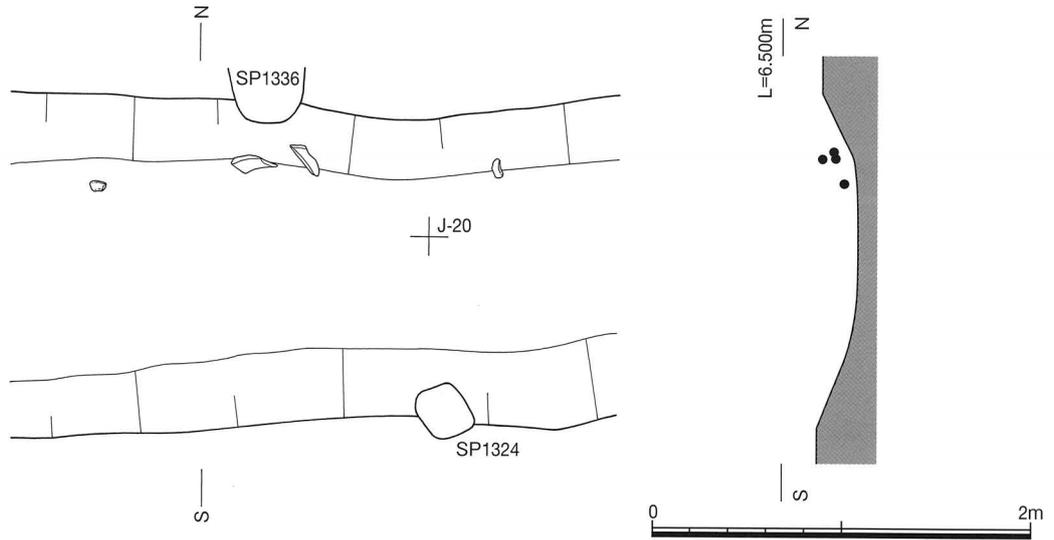
遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

出土遺物 288は和泉型瓦器椀Ⅲ-1期からⅢ-2期である。

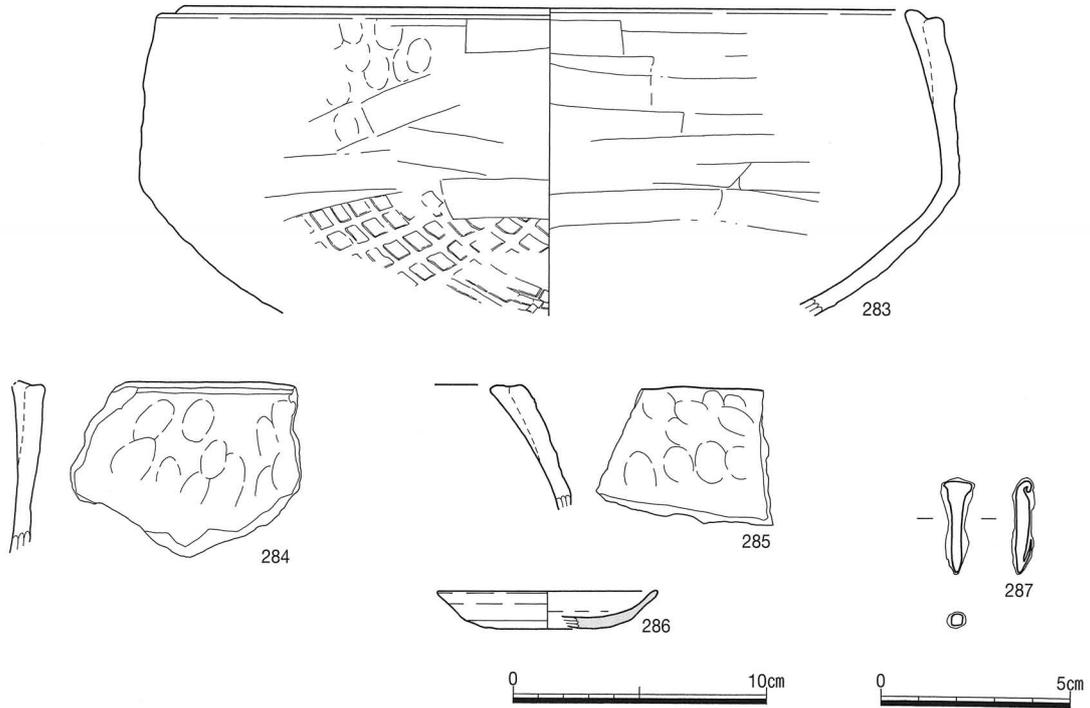
時期 12世紀後半から13世紀前半と考えられる。



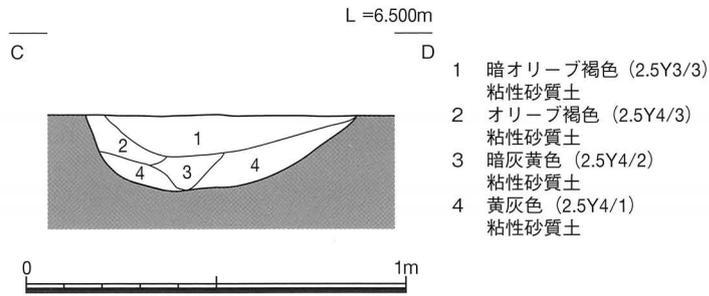
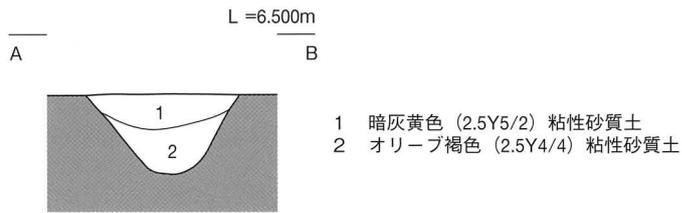
第175図 SD1020 断面図



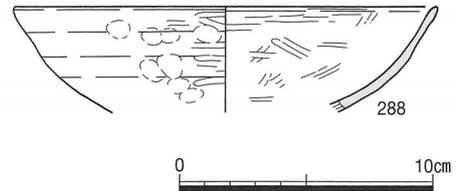
第176図 SD1020 遺物出土状況図



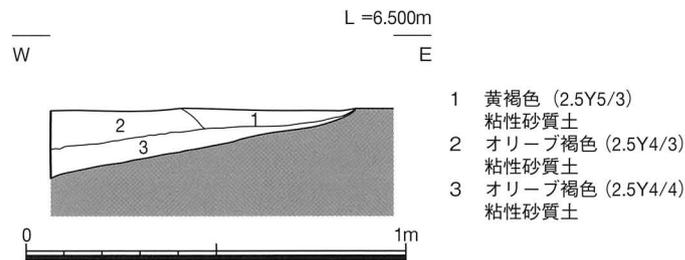
第177図 SD1020 出土遺物



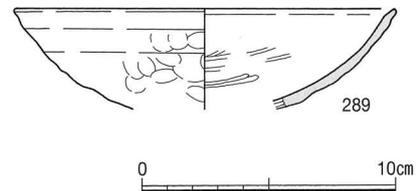
第178図 SD1021 断面図



第179図 SD1021 出土遺物



第180図 SD1022 断面図



第181図 SD1022 出土遺物

溝状遺構 (SD1022) (第180・181図 付図14)

検出場所 5区 γ-IV・L-18、M-18、19およびN-18、19グリッド

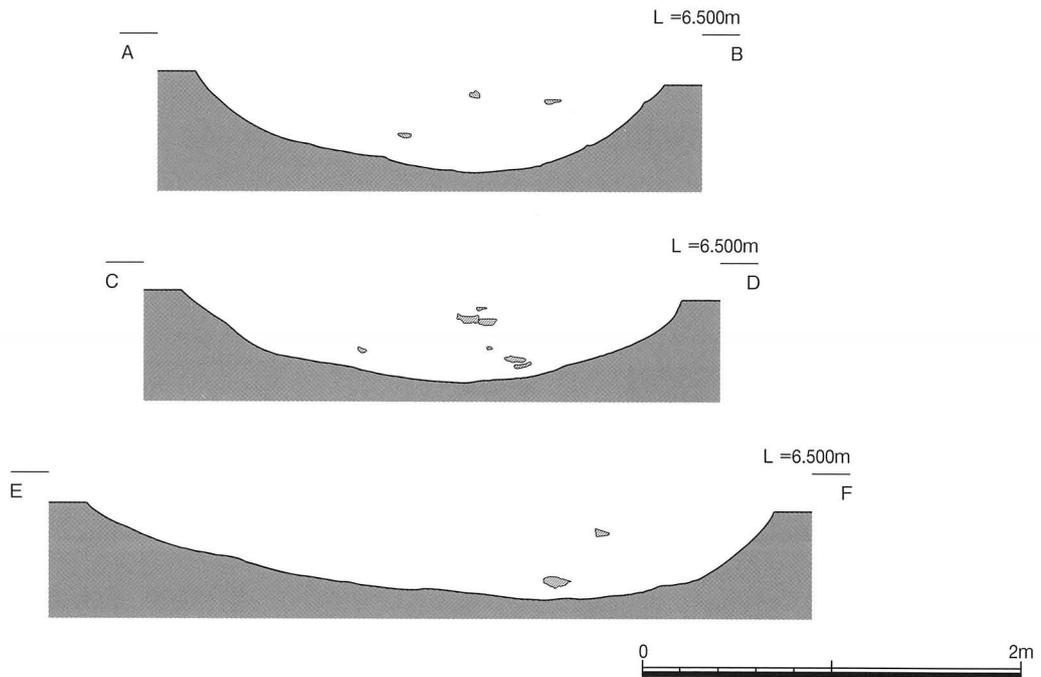
規模・断面形態 N 6° E を軸に南西から北東に延びる。残存する延長距離は10.00mである。最大幅3.30m、深さ0.19mを測る。西側が調査区外に位置するため、断面形状は逆直角三角形である。

土層 黄褐色、オリーブ褐色の粘性砂質土を3層に細分した。

遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

出土遺物 289は和泉型瓦器碗Ⅲ-3期である。

時期 13世紀前半と考えられる。



第182図 SD1023 断面図

溝状遺構 (SD1023) (第182～187図 付図14)

検出場所 5区  $\gamma$ -IV・M-18、19、N-18～20および $\gamma$ -V・N-1グリッド

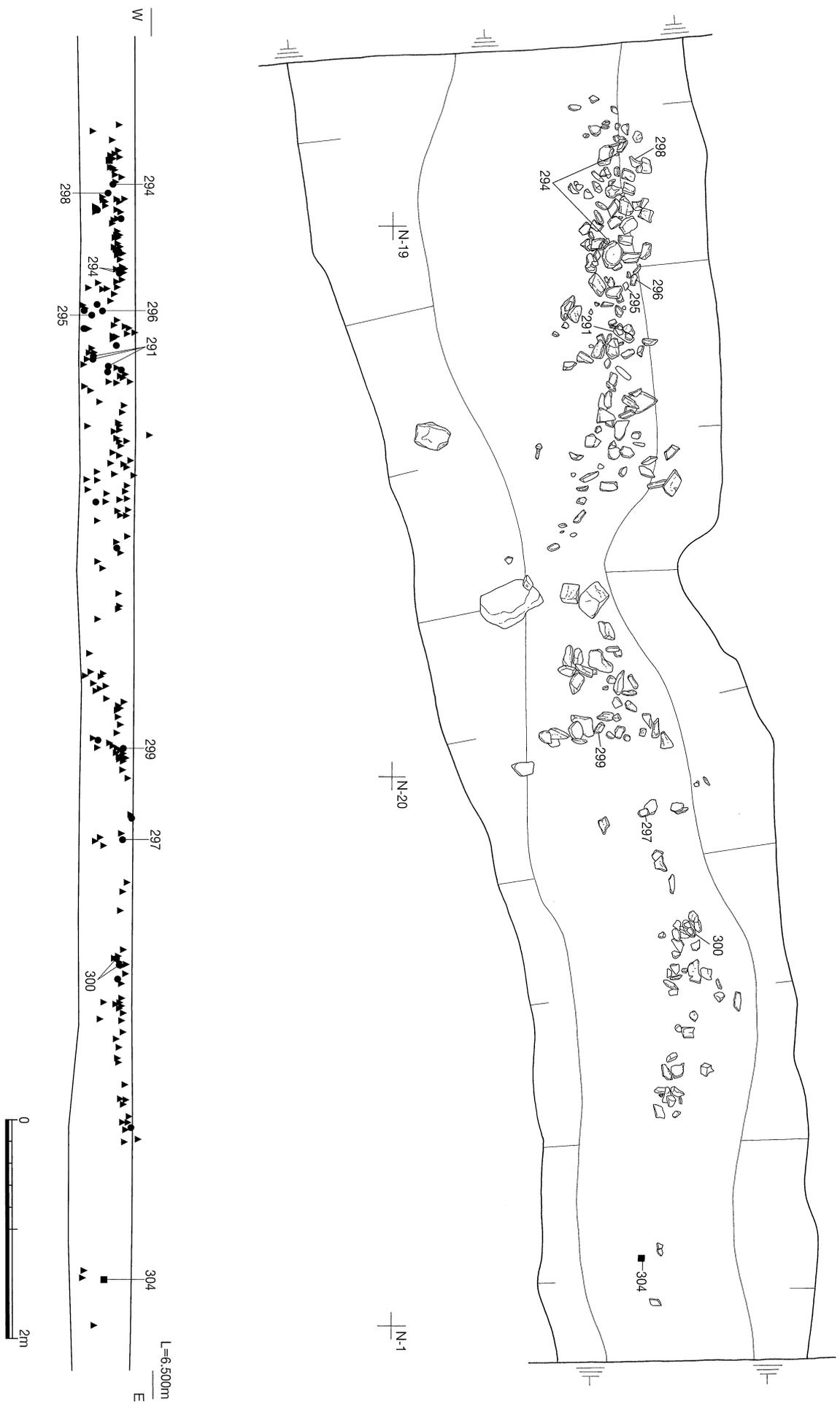
規模・断面形態 N82°Eを軸に東西に延びる。残存する延長距離は12.00mである。最大幅3.60m、深さ0.52mを測る。断面形状は皿形である。幅は東側(AB)が狭く、西側(EF)が広いものの、底面の高さは東側(AB)が低く、西から東への流れと推測される。

遺物出土状況 東西に延びるの遺構の北半に、遺物の集中が見られる。西側の集中部は特に分布が密である。断面の分布図では、東側の遺物は上層に偏っているのに対し、西側は下層にも分布が見られ、散在している状況がわかる。

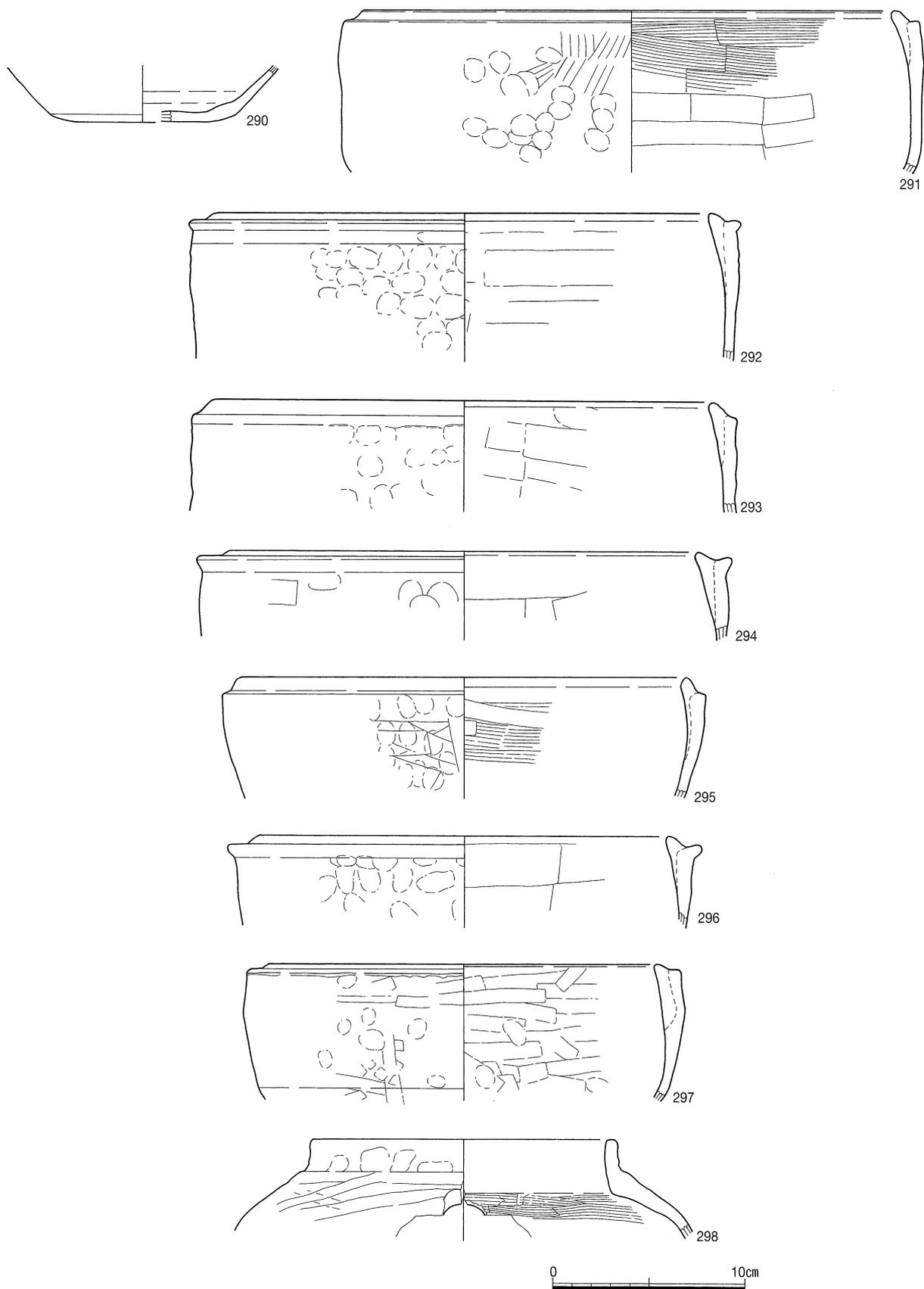
出土遺物 遺物集中部から出土したものをA、それ以外から出土したものをBとして図示した。290～304はAの範囲から出土した遺物である。290は土師質土器の杯である。291～297は土師質土器の羽釜である。298は土師質土器の茶釜である。299は土師質土器の鍋である。300は備前焼の甕である。301、302は備前焼IV期の播鉢である。303は須恵質の硯である。304は銅銭である。右上1/4を欠損しているので種類は不明であるが、「元寶」は残存する。

305～318はBの範囲から出土した遺物である。305～311は土師質土器の羽釜である。312は東播系捏鉢の口縁部小破片である。313は陶器碗、314は青磁碗、315は磁器碗である。316は台石または磨製石斧の破片である。317は結晶片岩の縁辺を加工し、2ヶ所に抉りを入れようとして意図したもので、石錘と考えられる。318は鉄製品の釘である。

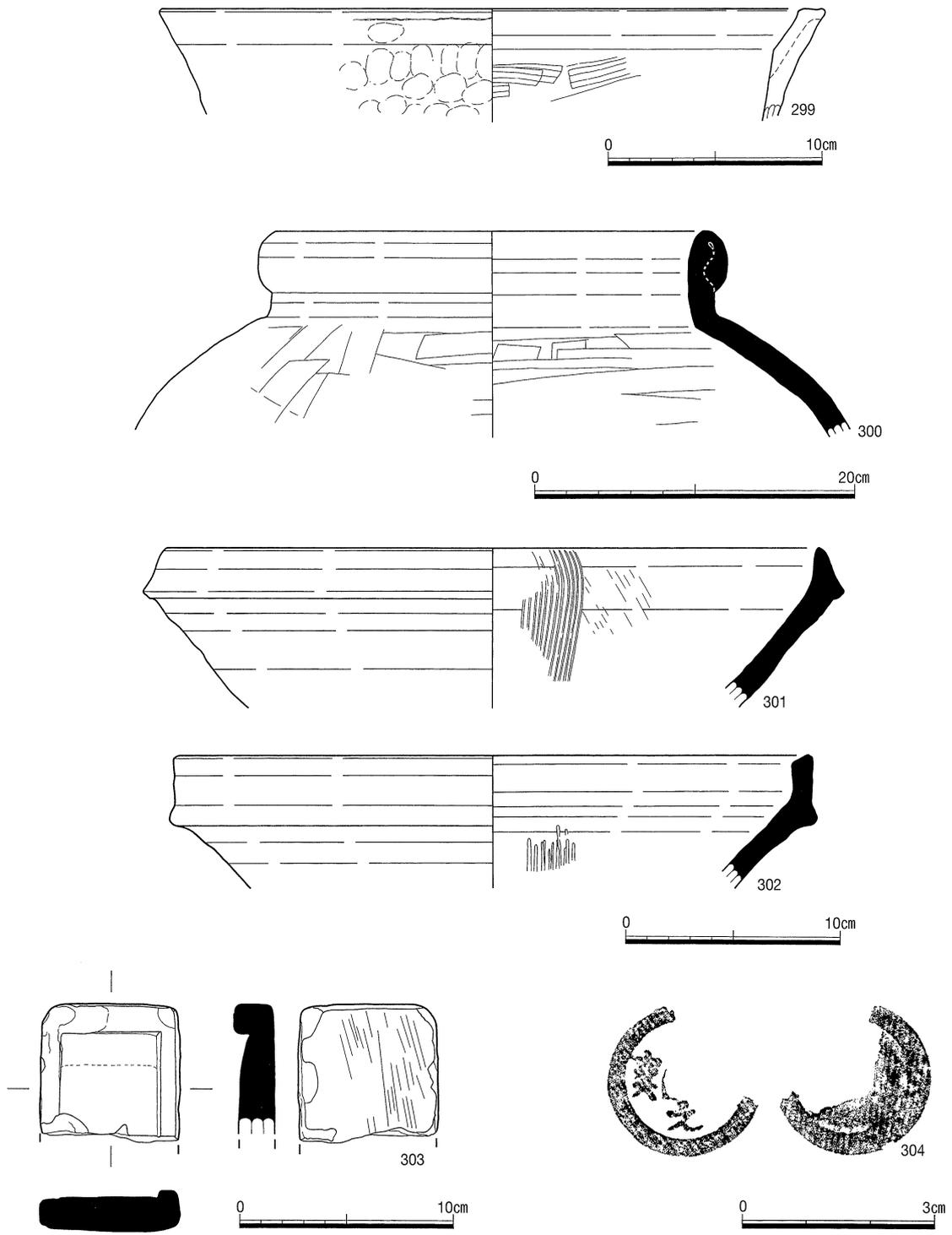
時期 15世紀後半から16世紀と考えられる。



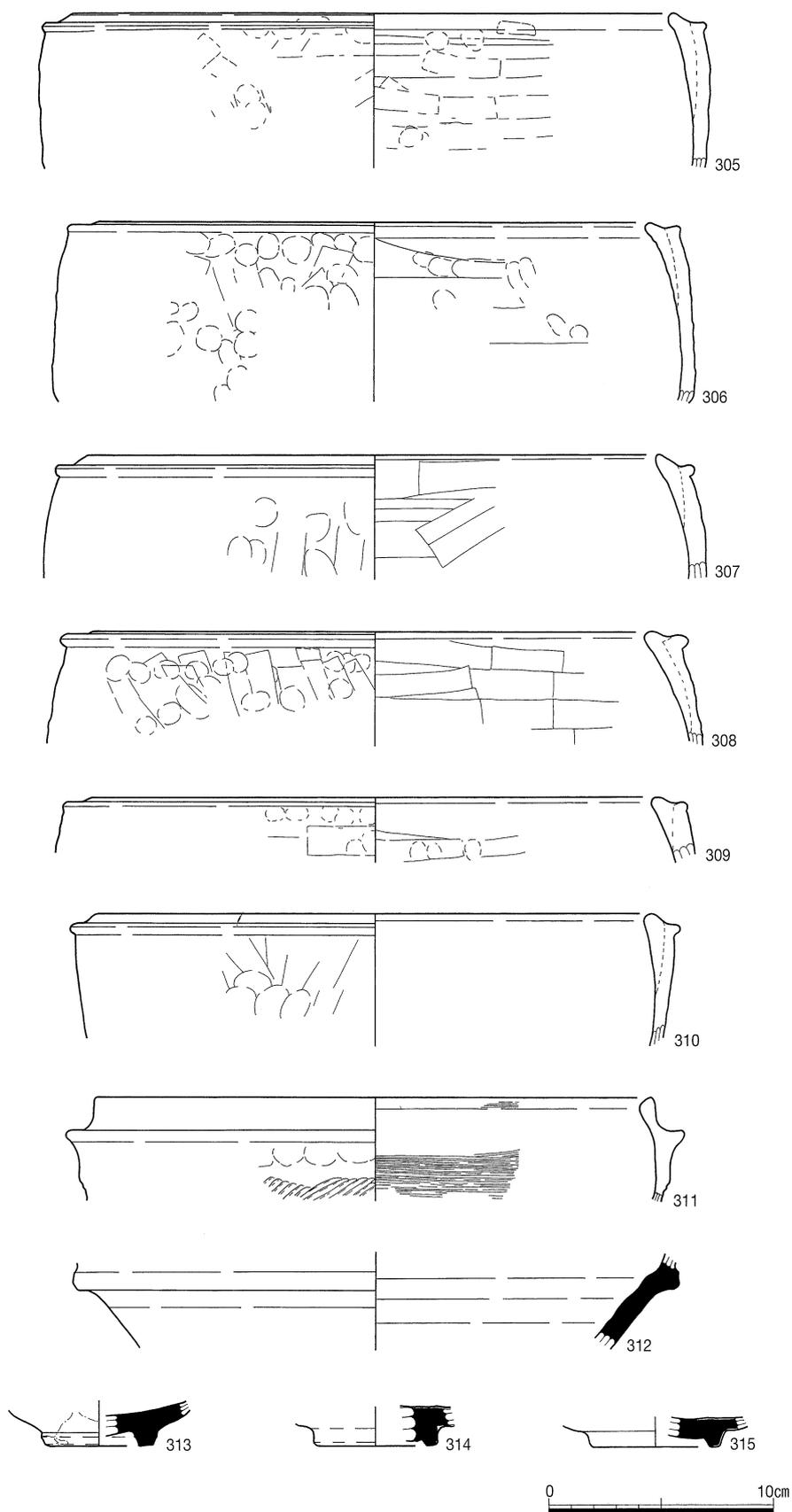
第183図 SD1023 遺物出土状況図



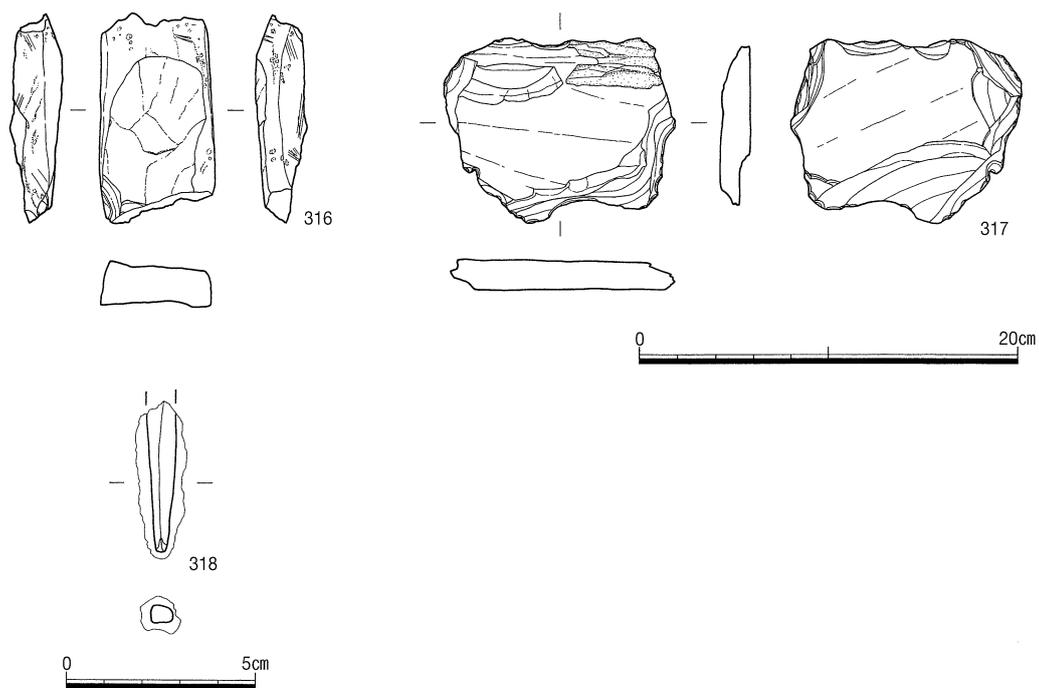
第184図 SD1023A 出土遺物(1)



第185図 SD1023A 出土遺物(2)



第186图 SD1023B 出土遺物(1)



第187図 SD1023B 出土遺物(2)

溝状遺構 (SD1024) (第188～192図 付図14)

検出場所 5区  $\gamma$ -IV・N-18～20、O-18～20および $\gamma$ -V・N、O-1グリッド

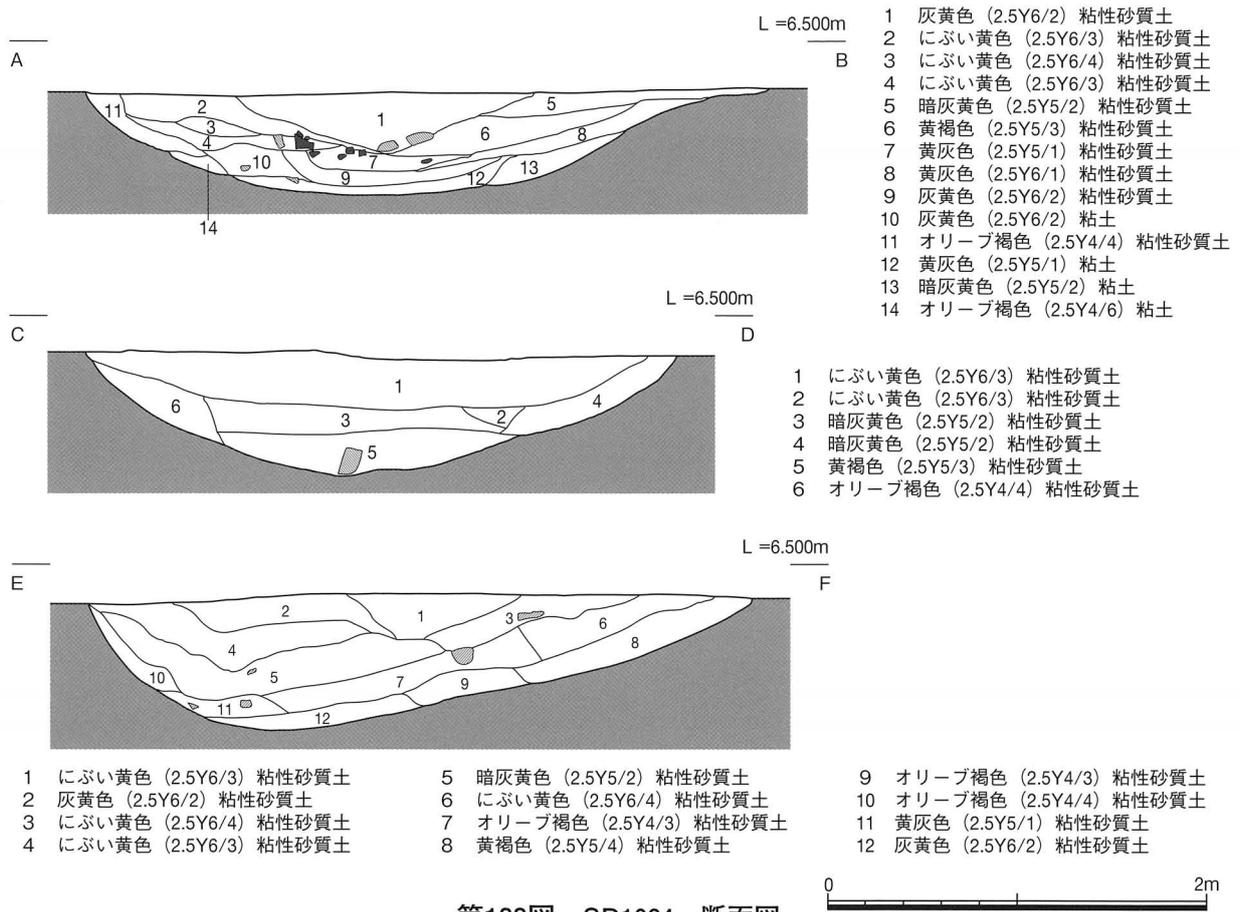
規模・断面形態 N88°Eを軸にSD1023の北側で並行して東西に延びる。残存する延長距離は12.00mである。最大幅4.00m、深さ0.72mを測る。断面形状は逆蒲鋒形である。底面の高さは東側(AB)が高く、西側(EF)が低いいため、東から西への流れと推測される。

土層 にぶい黄色、オリーブ褐色の粘性砂質土、灰黄色、黄灰色の粘土などを14層に細分した。

遺物出土状況 東西方向の遺構の南半分に遺物の集中が見られる。断面の分布図では、遺構の中央部に多くの遺物が分布する。

出土遺物 319～329は土師質土器の羽釜である。330は茶釜である。331は瓦器碗の口縁部破片、332は瓦器碗の底部破片で、ともにⅢ-3期である。333は陶器の壺である。334～336は備前焼の播鉢である。337は青磁碗の口縁部小破片である。338、339は青磁碗の底部破片である。340は左側の一文字が欠損しているが、北宋銭の「熙寧元寶」と考えられる。341は結晶片岩の縁辺に抉りを入れた石錘である。同様のものに、SA1040EP8出土の48や、SD1018出土の281があげられる。342は結晶片岩製の打製石庖丁で、両端に抉りがある。

時期 幅広い時期の遺物が混在するが、16世紀と考えられる。



第188図 SD1024 断面図

溝状遺構 (SD1026) (第193・194図 付図14・15)

検出場所 5区・6区  $\gamma$ -IV・O-18, 19, P-19, 20, Q-20および $\gamma$ -V・Q-1グリッド

規模・断面形態 5区ではN33°E、6区ではN47°Eを軸に南西から北東に延びる。南側はSD1024に切られている。残存する延長距離は13.00mである。最大幅1.55m、深さ0.15mを測る。断面形状は緩やかな弧状である。

土層 オリーブ褐色、暗灰黄色などの粘性砂質土を3層に細分した。

遺物出土状況 遺物は遺構検出面で出土した。

出土遺物 343は土師質土器の鍋である。344は瓦器碗の底部破片である。

時期 13世紀と考えられる。

溝状遺構 (SD1027) (第195～197図 付図14)

検出場所 5区  $\gamma$ -IV・P-18, 19グリッド

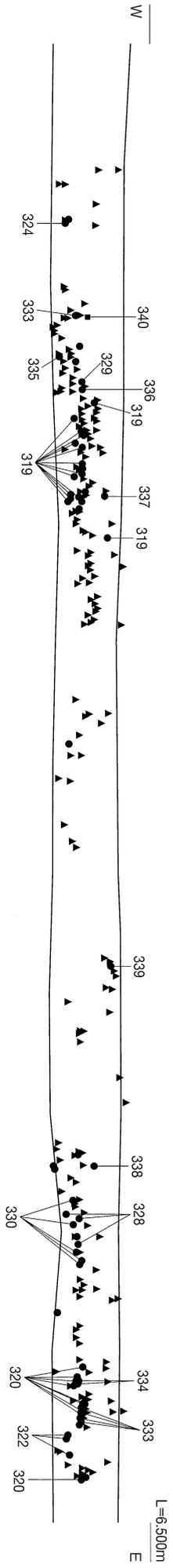
規模・断面形態 N72°Eを軸に南西から北東に延びる。東端はSD1026に切られている。残存する延長距離は4.60mである。最大幅0.50m、深さ0.20mを測る。断面形状は逆台形である。

土層 オリーブ褐色の粘性砂質土を2層に細分した。

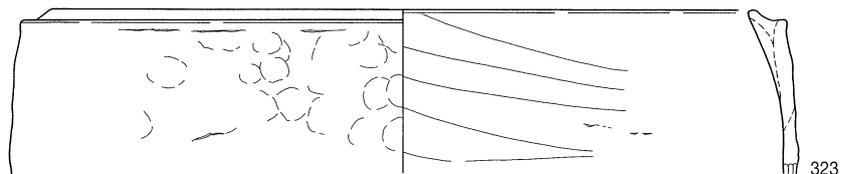
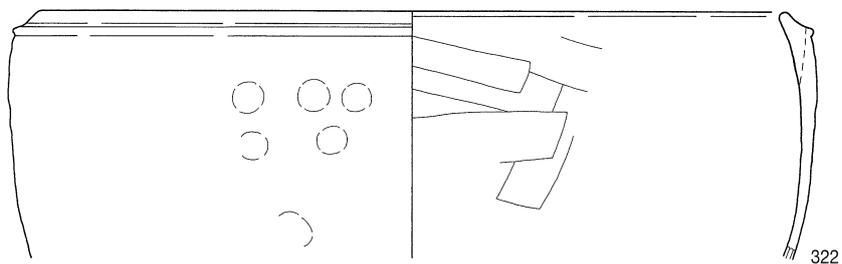
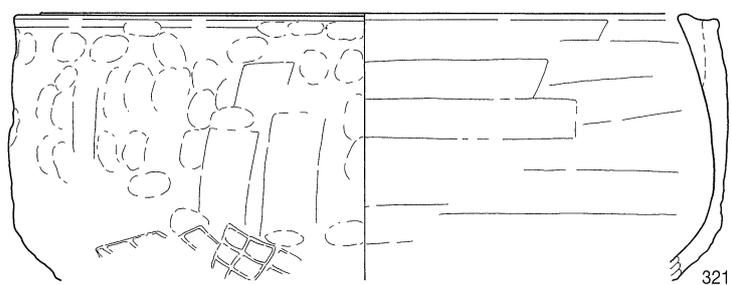
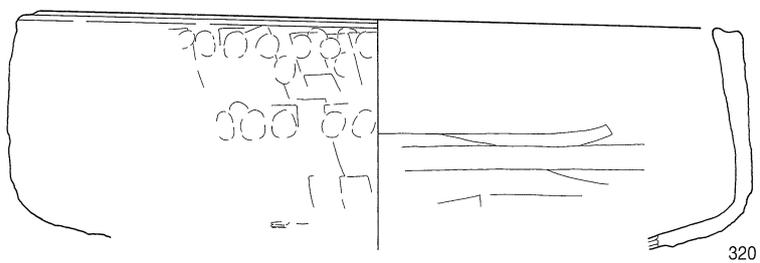
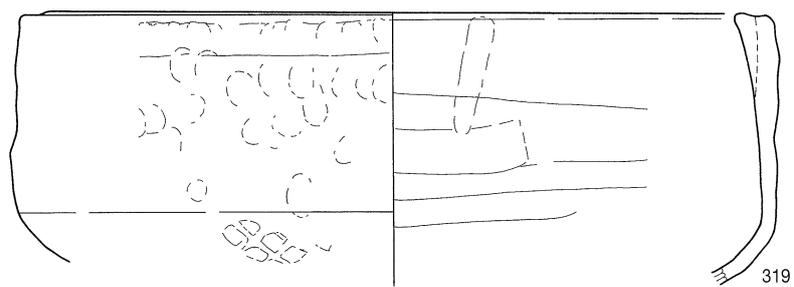
遺物出土状況 遺物は遺構検出面の直下で出土した。

出土遺物 345は和泉型瓦器碗の口縁部破片、346は底部破片である。

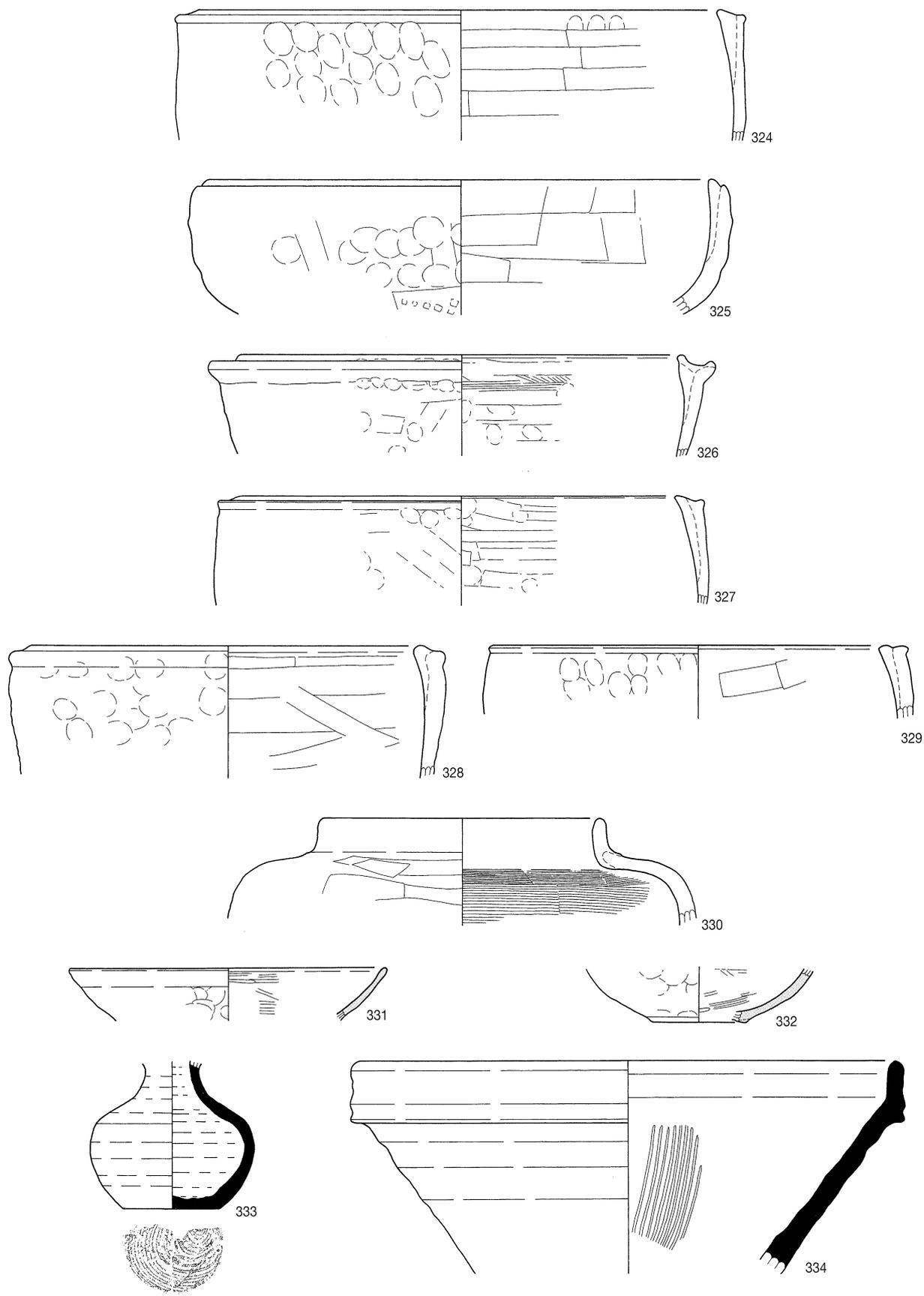
時期 12世紀後半から13世紀前半と考えられる。



第189图 SD1024 遺物出土状況图

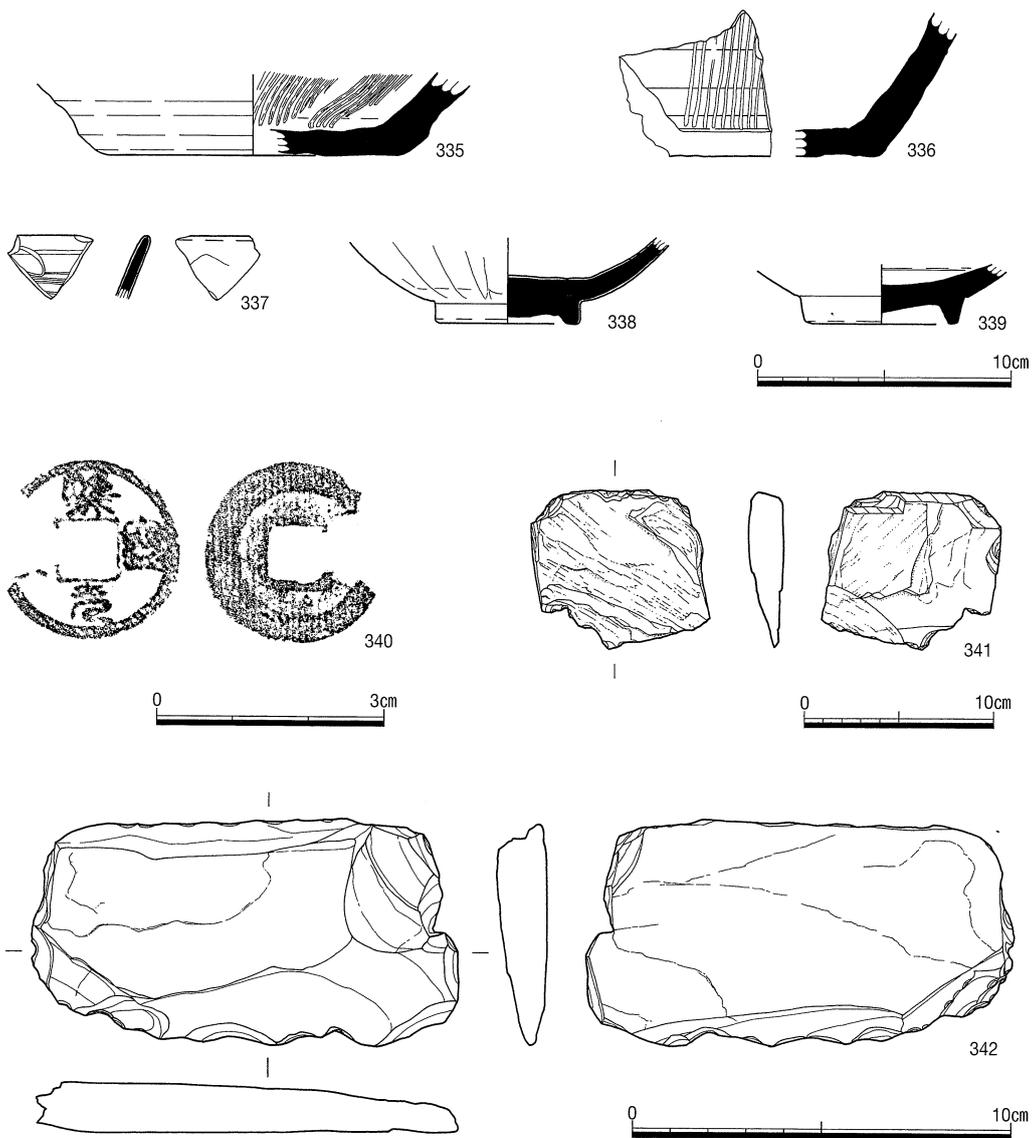


第190図 SD1024 出土遺物(1)

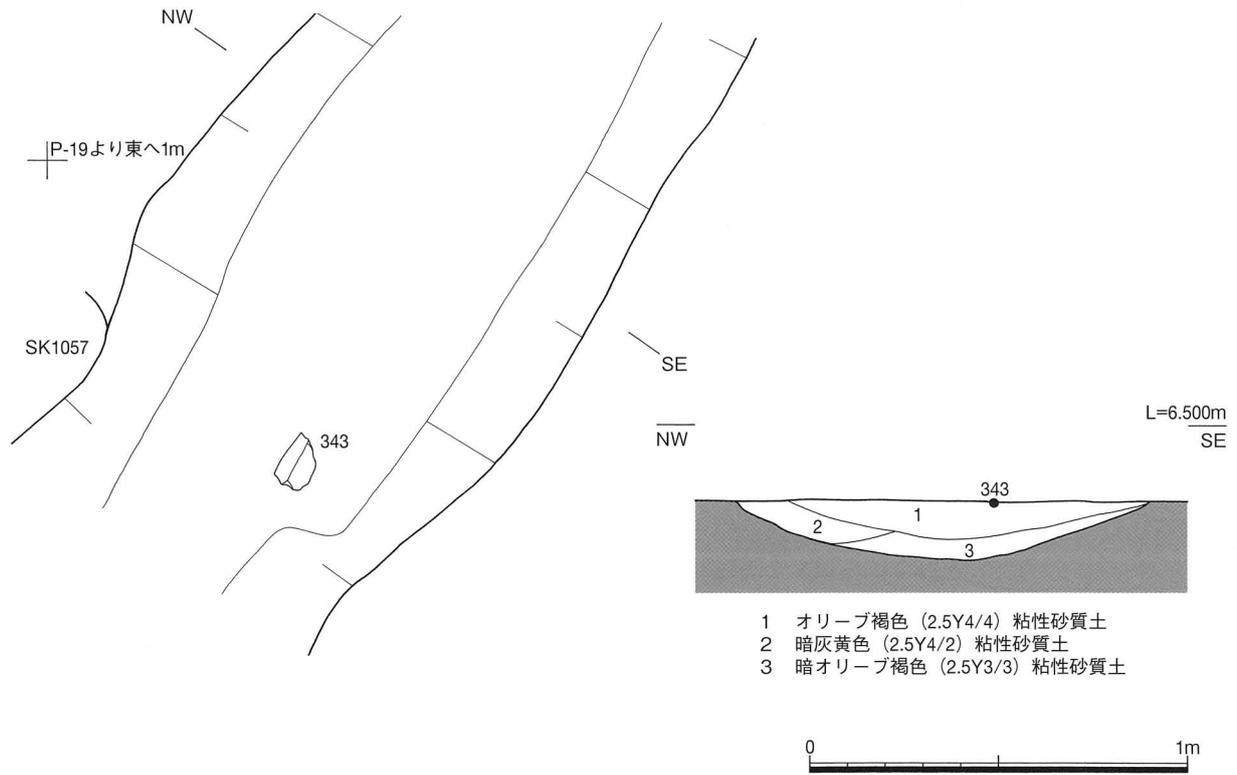


第191図 SD1024 出土遺物(2)

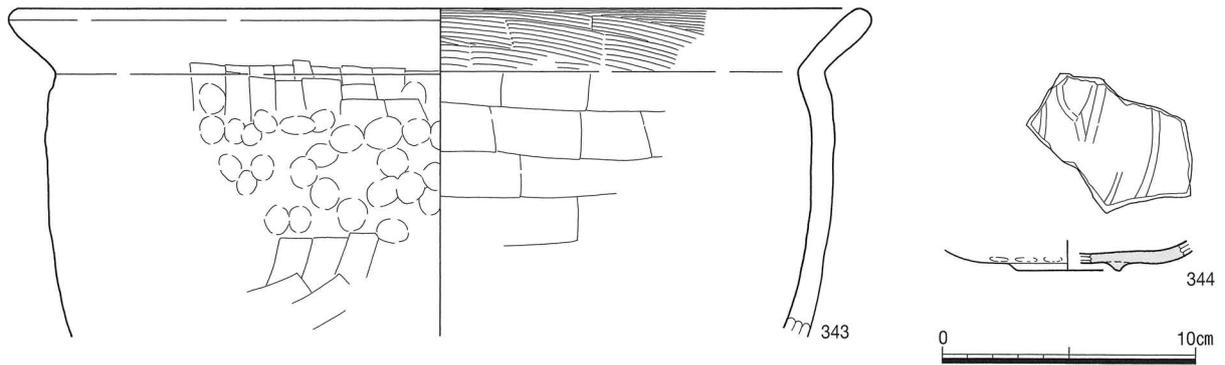
0 10cm



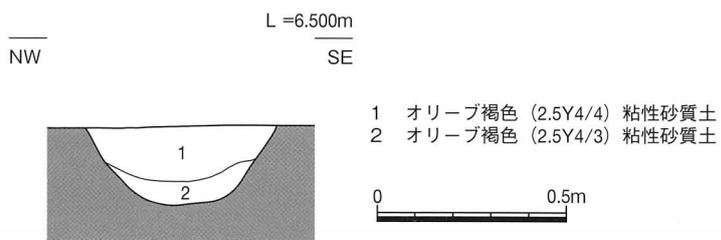
第192图 SD1024 出土遺物(3)



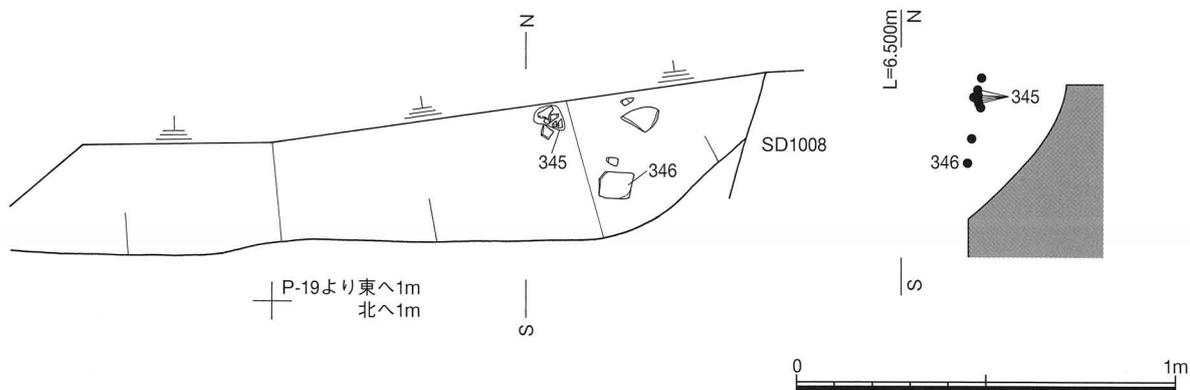
第193図 SD1026 遺物出土状況図・断面図



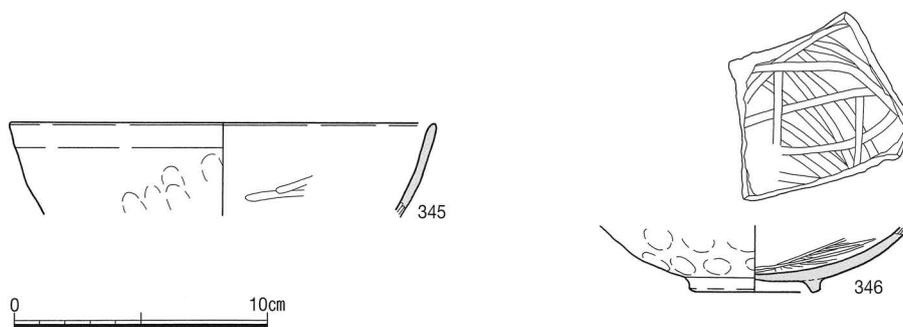
第194図 SD1026 出土遺物



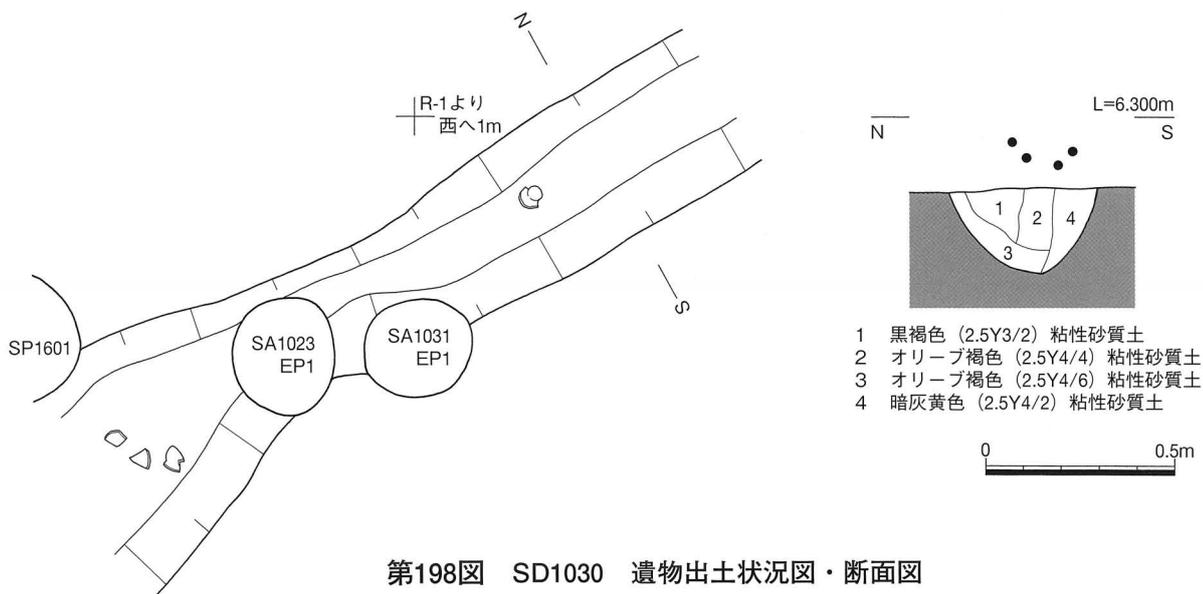
第195図 SD1027 断面図



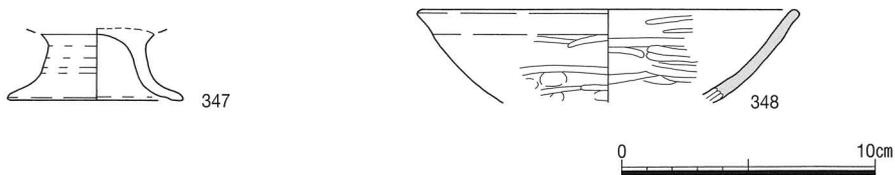
第196図 SD1027 遺物出土状況図



第197図 SD1027 出土遺物



第198図 SD1030 遺物出土状況図・断面図



第199図 SD1030 出土遺物

溝状遺構 (SD1030) (第198・199図 付図15)

検出場所 6区  $\gamma$ -IV・Q、R-20および $\gamma$ -V・R-1グリッド

規模・断面形態 N60° Eを軸に南西から北東に延びる。残存する延長距離は3.10mである。最大幅0.70m、深さ0.23mを測る。断面形状は逆三角形である。

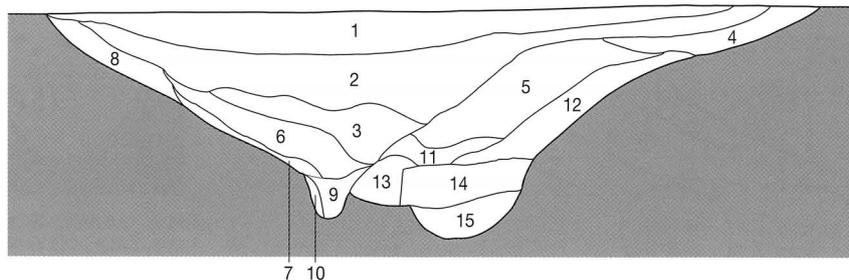
土層 黒褐色、オリーブ褐色などの粘性砂質土を4層に細分した。

遺物出土状況 遺物は遺構検出面より上位で出土した。

出土遺物 347は土師器の皿の高台部分、348は和泉型瓦器碗である。

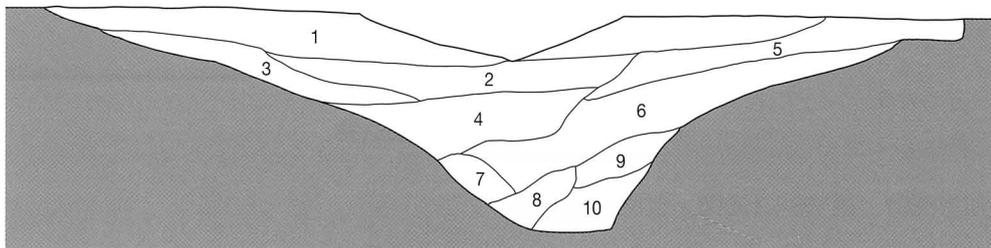
時期 12世紀後半から13世紀前半と考えられる。

A L = 6.500m  
B



- |                           |                           |
|---------------------------|---------------------------|
| 1 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 粘性砂質土 | 9 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘性砂質土    |
| 2 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘性砂質土  | 10 明黄褐色 (2.5Y6/6) 粘性砂質土   |
| 3 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粘性砂質土    | 11 黄褐色 (2.5Y5/3) 粘性砂質土    |
| 4 黄褐色 (2.5Y5/4) 粘性砂質土     | 12 黄褐色 (2.5Y5/4) 粘性砂質土    |
| 5 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 粘性砂質土  | 13 にぶい黄色 (2.5Y6/3) 粘性砂質土  |
| 6 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘性砂質土  | 14 オリーブ褐色 (2.5Y4/6) 粘性砂質土 |
| 7 オリーブ褐色 (2.5Y4/6) 粘性砂質土  | 15 オリーブ褐色 (2.5Y4/6) 粘性砂質土 |
| 8 黄褐色 (2.5Y5/6) 粘性砂質土     |                           |

C L = 6.500m  
D



- |                           |                         |
|---------------------------|-------------------------|
| 1 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 粘性砂質土 | 6 黄褐色 (2.5Y5/4) 粘性砂質土   |
| 2 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘性砂質土  | 7 にぶい黄色 (2.5Y6/3) 粘性砂質土 |
| 3 オリーブ褐色 (2.5Y4/6) 粘性砂質土  | 8 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 砂質土  |
| 4 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘性砂質土  | 9 オリーブ褐色 (2.5Y4/6) 砂質土  |
| 5 黄褐色 (2.5Y5/3) 粘性砂質土     | 10 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 砂質土 |



第200図 SD1037 断面図

溝状遺構 (SD1037) (第200～203図 付図15)

検出場所 6区 δ-IV・C-18、19、D-18、19、E-19、20およびF-20グリッド

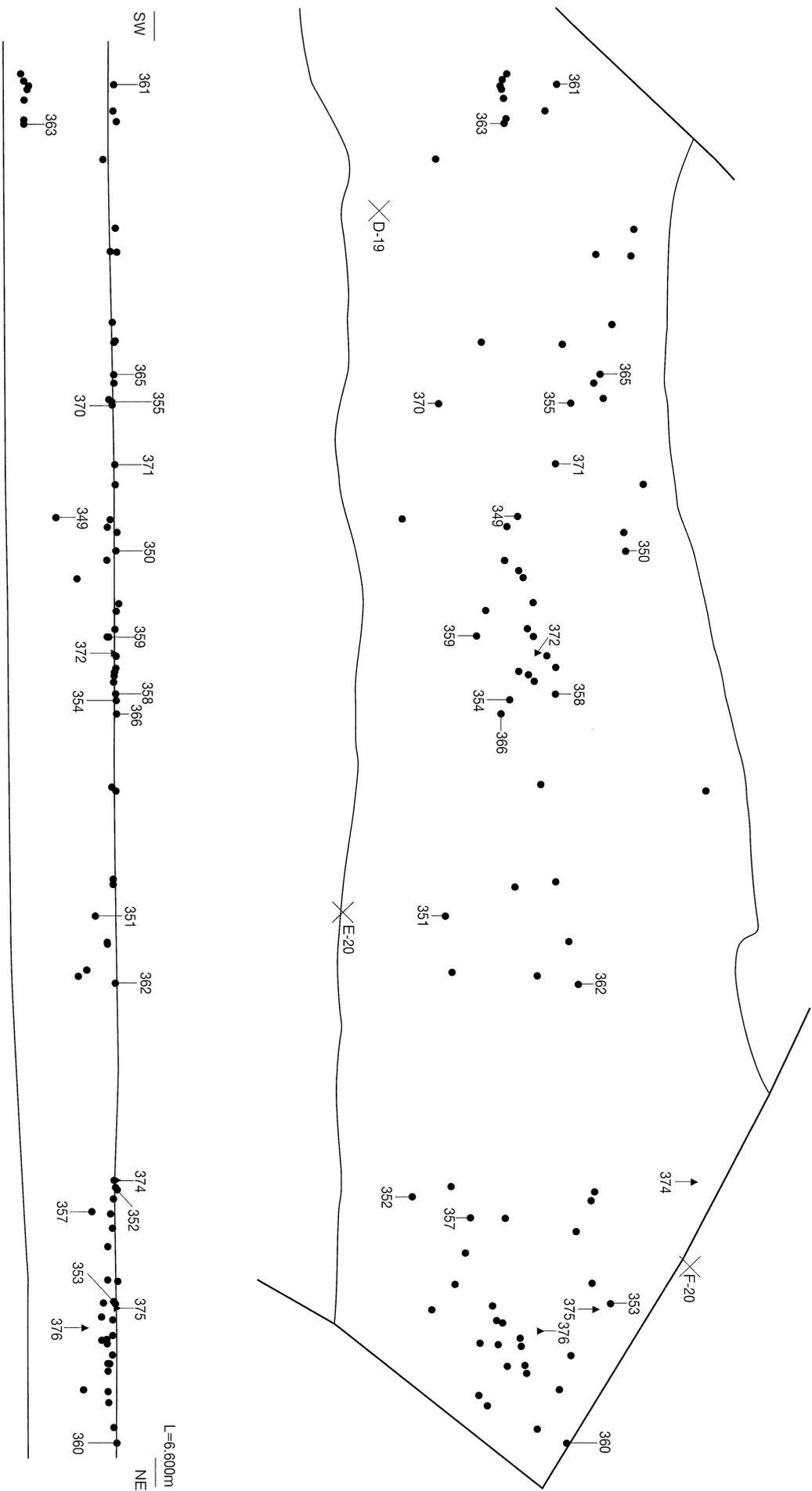
規模・断面形態 N40° Eを軸に南西から北東に延びる。残存する延長距離は14.00mである。最大幅4.40m、深さ1.20mを測る。断面形状は逆二等辺三角形である。底面の高さは、ほぼ一定である。

土層 オリーブ褐色、暗灰黄色の粘性砂質土などを15層に細分した。

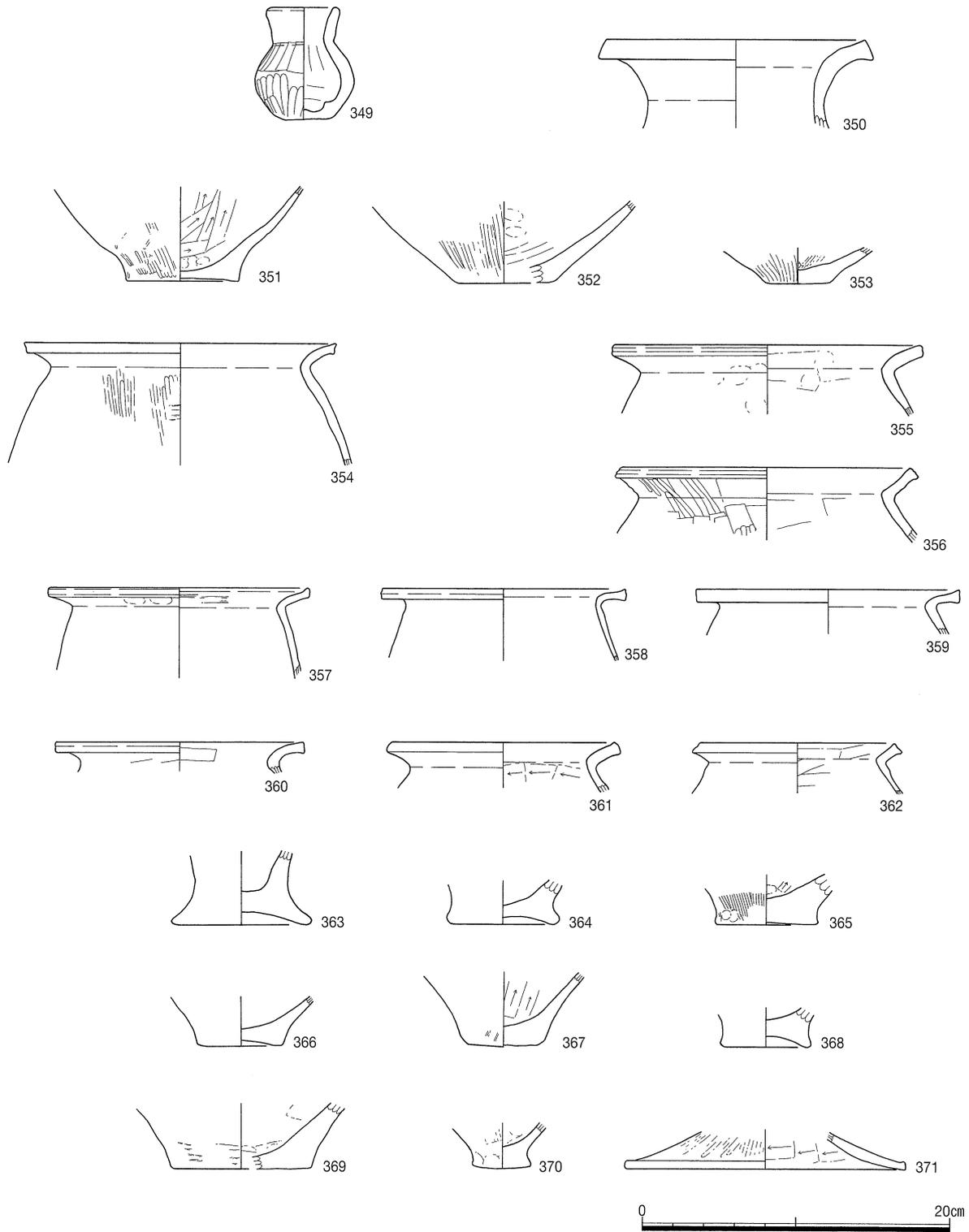
遺物出土状況 遺物の大半は遺構検出面から出土したが、南西部では、溝の下層からも出土している。

出土遺物 349～353は壺である。349はミニチュア土器か。354～369は甕である。370は鉢の底部である。371は高杯脚部である。372は石鏃である。373はサヌカイトの剥片である。374～376は敲石である。

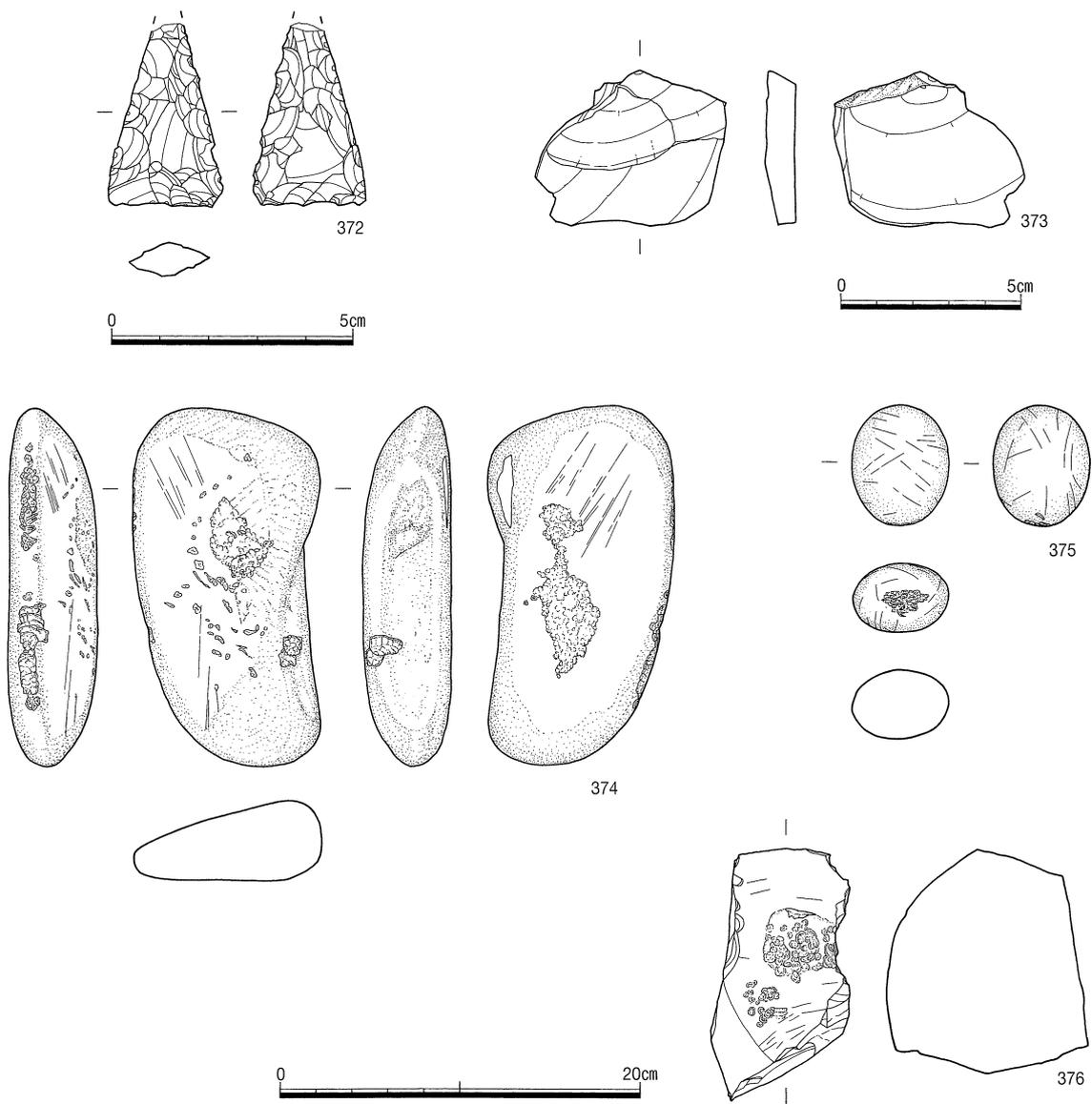
時期 弥生時代後期と考えられる。



第201图 SD1037 遺物出土状況図



第202図 SD1037 出土遺物(1)



第203図 SD1037 出土遺物(2)

溝状遺構 (SD1041) (第204・205図 付図16)

検出場所 7区 δ-IV・K-19グリッド

規模・断面形態 N68° Eを軸に南西から北東に延びる。残存する延長距離は1.70mである。最大幅0.45m、深さ0.10mを測る。断面形状は皿形である。

土層 黄褐色、オリーブ褐色の粘性砂質土を2層に細分した。

遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

出土遺物 377は土師器の皿である。

時期 11世紀から12世紀と考えられる。

溝状遺構 (SD1042) (第206・207図 付図16)

検出場所 7区 δ-IV・M-18、19およびN-18、19グリッド

規模・断面形態 N78° Eを軸に南西から北東に延びる。残存する延長距離は4.70mである。最大幅1.55m、深さ0.16mを測る。断面形状は皿形である。

土層 黒褐色、暗オリーブ褐色の粘性砂質土などを8層に細分した。

遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

出土遺物 378は和泉型瓦器碗Ⅲ-2期の口縁部破片である。

時期 13世紀前半と考えられる。

溝状遺構 (SD1043) (第208・209図 付図16)

検出場所 7区 δ-IV・N-18、19グリッド

規模・断面形態 N81° Eを軸に南西から北東に延びる。残存する延長距離は4.20mである。最大幅1.90m、深さ0.35mを測る。断面形状は皿形および逆台形である。

土層 黒褐色、暗灰黄色などの粘性砂質土を4層に細分した。

遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

出土遺物 379は瓦器碗の底部小破片である。380はサヌカイト製のスクレイパーである。

時期 中世と考えられる。

溝状遺構 (SD1044) (第210・211図 付図16)

検出場所 7区 δ-IV・O-18、19グリッド

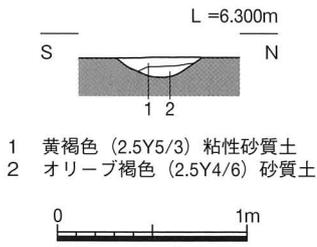
規模・断面形態 N59° Eを軸に南西から北東に延びる。残存する延長距離は4.20mである。最大幅1.20m、深さ0.40mを測る。断面形状は逆三角形および逆台形である。底面の高さは、ほぼ一定である。

土層 黒褐色、暗オリーブ褐色などの粘性砂質土を8層に細分した。

遺物出土状況 遺物は溝の南西側において、遺構検出面で出土した。

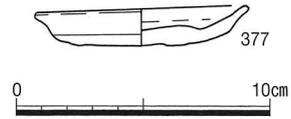
出土遺物 381、382は弥生土器の壺である。383は須恵器の杯身の小破片である。384はサヌカイト製の石剣である。

時期 弥生時代中期と考えられる。

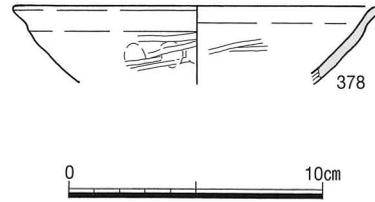
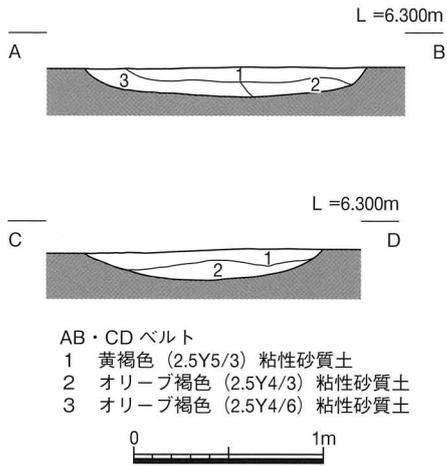


- 1 黄褐色 (2.5Y5/3) 粘性砂質土
- 2 オリーブ褐色 (2.5Y4/6) 砂質土

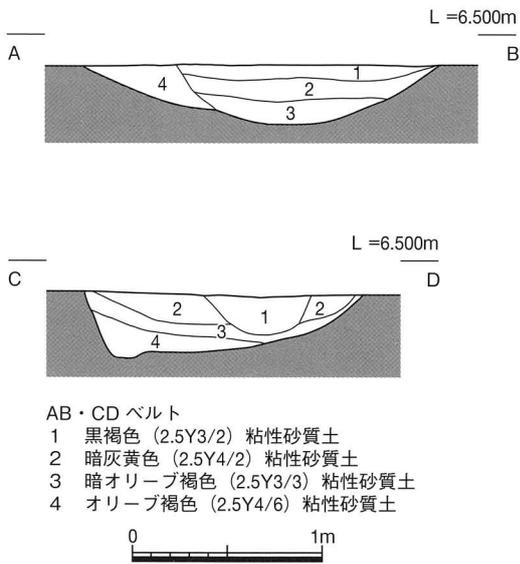
第204図 SD1041 断面図



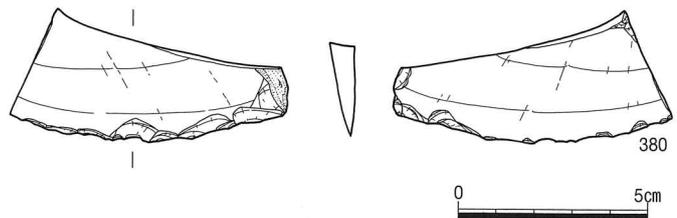
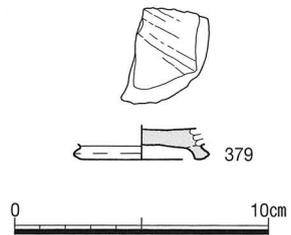
第205図 SD1041 出土遺物



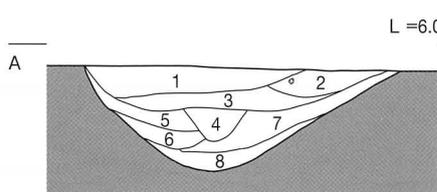
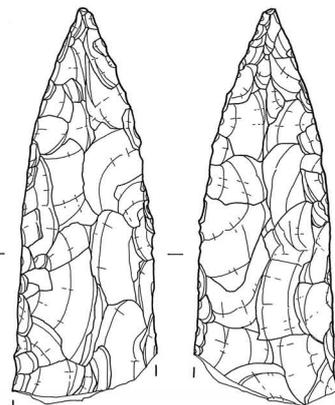
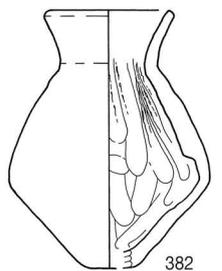
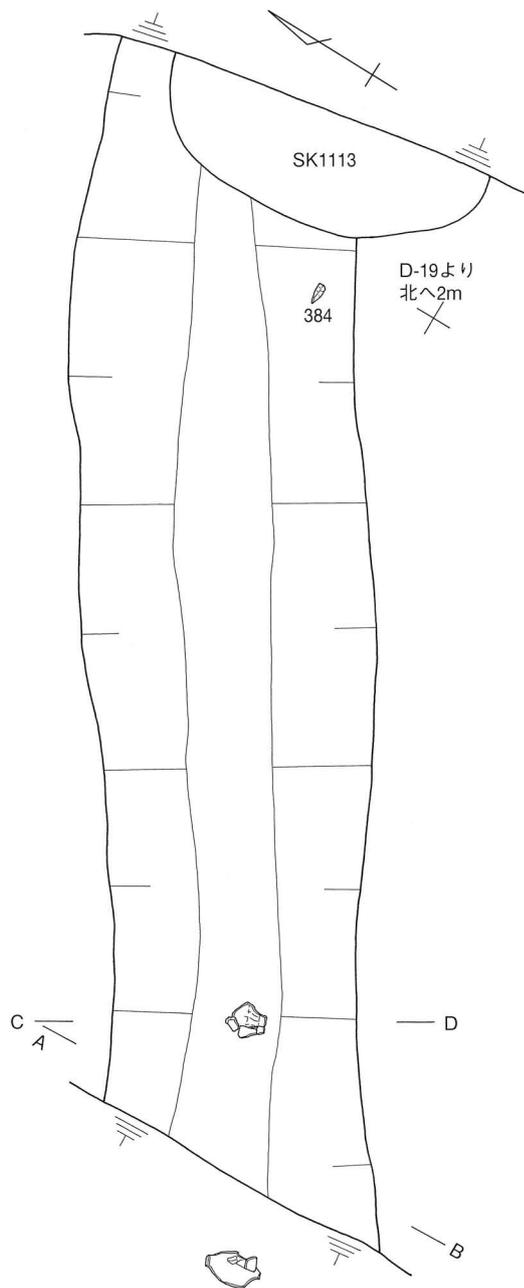
第207図 SD1042 出土遺物



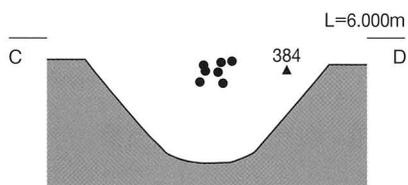
第208図 SD1043 断面図



第209図 SD1043 出土遺物



L=6.000m



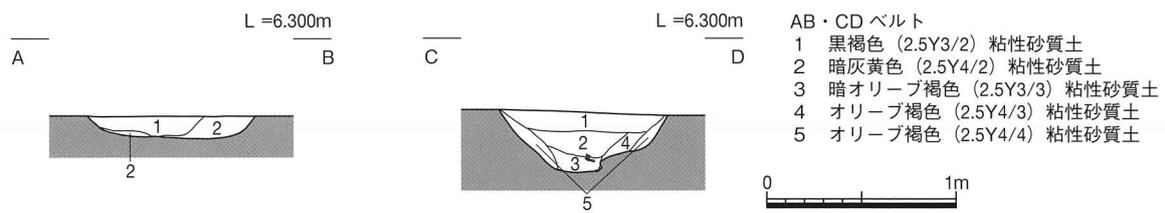
L=6.000m

- 1 黒褐色 (2.5Y3/2)  
粘性砂質土
- 2 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3)  
粘性砂質土
- 3 暗灰黄色 (2.5Y4/2)  
粘性砂質土
- 4 黒褐色 (2.5Y3/1)  
粘性砂質土
- 5 オリーブ褐色 (2.5Y4/3)  
粘性砂質土
- 6 オリーブ褐色 (2.5Y4/4)  
粘性砂質土
- 7 黄褐色 (2.5Y5/3)  
粘性砂質土
- 8 オリーブ褐色 (2.5Y4/6)  
粘性砂質土

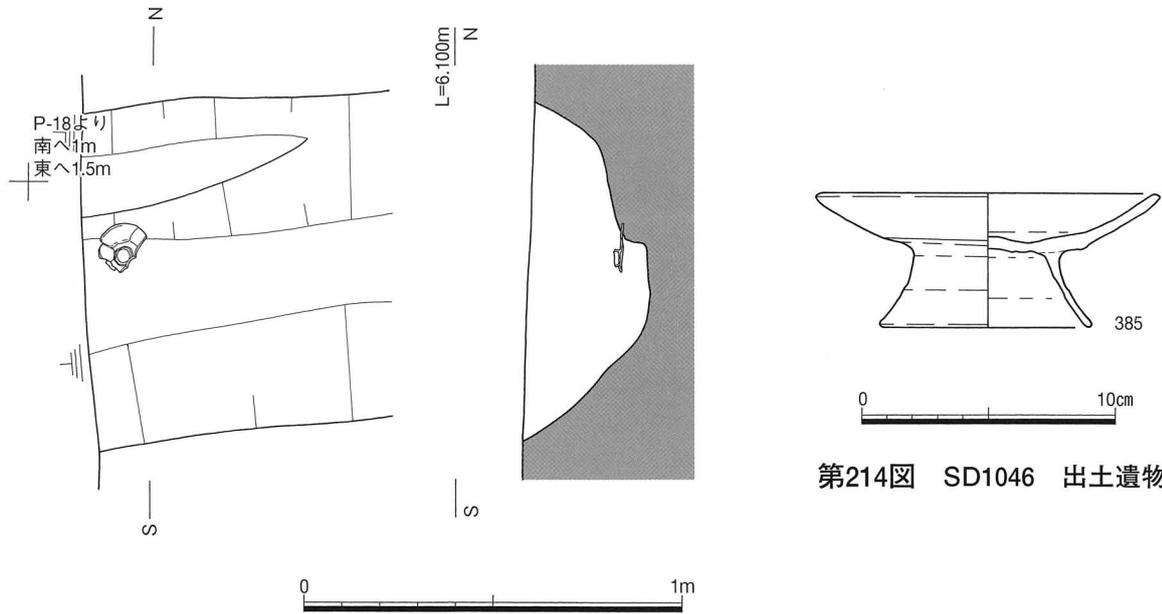


第211図 SD1044 出土遺物

第210図 SD1044 遺物出土状況図・断面図



第212図 SD1046 断面図



第213図 SD1046 遺物出土状況図

第214図 SD1046 出土遺物

溝状遺構 (SD1046) (第212～214図 付図16)

検出場所 7区 δ-IV・O-18、19グリッド

規模・断面形態 N81°Eを軸に南西から北東に延びる。残存する延長距離は3.55mである。最大幅0.90m、深さ0.32mを測る。断面形状は皿形および不整な逆台形である。底面の高さは西側(CD)が深く、東から西への流れと推測される。

土層 黒褐色、暗灰黄色などの粘性砂質土を5層に細分した。

遺物出土状況 遺物は溝の西側で、最下層の3層上面で出土した。

出土遺物 385は土師器の高台付きの皿である。

時期 13世紀と考えられる。